

新温泉町民の男女共同参画に関する  
意識調査報告書

令和3（2021）年11月

新温泉町

# 目 次

## I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
3. 調査票の回収	1
4. 報告書の見方	2

## II 回答者の属性

1. 性別	2
2. 年齢	2
3. 結婚経験の有無	3
4. 職業	4
5. 配偶者の職業	5
6. 世帯構成	6

## III 調査の結果

1. 男女平等の意識について	7
2. 政策・方針決定過程への参画について	20
3. 家庭での男女の役割分担について	28
4. 女性に対する暴力について	44
5. 男女共同参画社会の実現について	56

IV 調査票	72
--------	----

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

家庭や地域、職場などにおける男女平等に関する町民の意識や実態を把握し、令和4年度以降の本町男女共同参画社会プラン策定のための基礎資料とするとともに、今後の施策を推進していくため、新温泉町民の男女共同参画に関する意識調査を実施しました。

## 2. 調査の方法

調査期間 令和3年7月15日（木）～7月30日（金）  
 調査対象 令和3年7月1日現在、町内在住の満18歳以上の男女  
 標本数 男性300人、女性300人 計600人  
 標本抽出 住民基本台帳より年代別無作為抽出（地域別に人口按分）  
 調査方法 郵送による調査票の配布・回収

## 3. 調査票の回収

回収数 221  
 回収率 36.8%  
 内訳 女性 127人（回収率42.3%）  
       男性 85人（回収率28.3%）  
       ※性別無回答者 9人

回収票の年代構成

項目	全体		女性		男性		性別不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
10代	10	4.5%	5	3.9%	5	5.9%	0	0.0%
20代	14	6.3%	11	8.7%	3	3.5%	0	0.0%
30代	19	8.6%	11	8.7%	8	9.4%	0	0.0%
40代	27	12.2%	14	11.0%	13	15.3%	0	0.0%
50代	37	16.7%	23	18.1%	14	16.5%	0	0.0%
60代	39	17.6%	21	16.5%	18	21.2%	0	0.0%
70代	39	17.6%	27	21.3%	12	14.1%	0	0.0%
80代以上	27	12.2%	15	11.8%	12	14.1%	0	0.0%
不明	9	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	9	100.0%
サンプル数	221		127		85		9	

標本数に対する年代別回収率

項目	女性		男性		計	
	配布数	%	配布数	(%)	配布数	(%)
10代	20	25.0%	20	25.0%	40	25.0%
20代	40	27.5%	40	7.5%	80	17.5%
30代	40	27.5%	40	20.0%	80	23.8%
40代	40	35.0%	40	32.5%	80	33.8%
50代	40	57.5%	40	35.0%	80	46.3%
60代	40	52.5%	40	45.0%	80	48.8%
70代	40	67.5%	40	30.0%	80	48.8%
80代以上	40	37.5%	40	30.0%	80	33.8%
不明						(1.5%)
合計	300	42.3%	300	28.3%	600	36.80%

## 4. 報告書の見方

集計結果で示す数値は、百分率（%）で表示した。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値は100%とならない場合がある。

## Ⅱ 回答者の属性

### 問1. 性別

項目	件数	%
女性	127	57.5%
男性	85	38.5%
無回答	9	4.1%
サンプル数	221	

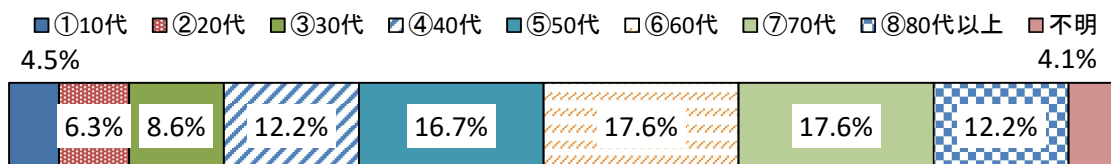
全体(221人)



### 問2. 年齢

項目	件数	%
10代	10	4.5%
20代	14	6.3%
30代	19	8.6%
40代	27	12.2%
50代	37	16.7%
60代	39	17.6%
70代	39	17.6%
80代以上	27	12.2%
不明	9	4.1%
サンプル数	221	

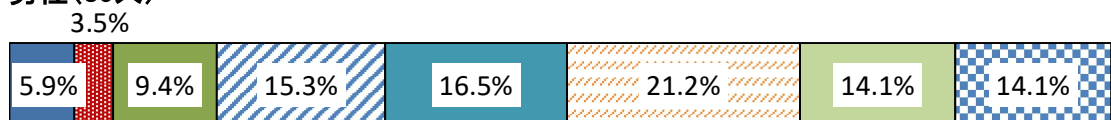
全体(221人)



女性(127人)



男性(85人)





### 問3. 結婚経験の有無

全体(221人)



女性(127人)



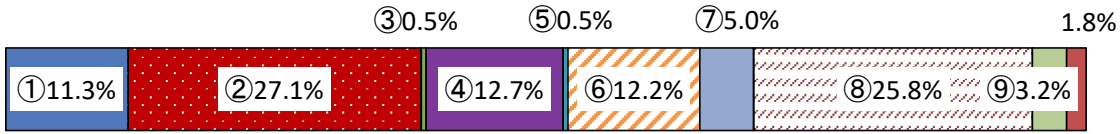
男性(85人)



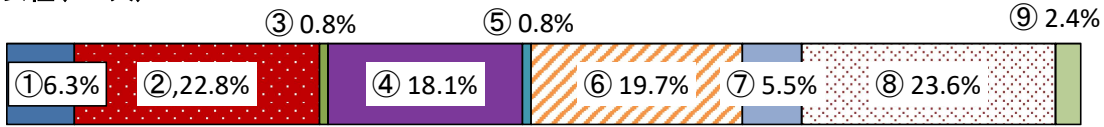
#### 問4. 職業

全体(221人)

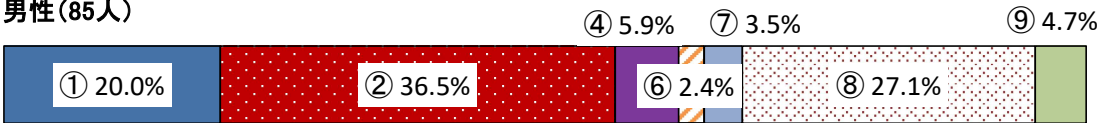
- ①自営業
- ②常勤
- ③自由業
- ④パート
- ⑤内職
- ⑥専業主婦
- ⑦学生
- ⑧無職
- ⑨その他
- 無回答



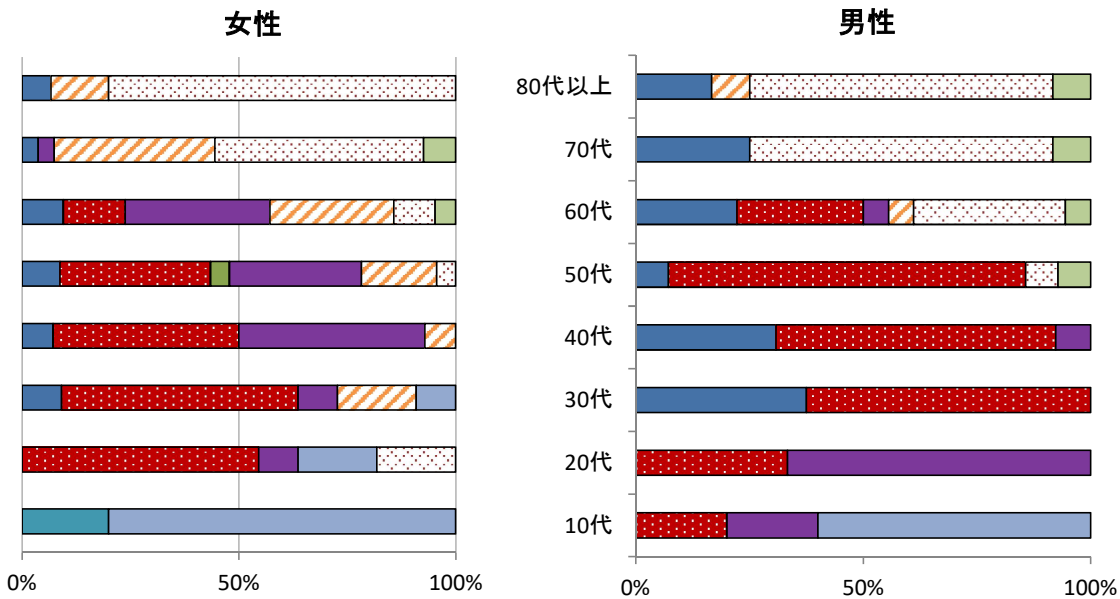
女性(127人)



男性(85人)



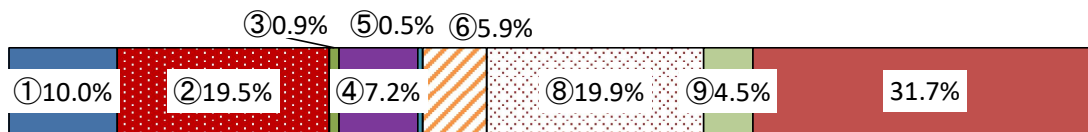
年代別



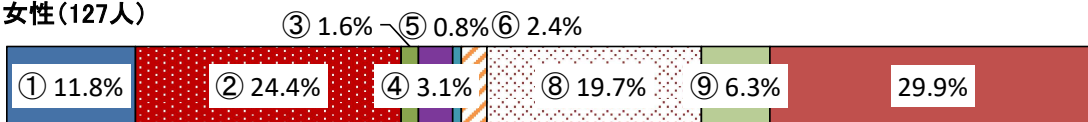
## 問5. 配偶者の職業

全体(221人)

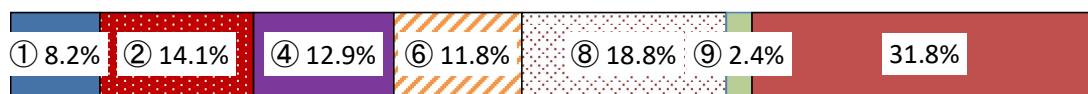
- ①自営業
- ②常勤
- ③自由業
- ④パート
- ⑤内職
- ⑥専業主婦
- ⑦学生
- ⑧無職
- ⑨その他
- 無回答



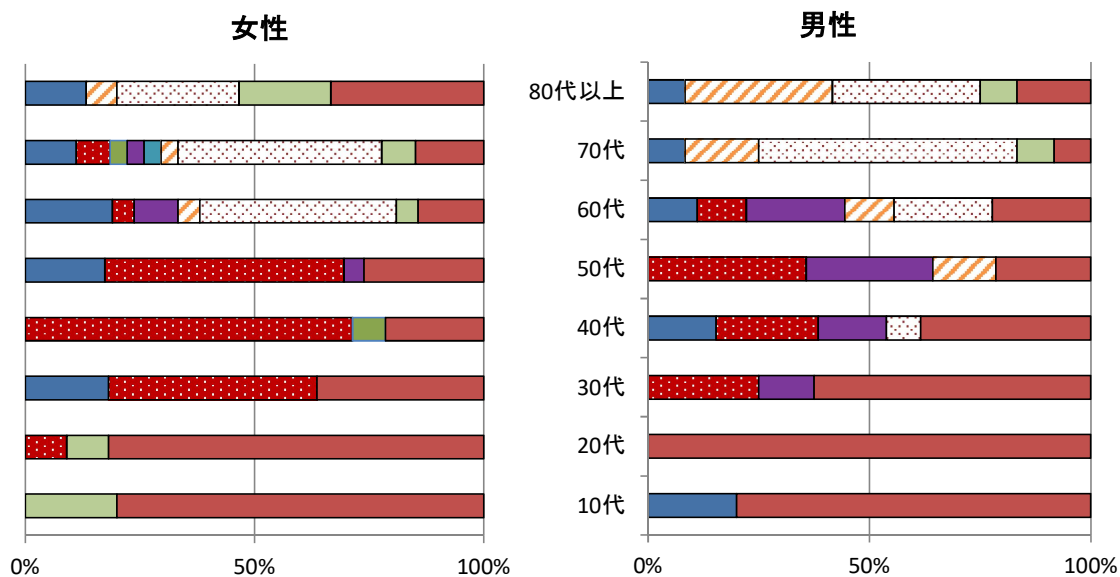
女性(127人)



男性(85人)



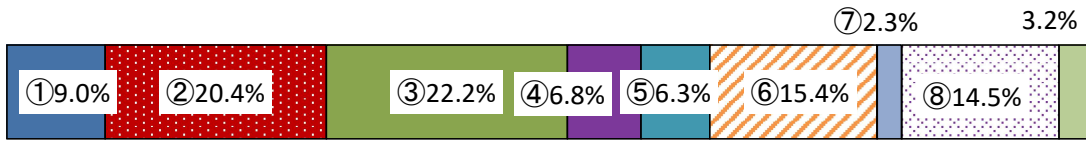
年代別



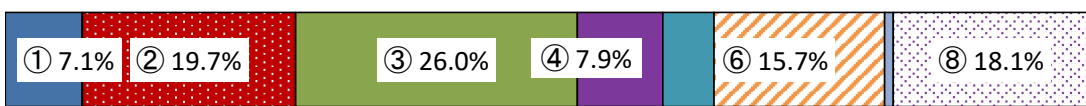
## 問6. 世帯構成

全体(221人)

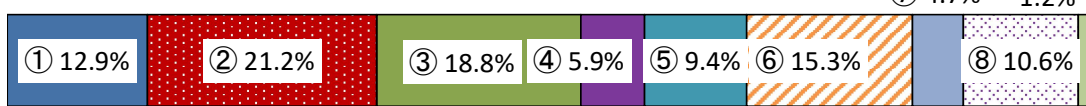
- ①一人暮らし
- ②夫婦
- ③夫婦と子
- ④一人親と子
- ⑤夫婦と親
- ⑥夫婦と親と子
- ⑦祖父母と孫
- ⑧その他
- 無回答



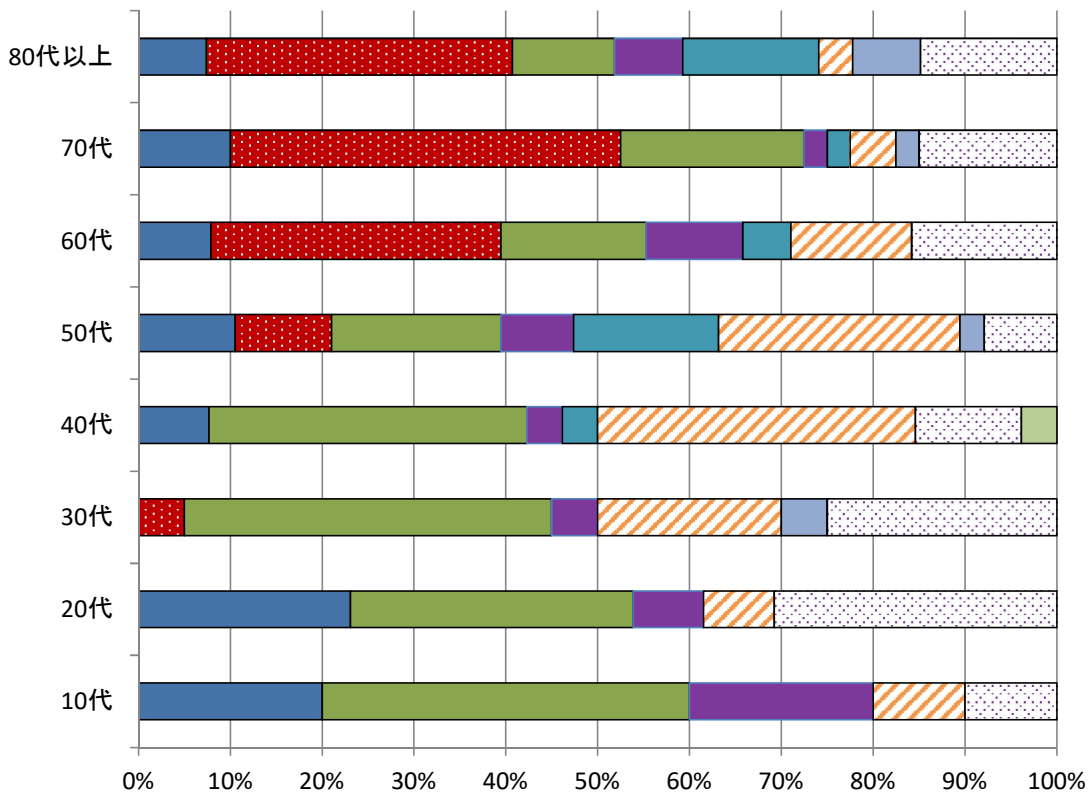
女性(127人)



男性(85人)



年代別



### Ⅲ 調査の結果

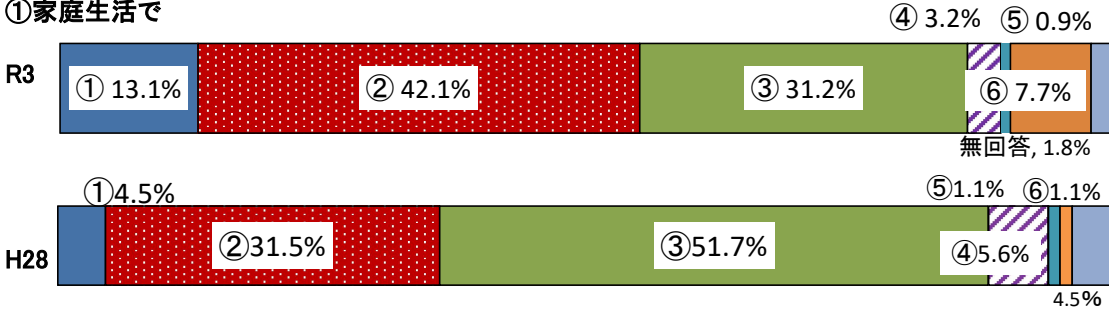
#### 1. 男女平等の意識について

問7 あなたは、次のような各分野で、男女が平等になっていると思いますか。  
(分野ごとに〇は1つ)

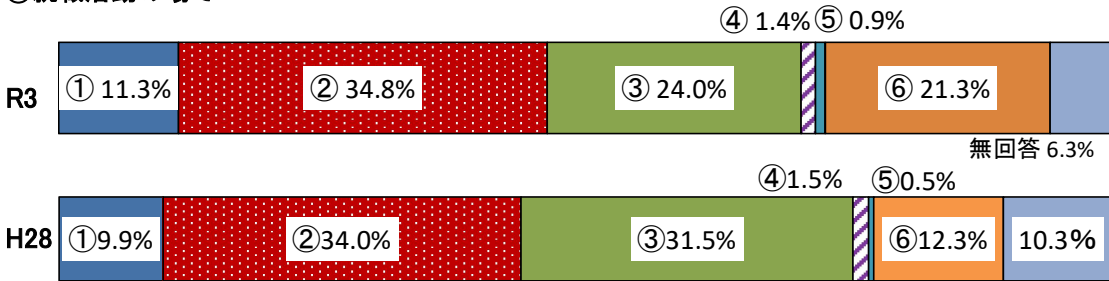
項目別前回比較

- ①男性が優遇されている
- ②どちらかと言えば男性が優遇されている
- ③平等である
- ④どちらかと言えば女性が優遇されている
- ⑤女性が優遇されている
- ⑥わからない
- 無回答

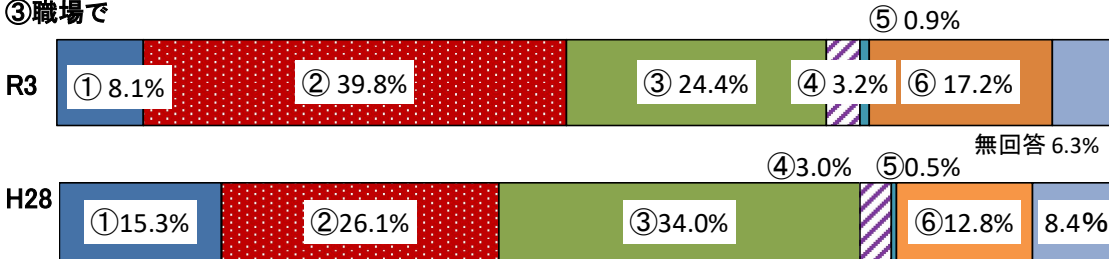
#### ①家庭生活で



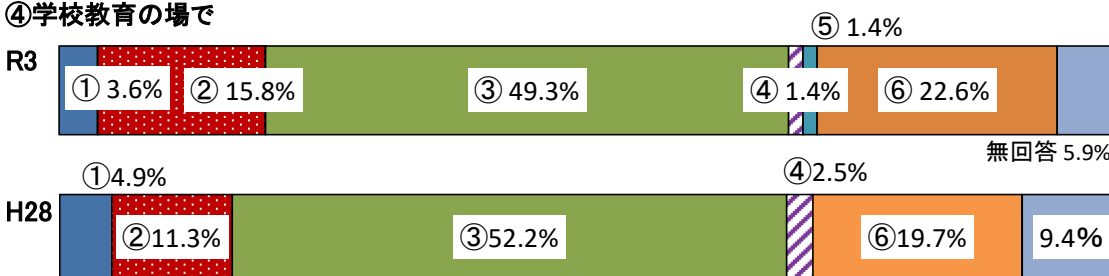
#### ②就職活動の場で



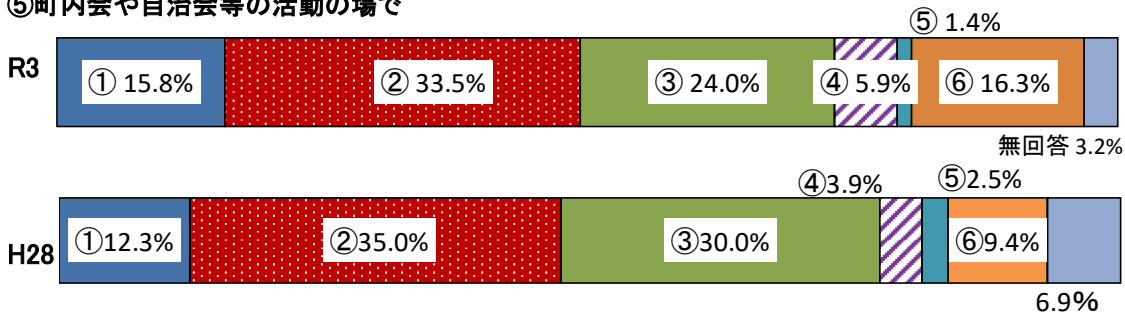
#### ③職場で



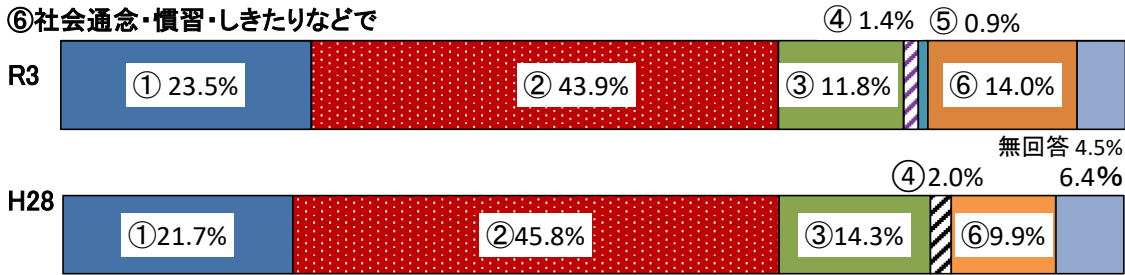
#### ④学校教育の場で



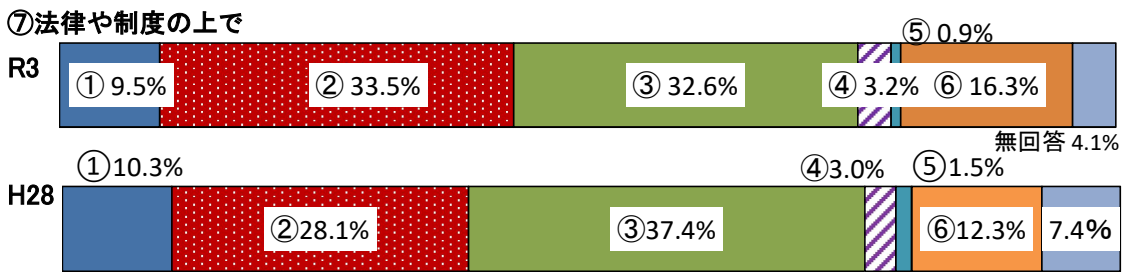
⑤町内会や自治会等の活動の場で



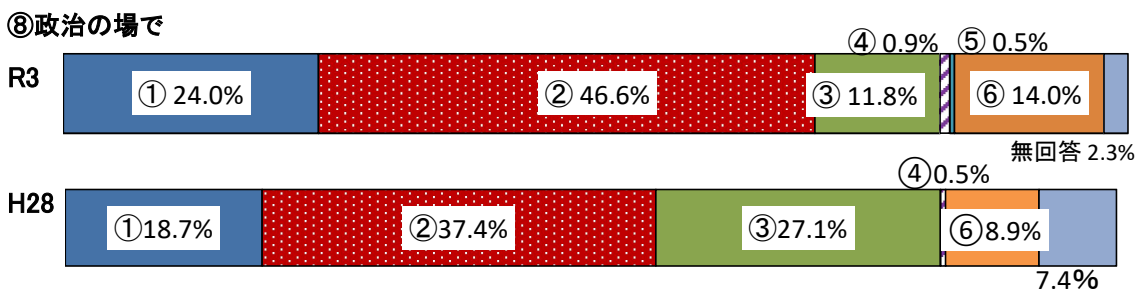
⑥社会通念・慣習・しきたりなどで



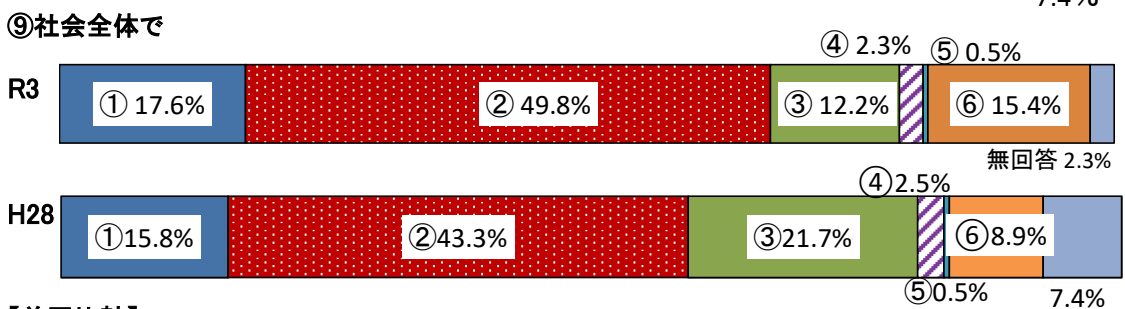
⑦法律や制度の上で



⑧政治の場で



⑨社会全体で

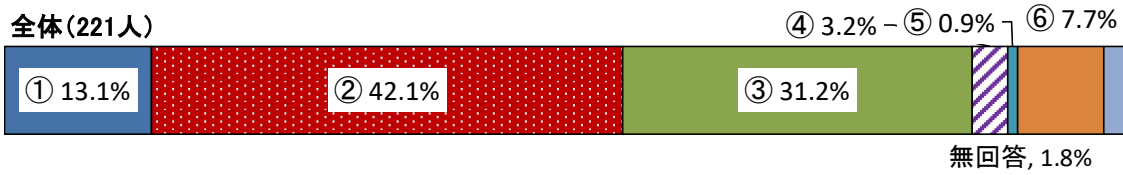


【前回比較】

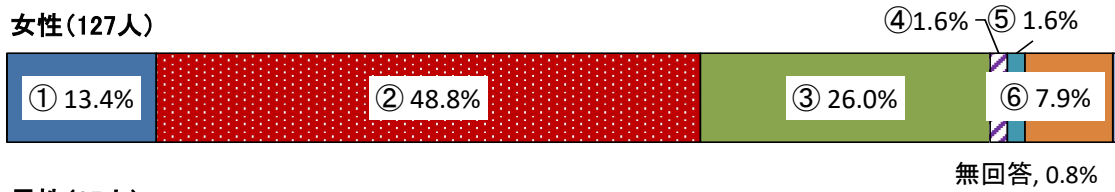
それぞれの分野での男女平等について、男性が優遇されている(計)と答えた人が前回調査より増えている。特に「家庭生活」「職場」「政治の場」の各分野と「社会全体」について、「男性のほうが女性より優遇されている」の割合が、大きく高くなり、「平等である」の割合が低くなっている。

①家庭生活で

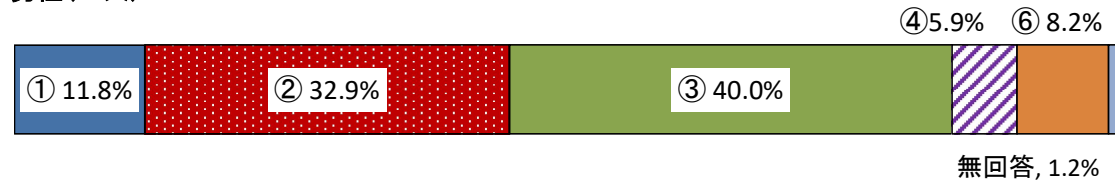
全体(221人)



女性(127人)

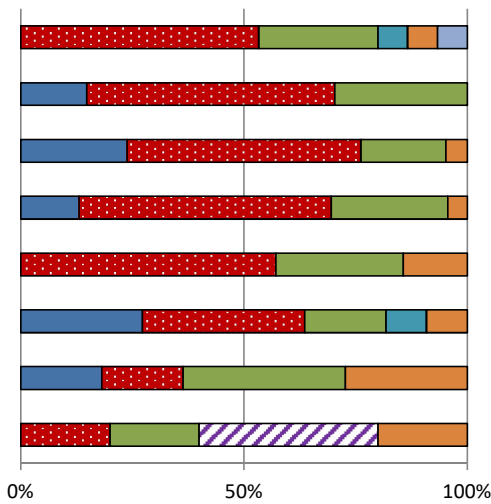


男性(85人)

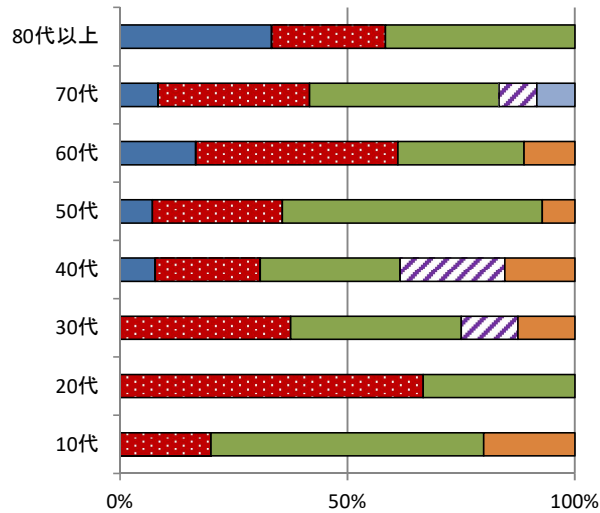


年代別

女性



男性



【全体】

家庭生活において「平等」と感じている人の割合は31.2%、「男性が優遇(計)」は55.2%、「女性が優遇(計)」4.1%となっている。

【性別】

「平等」と感じている人の割合は、男性が40.2%であるのに対し、女性は26.0%となっている。「男性の方が優遇(計)」と答えた人は、男性の44.7%に対し女性が62.2%となっている。

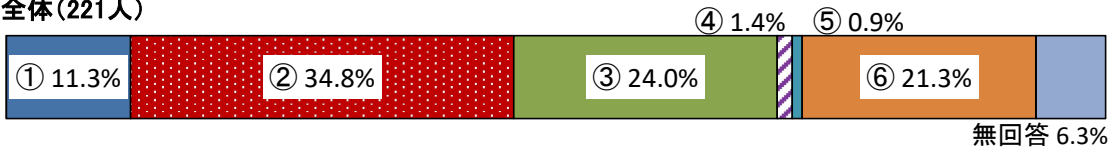
【年代別】

女性では年代が上がるにつれて「男性が優遇(計)」の人が多くなる傾向である。

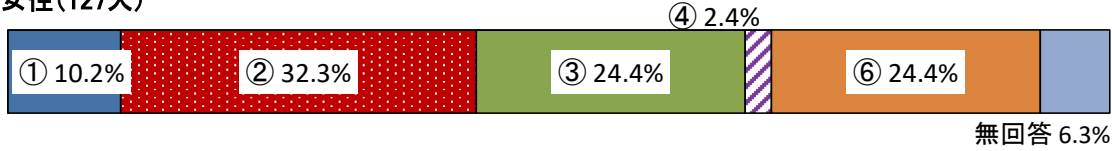


②就職活動の場で

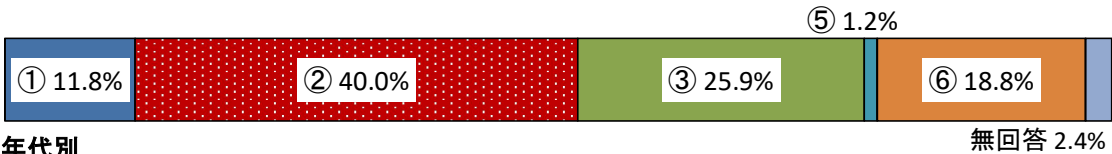
全体(221人)



女性(127人)

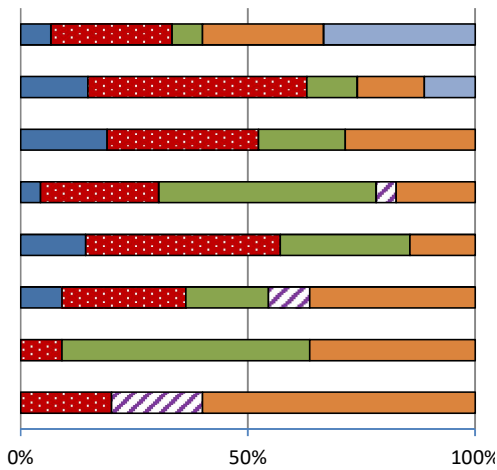


男性(85人)

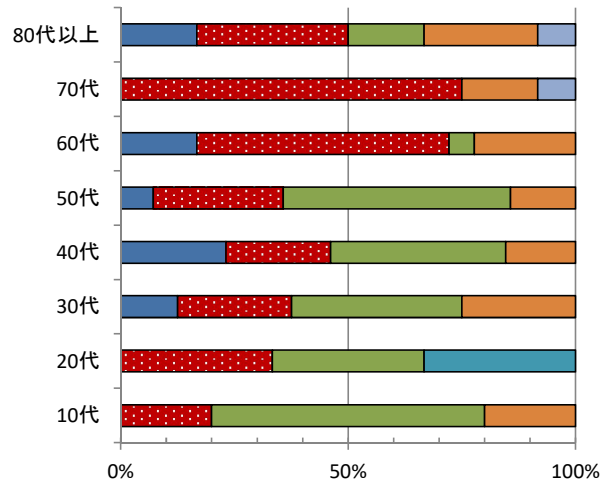


年代別

女性



男性



【全体】

就職活動の場において「平等」と感じている人の割合は24.0%、「男性が優遇(計)」は46.1% 「女性が優遇(計)」2.3%となっている。

【性別】

「男性が優遇(計)」と答えた人は男性51.8%に対し、女性が42.5%となっている。

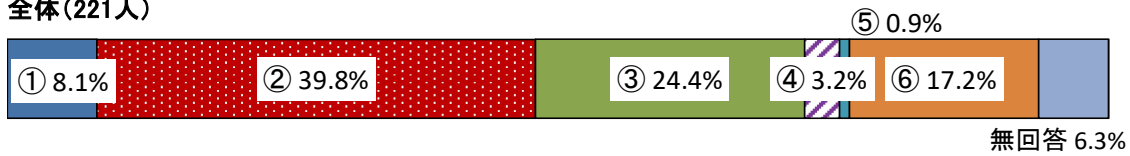
【年齢別】

「平等」と感じている人の割合が最も高い年代は、男女ともに20歳代であった。男性では60代以上は「女性が優遇」と答えた人の割合が高い。

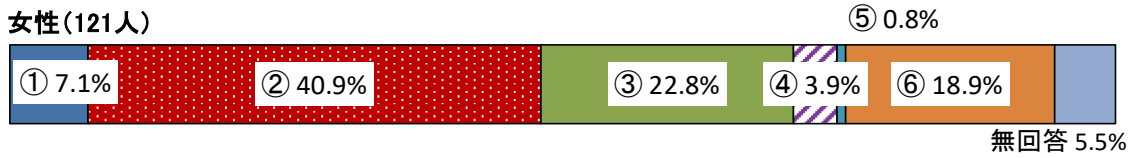


③職場で

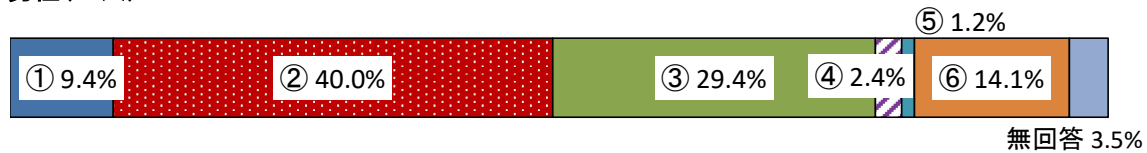
全体(221人)



女性(121人)

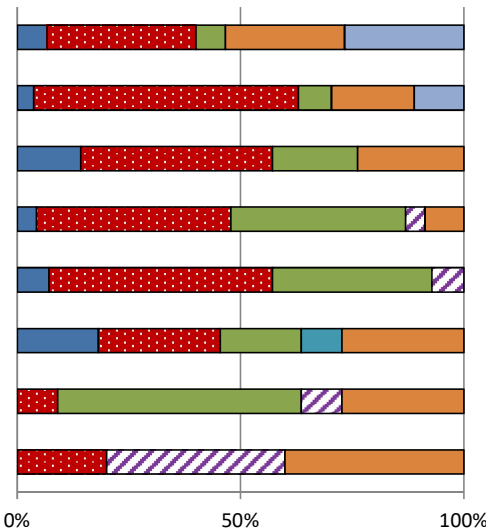


男性(85人)

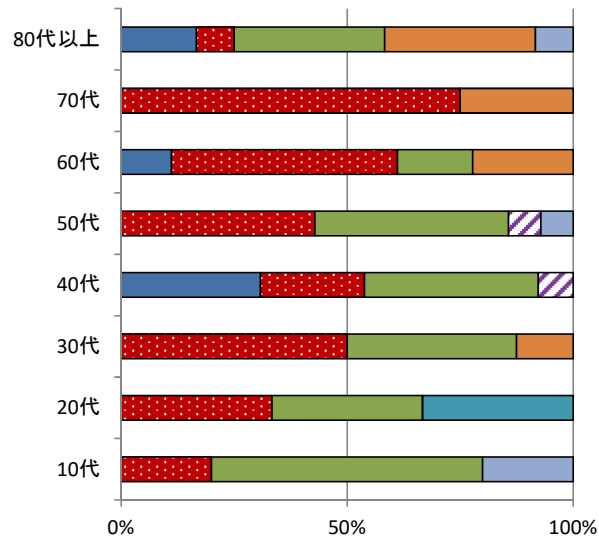


年代別

女性



男性



【全体】

職場において「平等」と感じている人の割合は24.4%、「男性が優遇(計)」は47.9%、「女性が優遇(計)」4.1%、となっている。

【性別】

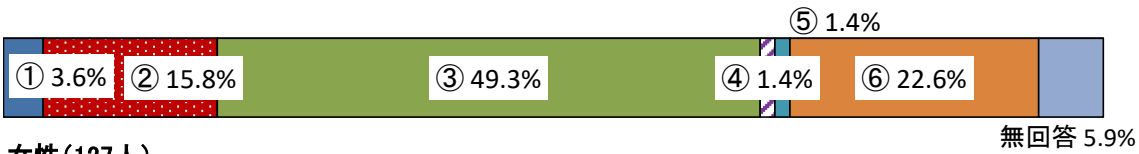
「平等」と感じている人の割合は、男性が29.4%であるのに対して、女性は22.8%となっている。「男性の方が優遇(計)」と答えた人は、男性の49.4%に対し女性が48.0%となっている。

【年齢別】

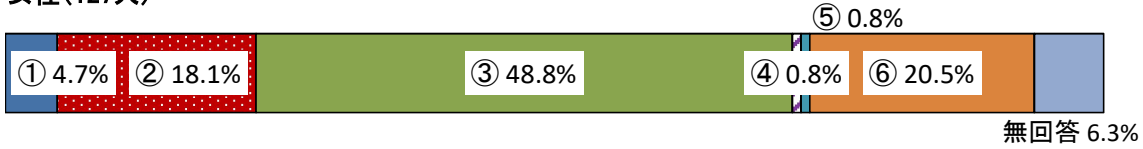
「平等」と感じている人の割合が最も高い年代は、男性は10代女性は20歳代であった。

#### ④学校教育の場で

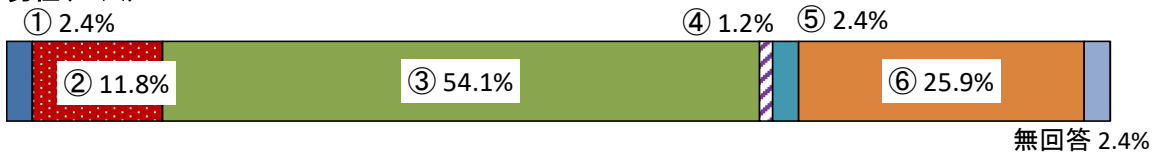
全体(221人)



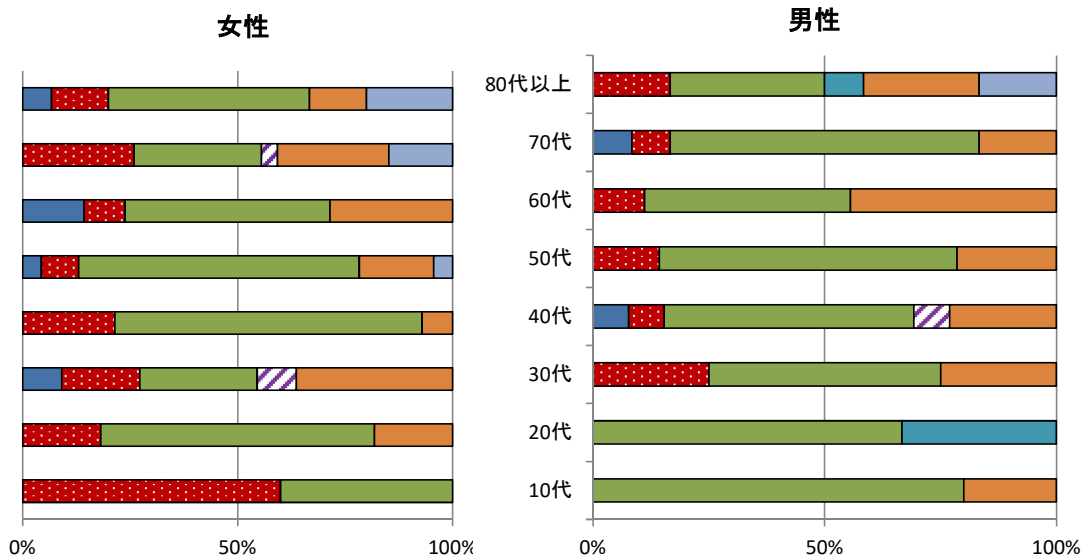
女性(127人)



男性(85人)



年代別



#### 【全体】

学校教育において「平等」と感じている人の割合は49.3%、「男性が優遇(計)」は19.4%で、「女性が優遇(計)」2.8%、となっている。

#### 【性別】

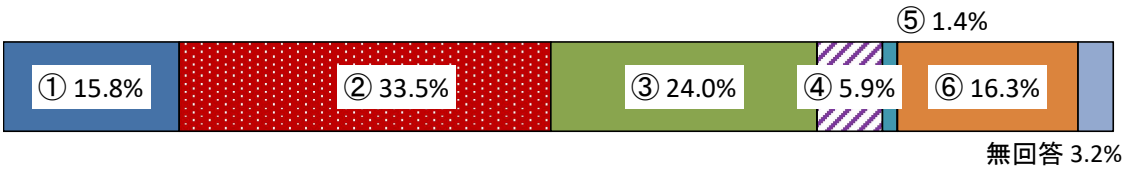
「平等」と感じている人の割合は、男性が54.1%であるのに対し、女性は48.8%となっている。また、「男性が優遇(計)」と答えた人は、男性の14.2%に対し女性が22.8%となっている。

#### 【年齢別】

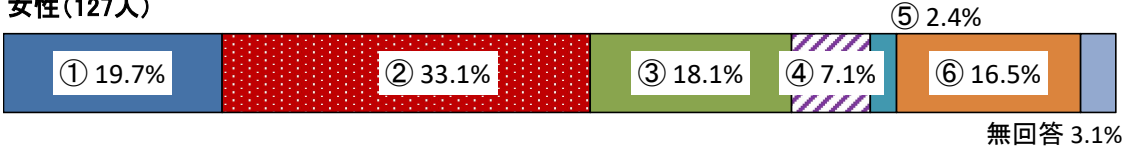
10代女性以外「平等」と感じている人の割合が最も高い。「男性が優遇(計)」と答えた人の割合が女性では10歳代に多く、男性では20歳代で「女性が優遇」と答えた人の割合が多い。

⑤町内会や自治会等の活動の場で

全体(221人)



女性(127人)

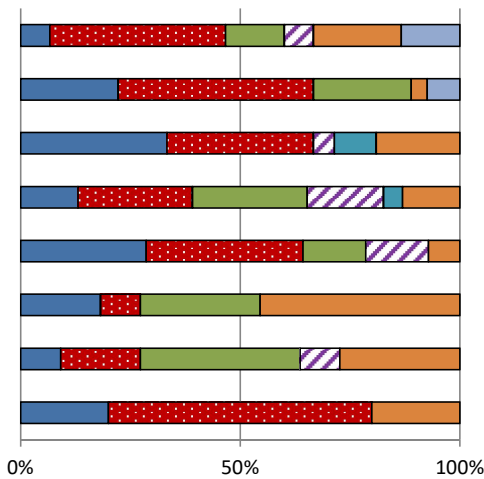


男性(85人)

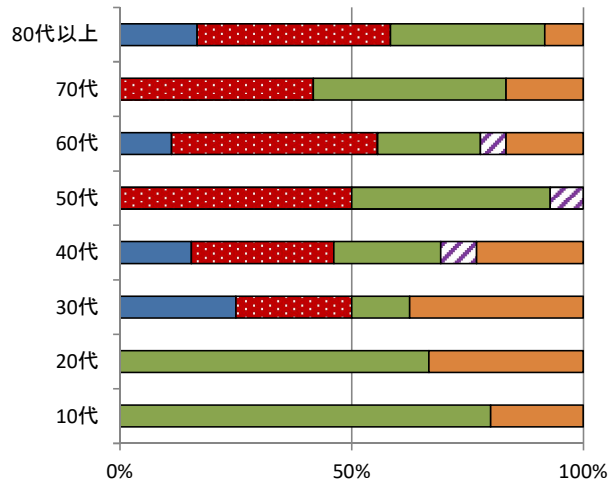


年代別

女性



男性



【全体】

町内会や自治会等の活動の場において「平等」と感じている人の割合は24.0%、「男性が優遇(計)」は49.3%、「女性が優遇(計)」7.3%、となっている。

【性別】

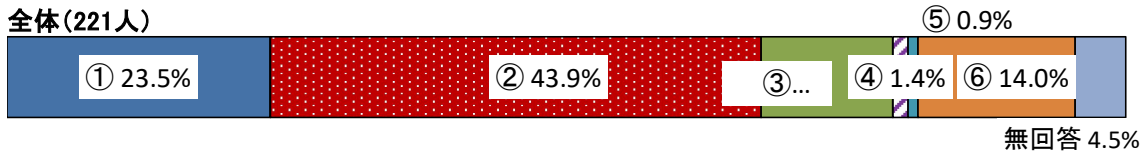
「平等」と感じている人の割合は、男性が34.1%であるのに対して、女性は18.1%となっている。「男性の方が優遇(計)」と答えた人は、男性の45.9%に対して女性が52.8%となっている。

【年齢別】

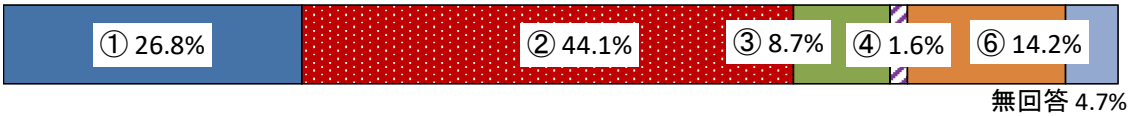
「平等」と感じている人の割合が高い年代は、男性は20代30代で女性は20代であった。

⑥社会通念・慣習・しきたりなどで

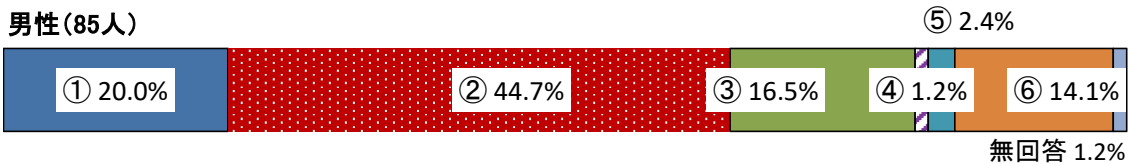
全体(221人)



女性(127人)



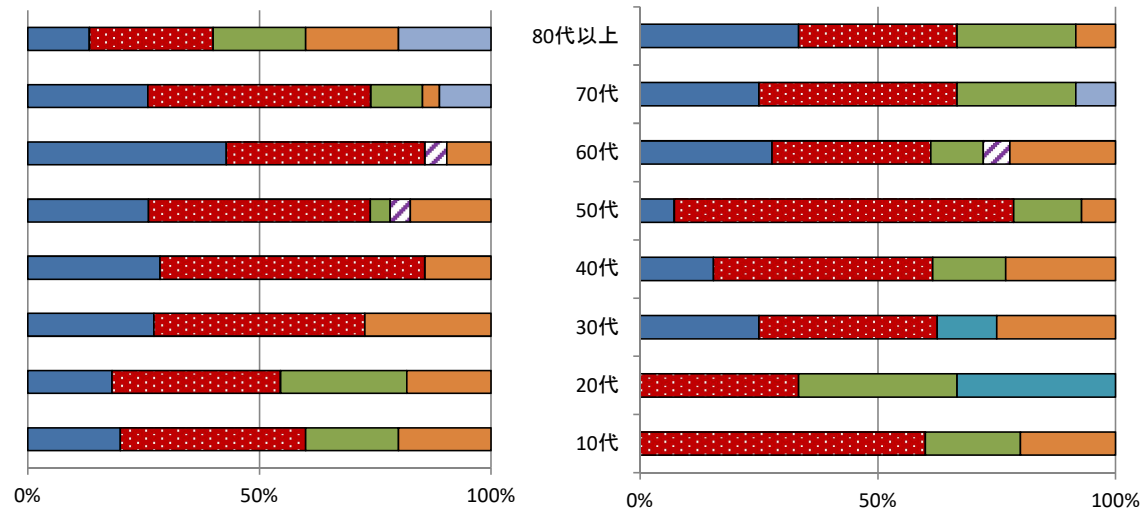
男性(85人)



年代別

女性

男性



【全体】

社会通念・慣習・しきたりなどにおいて「平等」と感じている人の割合は11.8%、「男性が優遇(計)」は67.4%、「女性が優遇(計)」2.3%、となっている。

【性別】

「平等」と感じている人の割合は、男性が16.5%であるのに対し、女性は8.7%となっている。「男性の方が優遇(計)」と答えた人は、男性の64.7%に対し女性が70.9%となっている。

【年齢別】

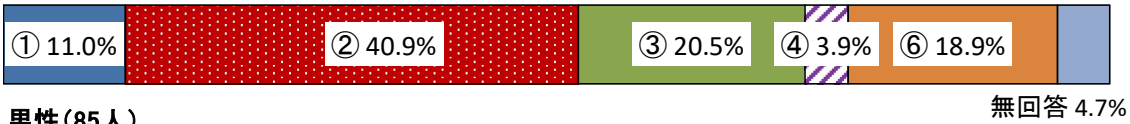
「平等」と感じている人の割合が最も高い年代は、男女とも20代であった。「男性が優遇(計)」と答えた人は男性は50代、女性は40代と60代が85%を超える。

⑦法律や制度の上で

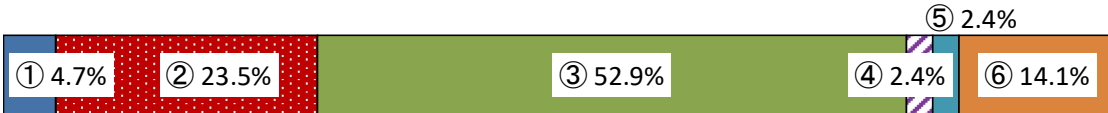
全体(221人)



女性(127人)

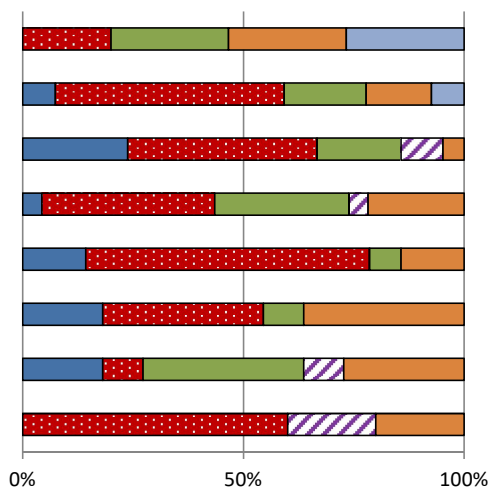


男性(85人)

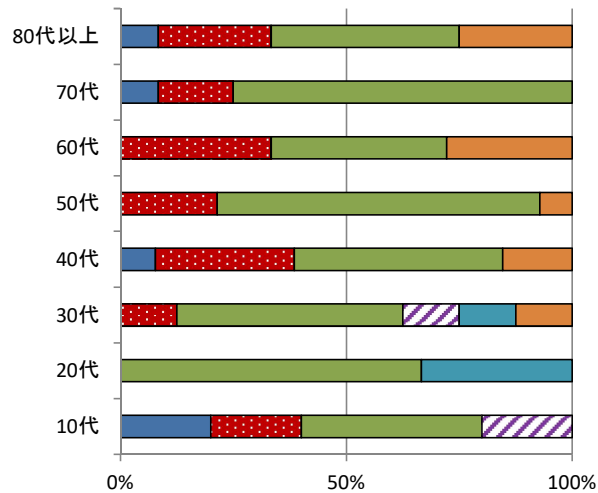


年代別

女性



男性



【全体】

法律や制度の上において「平等」と感じている人の割合は32.6%、「男性が優遇(計)」は43.0%、「女性が優遇(計)」4.1%、となっている。

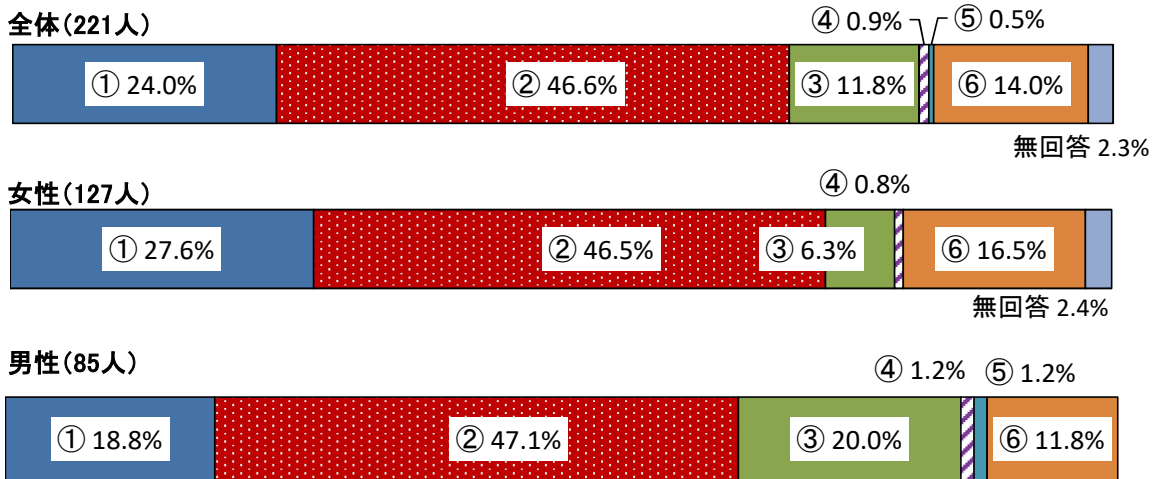
【性別】

「平等」と感じている人の割合は、男性が52.9%であるのに対し、女性は20.5%となっている。「男性の方が優遇(計)」と答えた人は、男性の28.2%に対し女性が51.9%となっている。

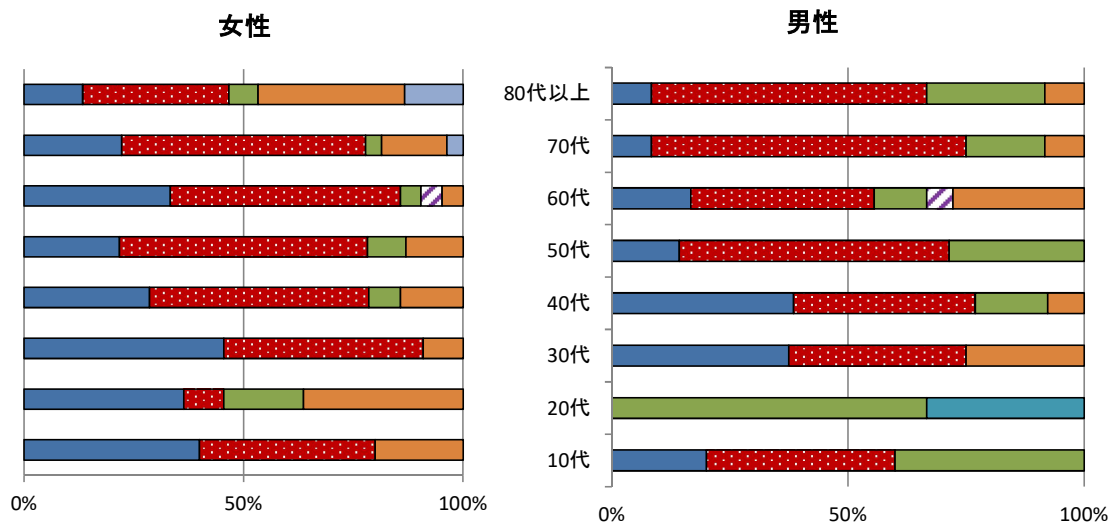
【年齢別】

「女性が優遇(計)」と感じている人の割合が多いのは男性は10代20代30代であった。

⑧政治の場で



年代別



【全体】

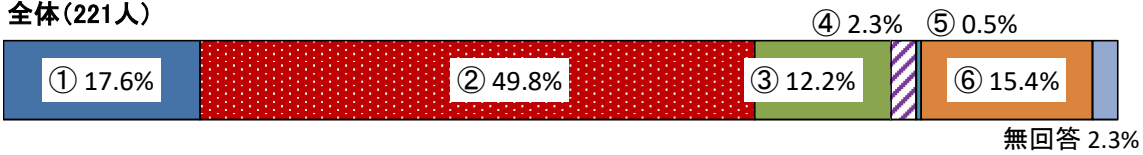
政治の場において「平等」と感じている人の割合は11.8%、「男性が優遇(計)」は70.6%、「女性が優遇(計)」1.4%、となっている。

【性別】

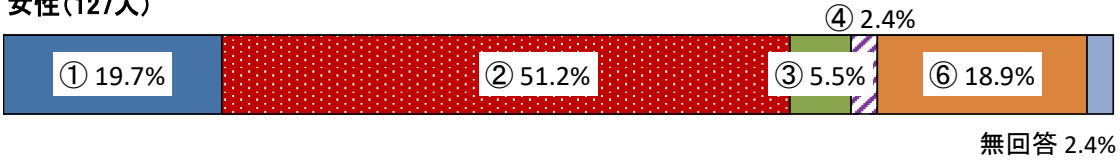
「平等」と感じている人の割合は、男性が20.0%であるのに対し、女性は6.3%となっている。「男性の方が優遇(計)」と答えた人は、男性の65.9%に対し女性が74.1%となっている。

⑨社会全体で

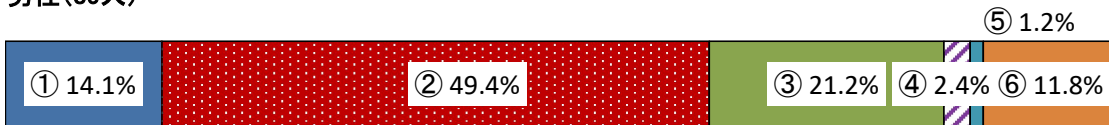
全体(221人)



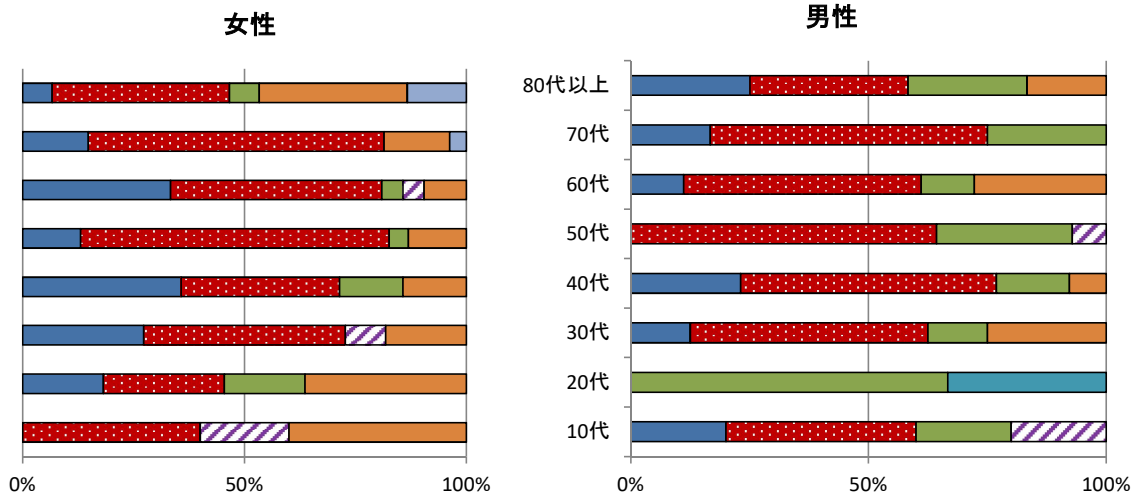
女性(127人)



男性(85人)



年代別



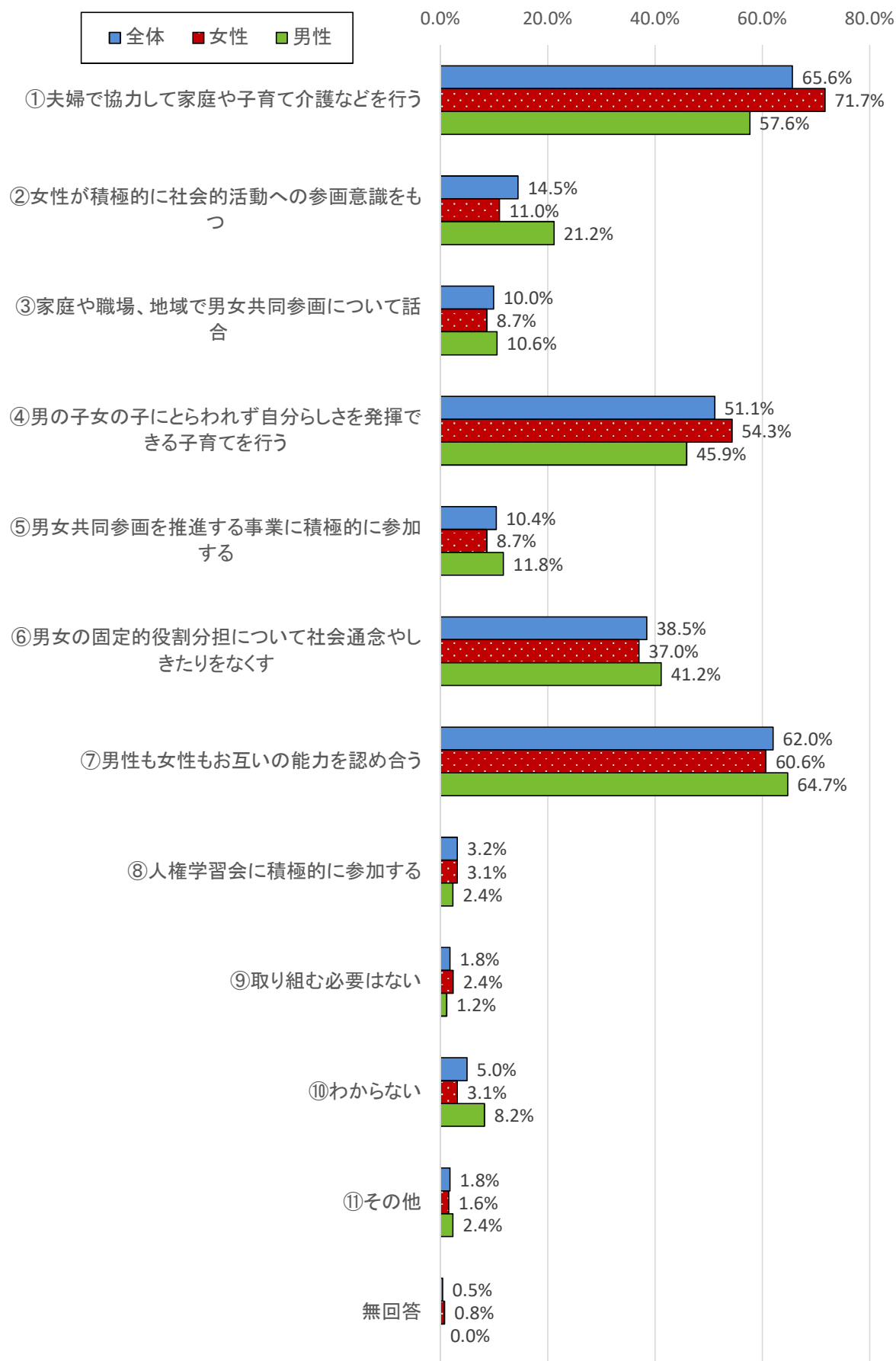
【全体】

社会全体において「平等」と感じている人の割合は12.2%、「男性が優遇(計)」は67.4%、「女性が優遇(計)」2.8%、となっている。

【性別】

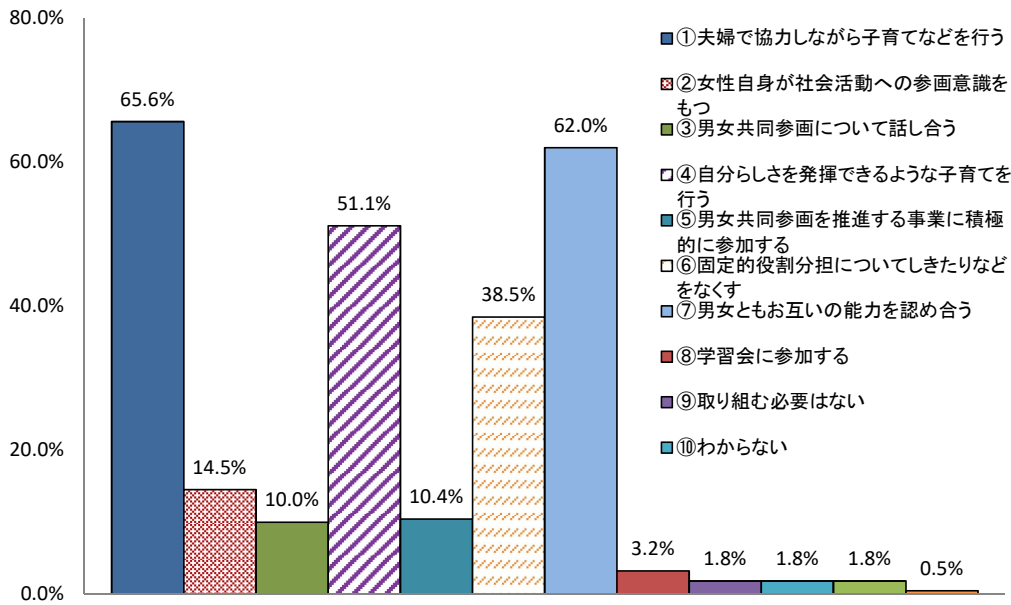
「平等」と感じている人の割合は、男性が21.2%であるのに対し、女性は5.5%となっている。「男性の方が優遇(計)」と答えた人は、男性の63.5%に対し女性が70.9%となっている。

問8 男女平等を実現するために、私たちはどのような取り組みが特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

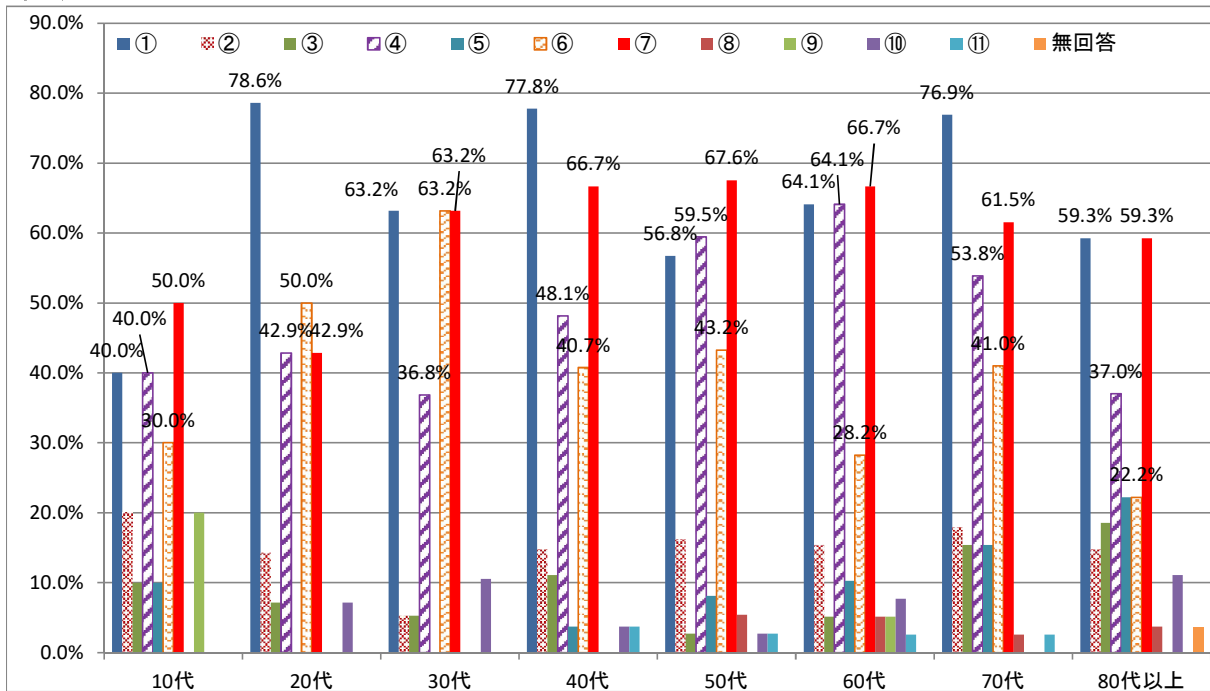




全体一覽



年代別



【意見】

- ・男性が変わる必要がある
- ・男女平等といいますが、家庭の中のこと(食事面)は、女性が中心となった方がよいと思います。料理スキの男の方はいいですが！
- ・男とか女とかではなく人として接し認め合う。
- ・必ず平等である必要なく、できることをできる人がやってもおかしいといわなければいい。

【全体・性別】

全体で最も割合が高いのは①「夫婦で、家事や子育て介護などを行う」65.9%で、男女別では女性71.7%で最も高いが、男性は、⑦「男性も女性もお互いに能力を認め合う」と回答した割合が64.7%と最も高くなっている。

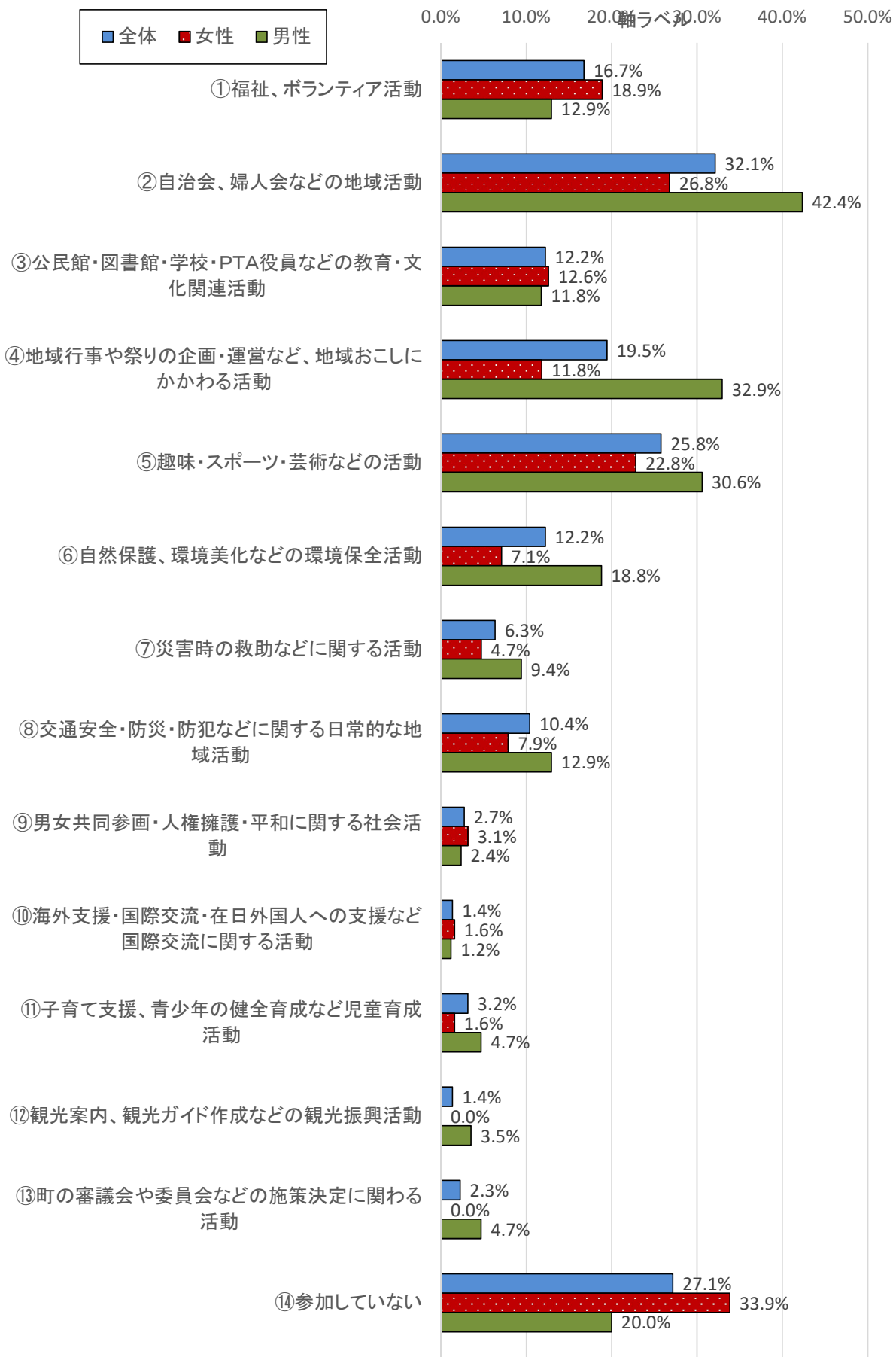
一方で、「特に取り組む必要はない」と回答した割合は、全体の1.8%(女性2.4%、男性1.2%)であった。

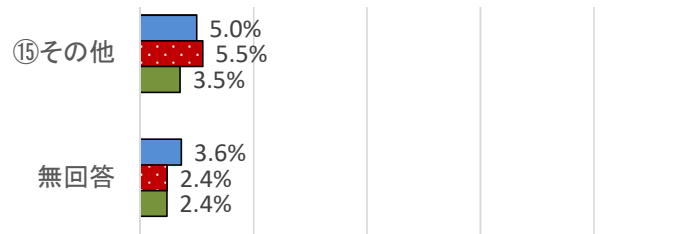
【年代別】

①「夫婦で家事や子育て介護などを行う」のほか、⑦「男性も女性もお互いに能力を認め合う」は全体的に高い。20代30代では⑥「男女の固定的役割分担について社会通念やしきたりをなくす」の割合も高くなっている。

## 2. 政策・方針決定過程への参画について

問9 あなたは、次に掲げる活動に参加していますか。(〇はいくつでも)





**[その他の意見]**

- ・足が悪いため自治のサロンに参加
- ・参加の要請があれば参加します
- ・以前は積極的に参加していたが高齢になり介護を受けている
- ・参加する年ではないので
- ・体調が悪いので参加できない
- ・孫育てを主になって行っているため今は各活動への参加は不可能

**【全体】**

全体では、②「自治会・婦人会等の地域活動」が最も高い。

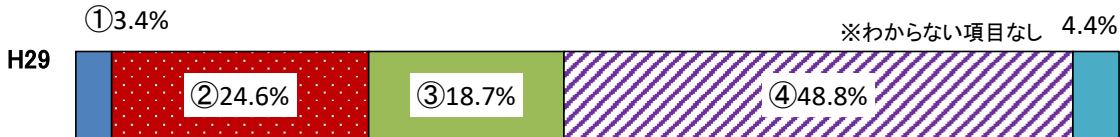
**【性別】**

男性では、④「地域行事や祭りの企画運営・地域おこし活動」と回答した割合が2番目に高い。  
女性では、⑭「参加していない」と回答した割合が最も高い。

**問10 町から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうしますか。(〇は一つ)**

- ①積極的に就任する
- ②余裕があれば就任する
- ③知識や能力のある分野なら就任する
- ④断る
- ⑤わからない
- 無回答

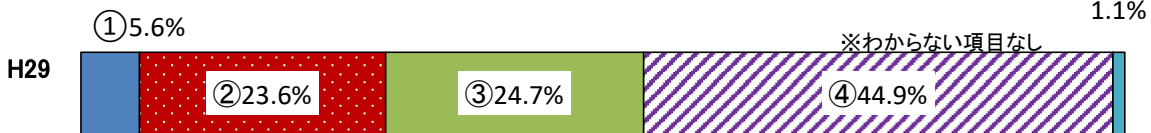
全体(221人)



女性(127人)



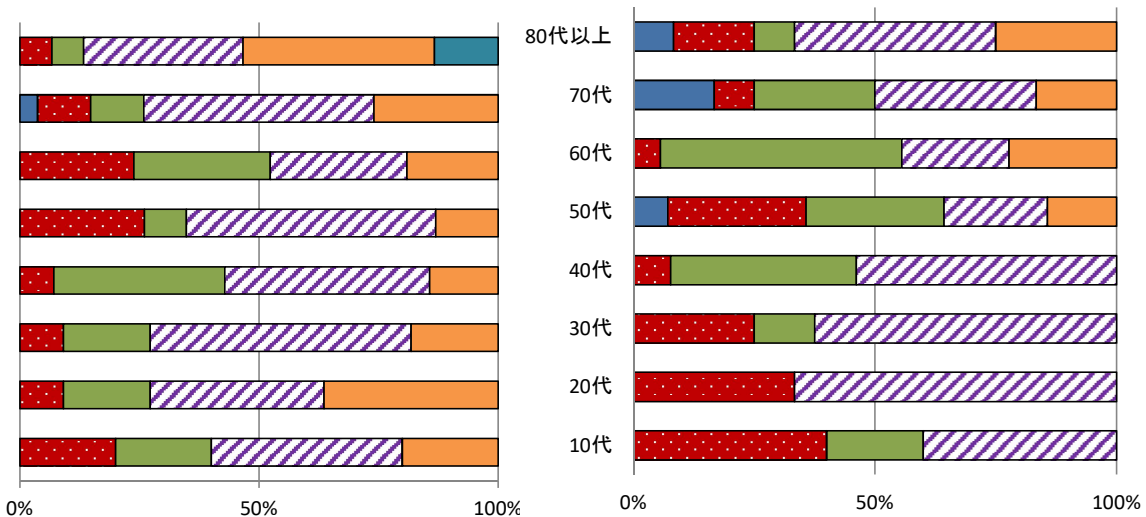
男性(85人)



年代別

女性

男性



**【全体】**

全体において「断る」と回答した割合が最も高い。

**【性別】**

男女とも「断る」と回答した割合が最も高く、男性で37.6%、女性で42.5%で高い。

**【前回比較】**

「就任する」と回答した割合が全体、女性、男性とも減っている。

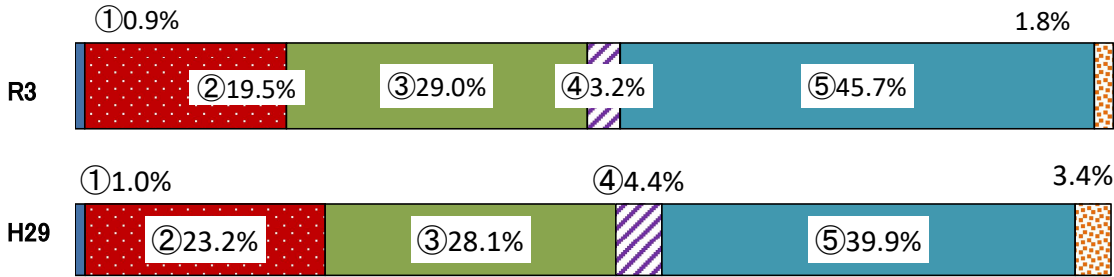
**【性・年齢別】**

「知識や能力がある分野なら就任する」と回答した割合は、女性は60歳代で最も多く、男性では50～70歳代で高くなっている。「断る」は男性・女性とも多く回答している。

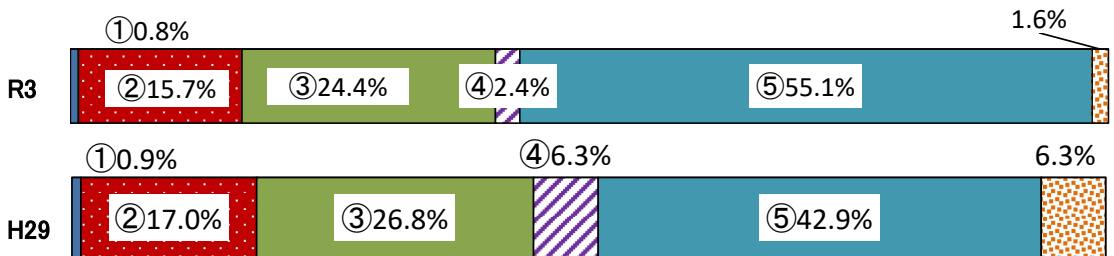
問11 新温泉町のまちづくりや行政には、女性の意見が反映されていると思いますか。(〇は一つ)

全体(221人)

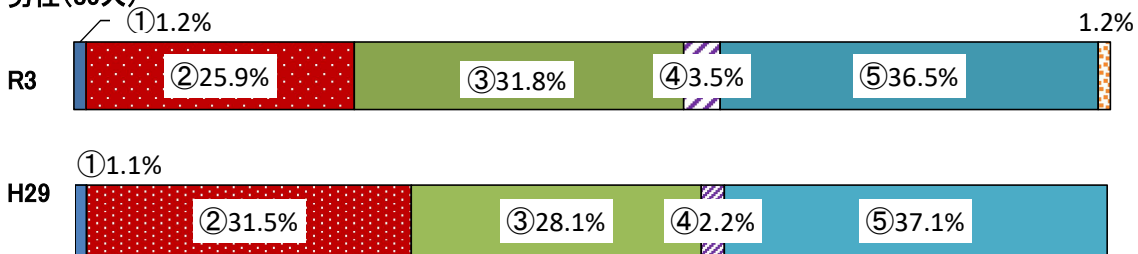
- ①十分に反映されている
- ②まあまあ反映さえている
- ③あまり反映されていない
- ④全く反映されていない
- ⑤わからない
- 無回答



女性(127人)



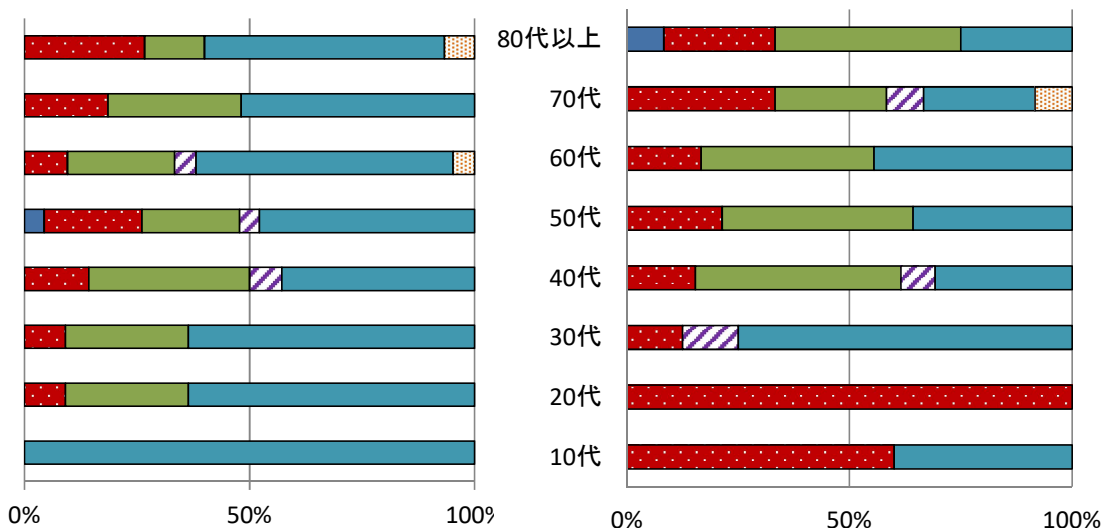
男性(85人)



年代別

女性

男性



【全体】

全体において「わからない」と回答した割合が45.7%最も高い。また、「十分に」「まあまあ反映されている」は20.4%で、「あまり」「全く反映されていない」と回答した割合の方が32.2%と高い。

【性別】

「わからない」と回答した割合は男性(36.5%)より女性(55.1%)の方が高い。「十分に」「まあまあ反映されている」は女性が16.5%で、男性は27.1%であった。

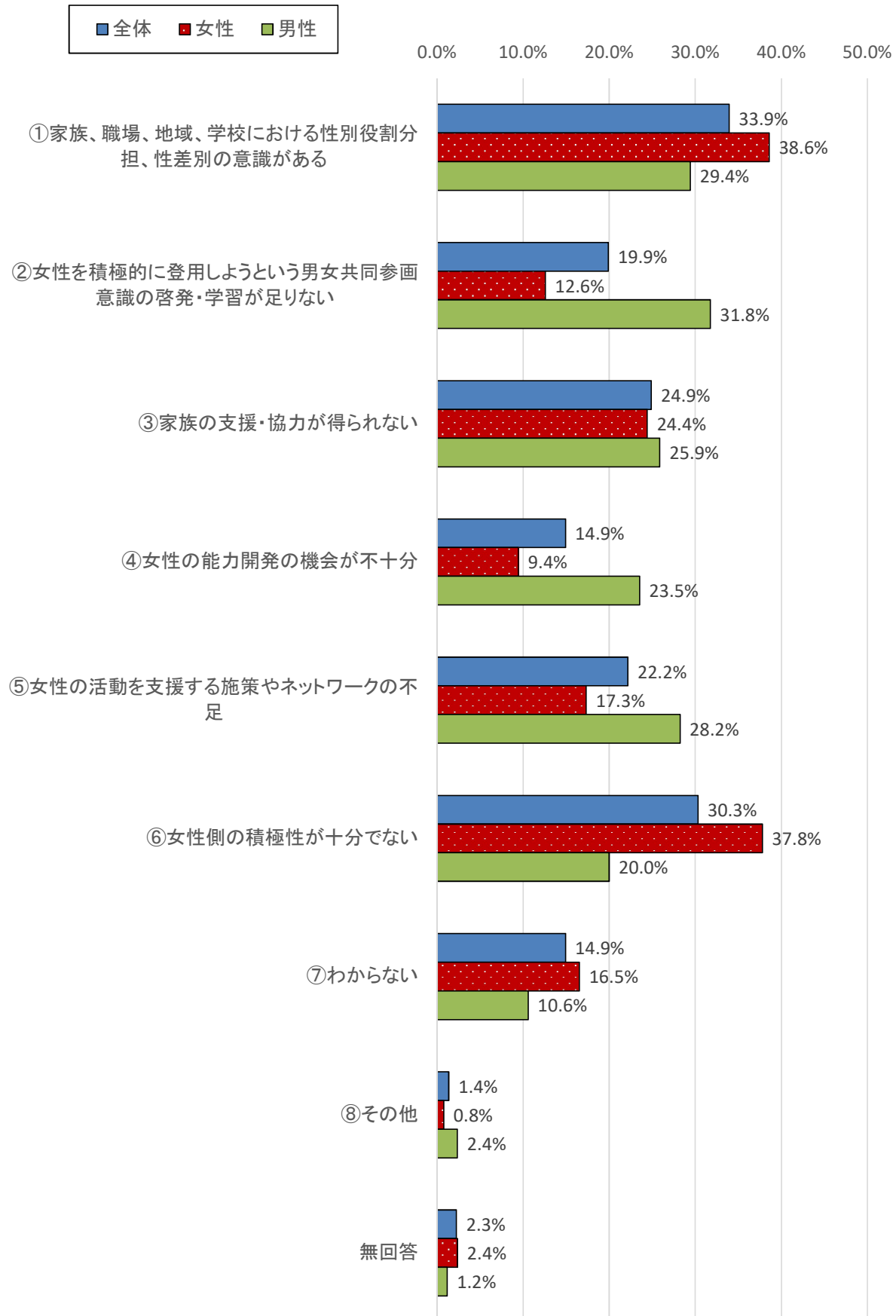
【前回比較】

「十分に」「まあまあ反映されている」の割合が全体、女性、男性とも前回より減っている。。

【年齢別】

「わからない・無回答」と回答した割合は、女性では50歳代を除く全ての世代で最も多く、男性で30歳代、20歳代の順で高くなっている。「まあまあ反映されている」と回答した男性は60、70歳代が多く、女性は60歳代が最も多く回答している。

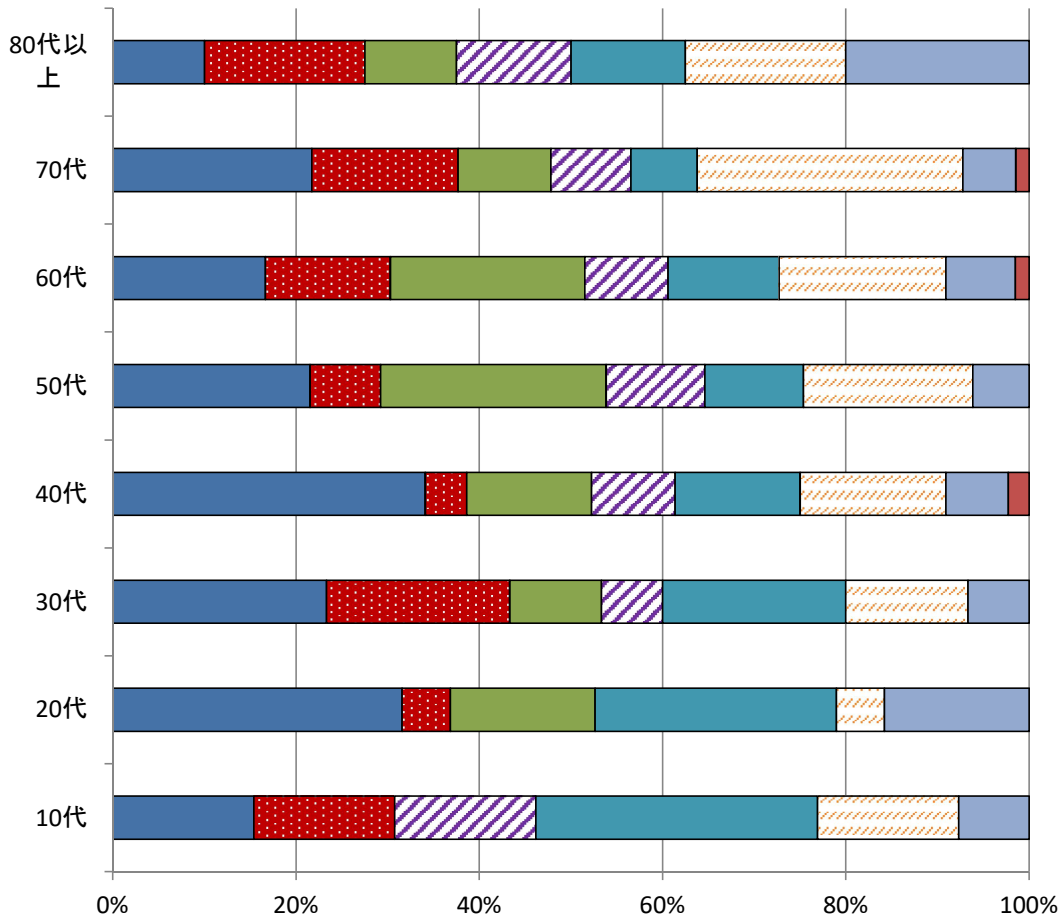
問12 政治や行政、さまざまな組織において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画の割合が低いと言われていますが、その理由は何だと思えますか。(〇は2つまで)





## 年代別

- ① 家族、職場、地域、学校における性別役割分担、性差別の意識がある
- ② 女性を積極的に登用しようという男女共同参画意識の啓発・学習が足りない
- ③ 家族の支援・協力が得られない
- ④ 女性の能力開発の機会が不十分
- ⑤ 女性の活動を支援する施策やネットワークの不足
- ⑥ 女性側の積極性が十分でない
- ⑦ わからない
- ⑧ その他



### 【意見】

・戦前までの男女の役割を厳しく規定した風習、制度の名残がまだ残っている。世代が変われば徐々に改善されていく。このような活動はそれを加速するかどうかの違いと思う。  
 ・子育て世代の支援が足りない!!

### 【全体】

①「家族、職場、地域、学校における性別役割分担、性差別の意識がある」と回答した人の割合が一番高く33.9%、④「女性側の積極性が十分でない」という意見が30.3%、次いで③「家族の支援協力が得られない」が24.9%であった。

### 【性別】

男性は、②「女性を積極的に登用しようという意識の啓発・学習が足りない」が31.8%で最も高く、次に⑤「女性の活動を支援する施策やネットワークの不足」が28.2%となっている。  
 女性は、①「家族職場地域学校における性別役割分担性差別の意識がある」と回答した割合が最も高く積極(38.6%)、次いで⑥「女性側の性が十分ではない」と回答した割合が高くなっている(37.8%)。

### 【年代別】

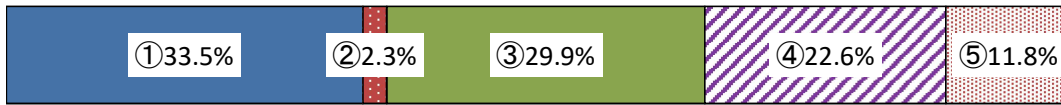
①「家族、職場、地域、学校における性別役割分担、性差別の意識がある」は、20・40代で高い。  
 ⑤「女性の活動を支援する施策やネットワークの不足」は若い世代の方が高い。

### 3. 家庭での男女の役割分担について

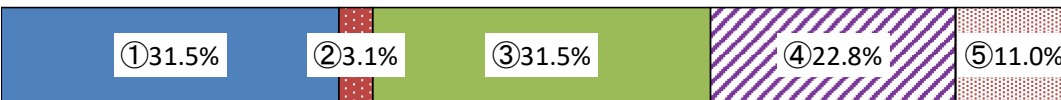
問13 家庭での男女の役割分担について、あなたの家庭ではどうなっていますか。(〇は1つ)

- ①男性は仕事、女性は家事・育児・介護
- ②女性の仕事、男性は家事・育児・介護
- ③男女とも仕事をし、家事・育児・介護は第三者の協力も頼んでいる
- ④その他
- ⑤無回答

全体(221人)



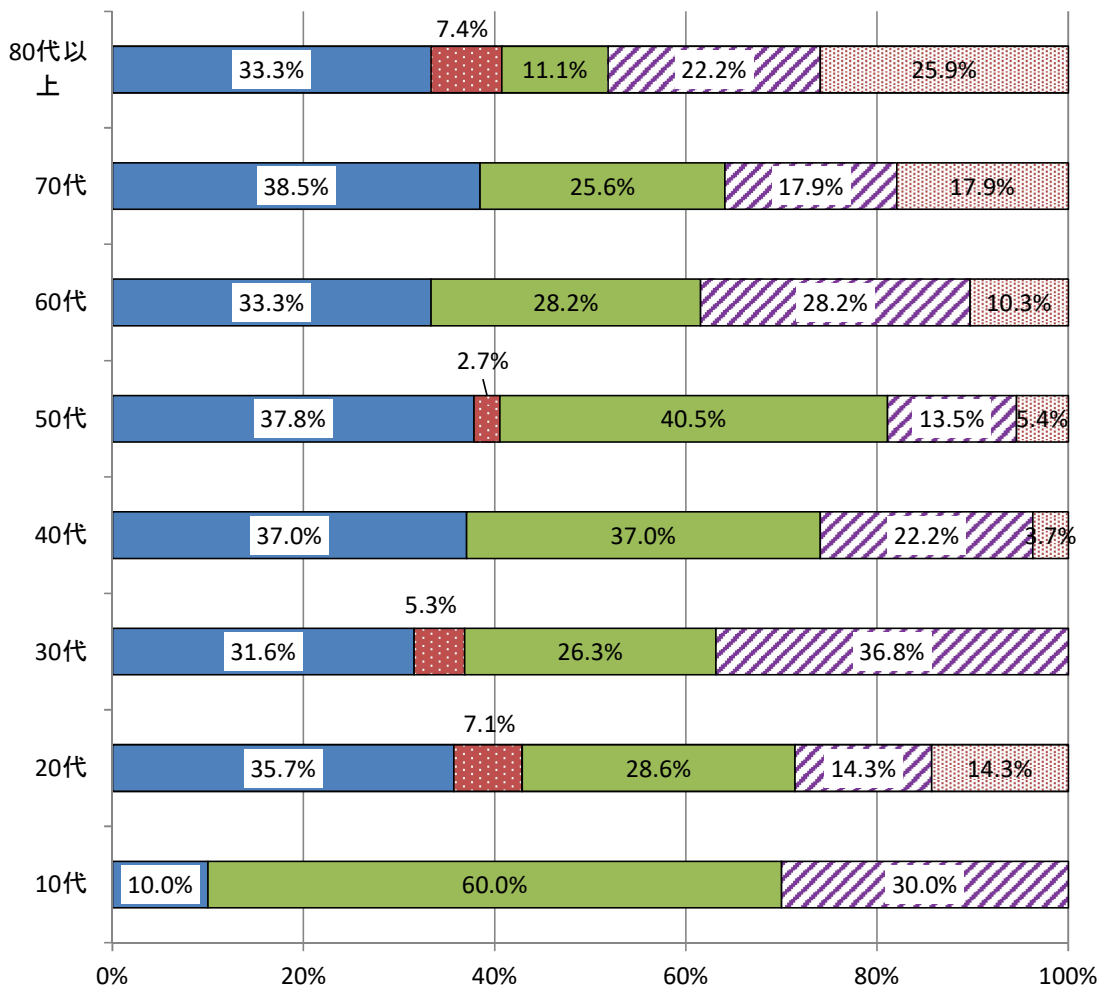
女性(127人)



男性(85人)



年代別



**【意見】**

- ・お互いができることをしている。
- ・特別に分担は決めていない。
- ・役割分担なし。
- ・家事育児介護できる人がやる。
- ・家事は夫婦で自分事は自分でと協力し合う。
- ・男女が家事、仕事をしている。
- ・男女ともに一緒、仕事も家事も。
- ・男女関係なく協力・分担している。
- ・年金生活なので男女女性とも平等にしている。
- ・男女ともに仕事をし、家事育児もしている。
- ・男女とも仕事、家事も極力分担するようにする。
- ・個性に合わせて家事分担している。
- ・男女とも仕事、その他できる所はできる人がする。
- ・男性は仕事、女性は仕事、育児、家事をしている。
- ・男女ともに仕事をし、女性は家事育児介護をしている。
- ・男女ともに仕事、家事等は女性。
- ・男女とも仕事をし家事は女性。
- ・男女ともに仕事をしているが、家事は女性のみがしている。
- ・男性は仕事為主、女性は家事育児介護が主だが必要に応じて男性にヘルプを出す。
- ・主に男性が賃金労働をしているが、できることは家事にも参加してもらおうようにしている。
- ・男性が家事をしている。
- ・妻が生存中は1だったが深く反省している。
- ・老々介護
- ・一人暮らしなのでわからない。
- ・女しかいません。
- ・男性は年金生活で仕事はしていない。介護をする人もいない。
- ・ヘルパーの協力でパートもしていた。
- ・配偶者に持病があり、家事等分担できる状態ではない。
- ・男一人
- ・一人なのでわからない
- ・二人とも無職
- ・2人暮らしなのですべて女がやっている
- ・男がいない
- ・全て一人でしている

**【全体】**

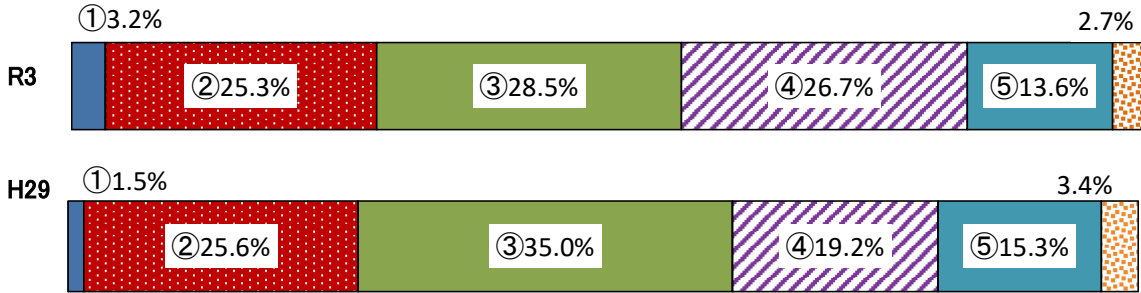
全体、男性では「男性は仕事、女性は家事育児介護」と答えた人の割合が高い(33.5%、38.8%)が、女性では「男女とも仕事」「家事育児介護は第三者」と同じ割合

問14 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。  
(○は1つ)

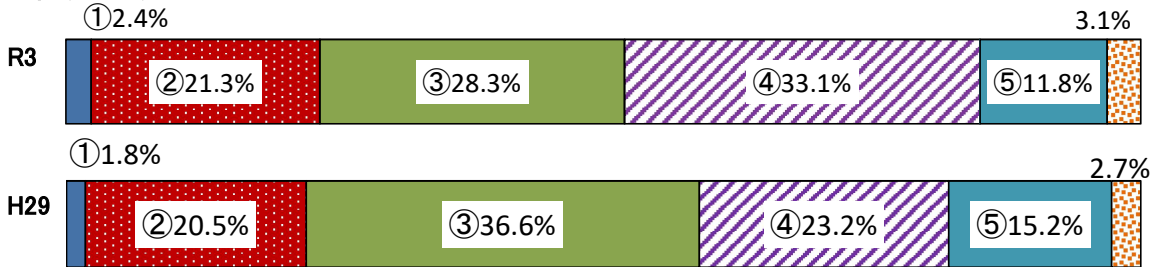
前回比較

- ①賛成
- ②どちらかといえば賛成
- ③どちらかといえば反対
- ④反対
- ⑤わからない
- 無回答

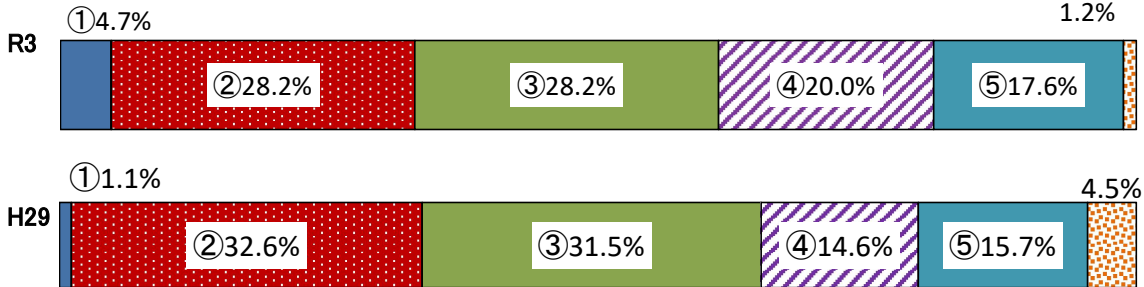
全体(221人)



女性(127人)

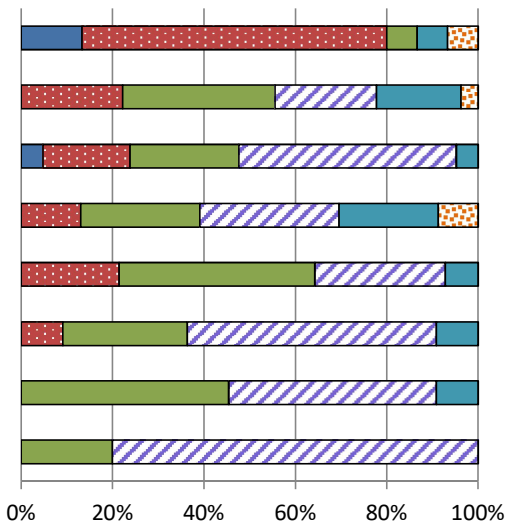


男性(85人)

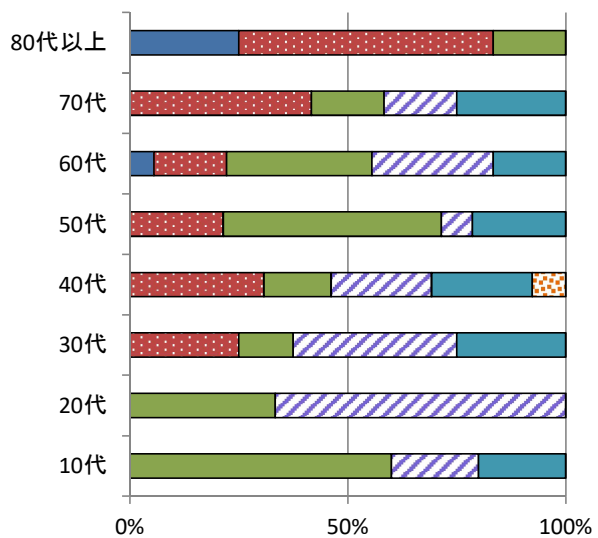


年代別

女性



男性



【全体・性別】

「反対である」「どちらかといえば反対である」の割合が全体・女性・男性いずれでも高くなっている。  
特に女性では61.4%であった。

【年代別】

年代が高くなるに従い「賛成である」割合が高くなっている

【前回比較】

全体、女性、男性とも「どちらかといえば反対」「反対」と答えた人の割合が増えている。

全体 54.2%→55.2%

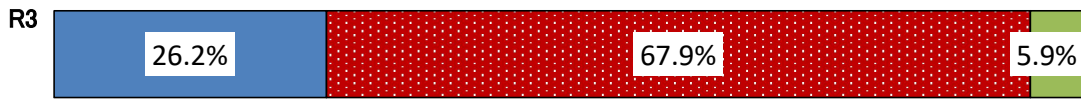
女性 59.8%→61.4%

男性 46.1%→48.2%

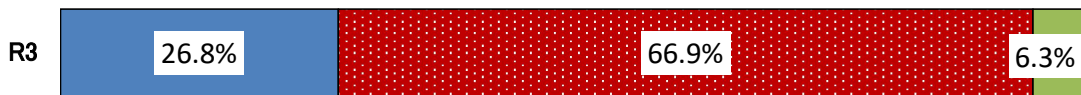
問15 あなたの家庭では、家族における男女の役割について話合ったことがありますか。(〇は1つ)

■ある ■ない ■無回答

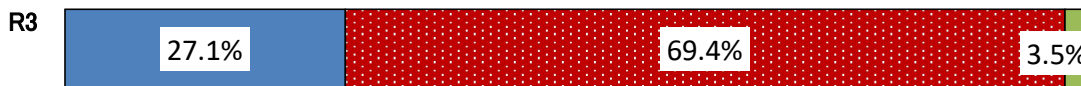
全体(221人)



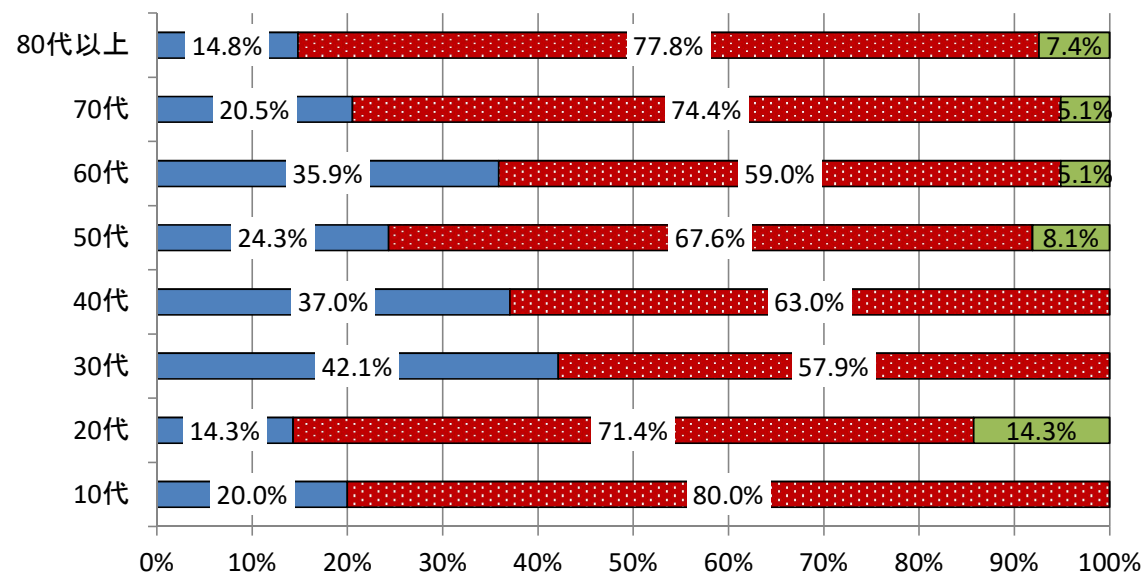
女性(127人)



男性(85人)



年代別



**【全体】**

男女・年代に関係なく、家庭内における男女の役割分担について話合ったことがない家庭が大半である。

年代別では、30.40歳代で「話し合ったことがある」と回答した割合が他の年代に比べて高い。20代が最も低い。

**【前回比較】**

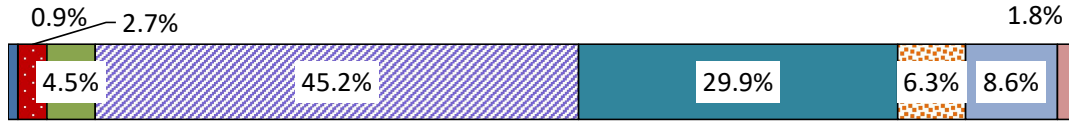
女性では「話し合う」と答えた人の割合が増えている。20.5%→26.8%



問16 あなたは、一般的に女性が仕事をもつことについてどう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお答えください。(〇は1つ)

- ① 女性は仕事をもたない方がよい
- ② 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい
- ③ 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- ④ ずっと仕事を続ける方がよい
- ⑤ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ
- ⑥ わからない
- ⑦ その他
- 無回答

全体(221人)



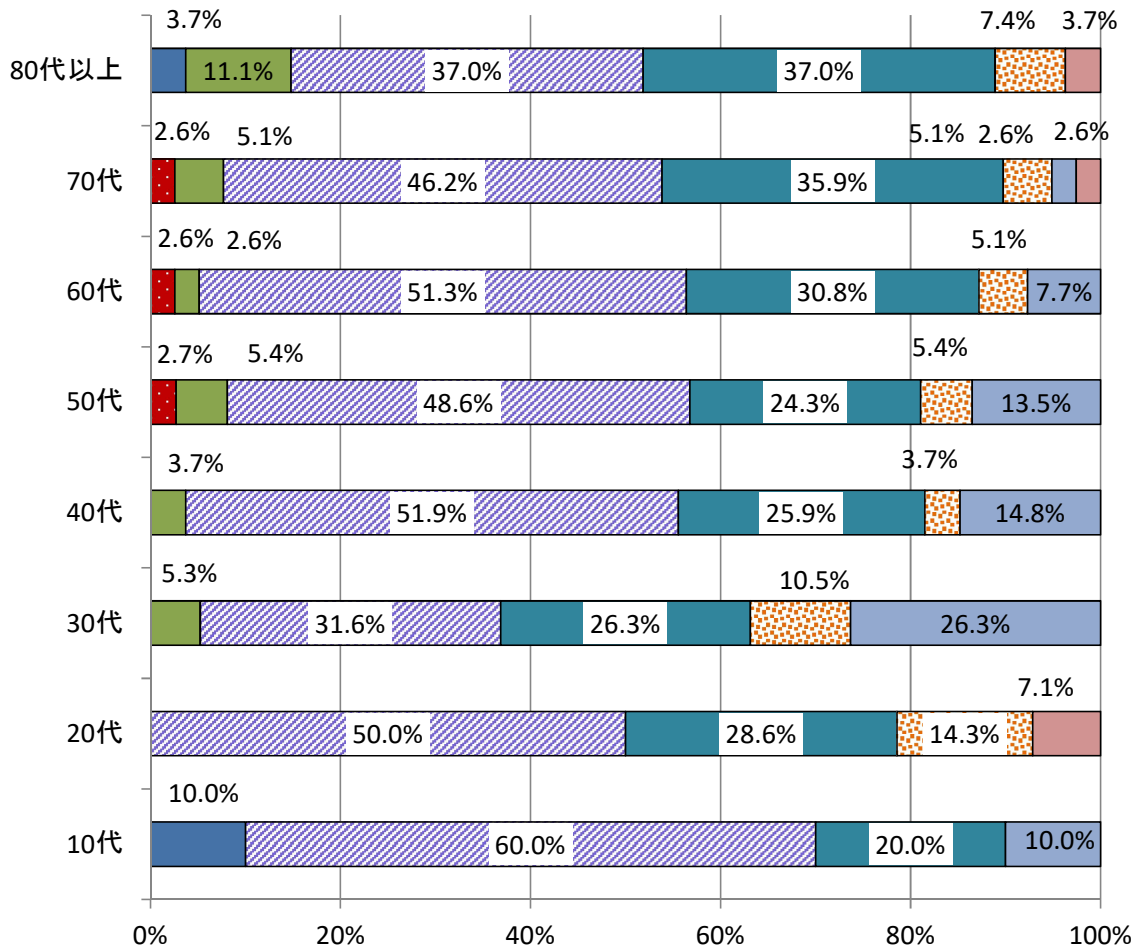
女性(127人)



男性(85人)



年代別





#### 【意見】

- ・女性の自由
- ・どちらでもよい(生計がなりたてば)。
- ・それぞれの考え方で話し合いきめるとよいと思う。
- ・仕事を続けるかどうかは男女の問題ではなく個人の問題。女性だからと言って続けた方がよいあるいはやめた方がよいという意見はない。
- ・今の時代家を一足出れば金があるのでに仕事している方がよい。
- ・私自身子育ての経験はないですが、50代の今は専業主婦が向いていると感じます。
- ・個人的考え方が各々あるのではないか。
- ・仕事と家庭が両立できる範囲で仕事をすればよいと思う。
- ・その女性の意見を尊重する。
- ・各家庭の事情や考えがあるので双方納得して仕事をすればよい。
- ・自分自身のライフプランに合った仕事に就くべき。
- ・家庭それぞれの事情があるので、それに合わせて女性も仕事を続けられればいいと思う。
- ・出産、育児期はどうしても女性は仕事ができないのでそのブランクをどうするか？
- ・本人が望む生活スタイルを実現できるのが理想であって、こういうことを制度のように決められることでは無い。
- ・女性がずっと働ける環境を作る。女性は家庭に入るべき之考えがおかしい。
- ・仕事を続ける気持ちがあれば続けられよう。
- ・本人の意志で考えたらよい。
- ・本人が決めればよい。
- ・当人の自由であるべきと思う。
- ・収入を得る目的もあると思うが、自分の能力を生かす場でもあると思う。自分の状況に応じたやり方でいいと思
- ・その人のライフスタイルに合わせればよい。
- ・独身でいる権利はないのか？女性だけが子供中心に生きなければいけないのか。
- ・子育てが終わったら仕事のできた方がよい。

#### 【全体・性別】

「ずっと仕事を続ける方がよい」が全体、女性、男性とも最も高い割合であった。

全体45.2%女性45.7%男性48.2%

#### 【年代別】

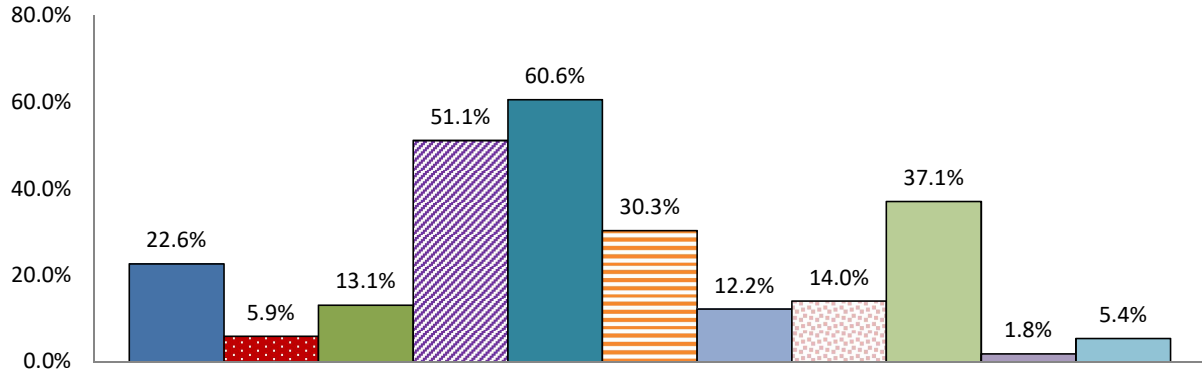
「ずっと仕事を続ける方がよい」は30代が一番低い。

問17 あなたは、子どもにどのような性格や能力を期待してそだてていますか。または育てましたか。女の子・男の子それぞれに○をつけてください。(女の子、男の子ともに○は3つまで)

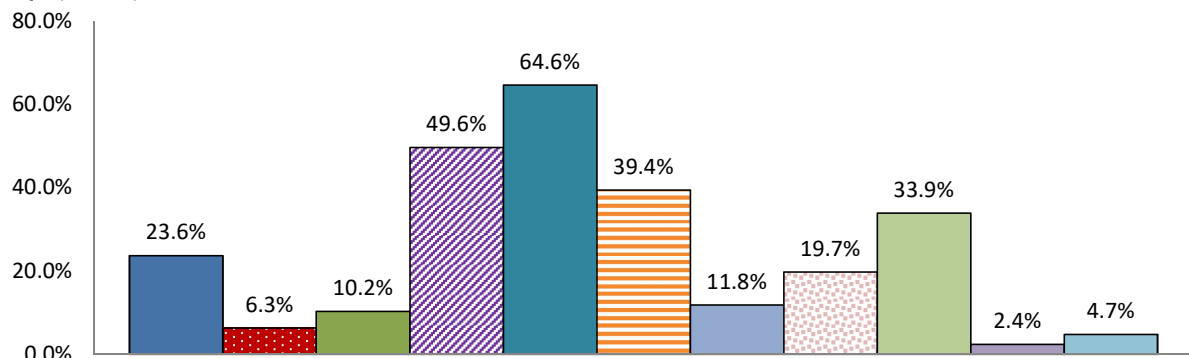
【女の子】

- ①家事能力   ■②たくましさ   ■③仕事の能力   ■④やさしさ   ■⑤礼儀正しさ   ■⑥自立心
- ⑦行動力   ■⑧忍耐力   ■⑨協調性   ■⑩その他   ■無回答

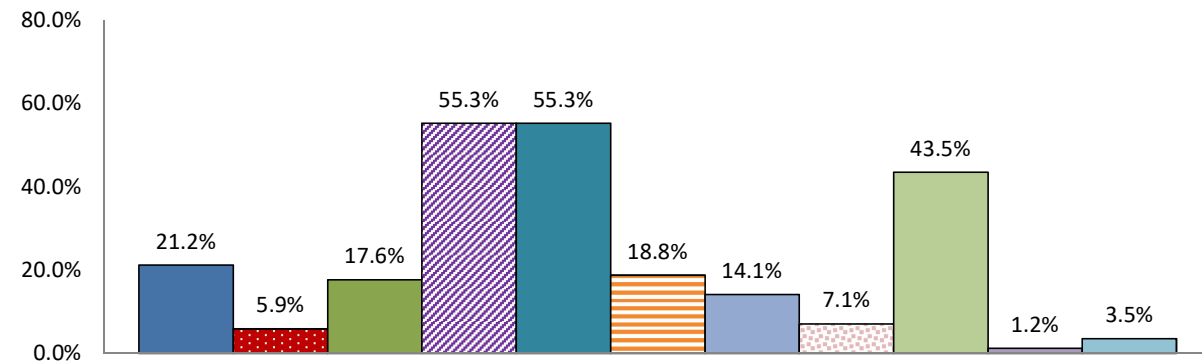
全体(221人)



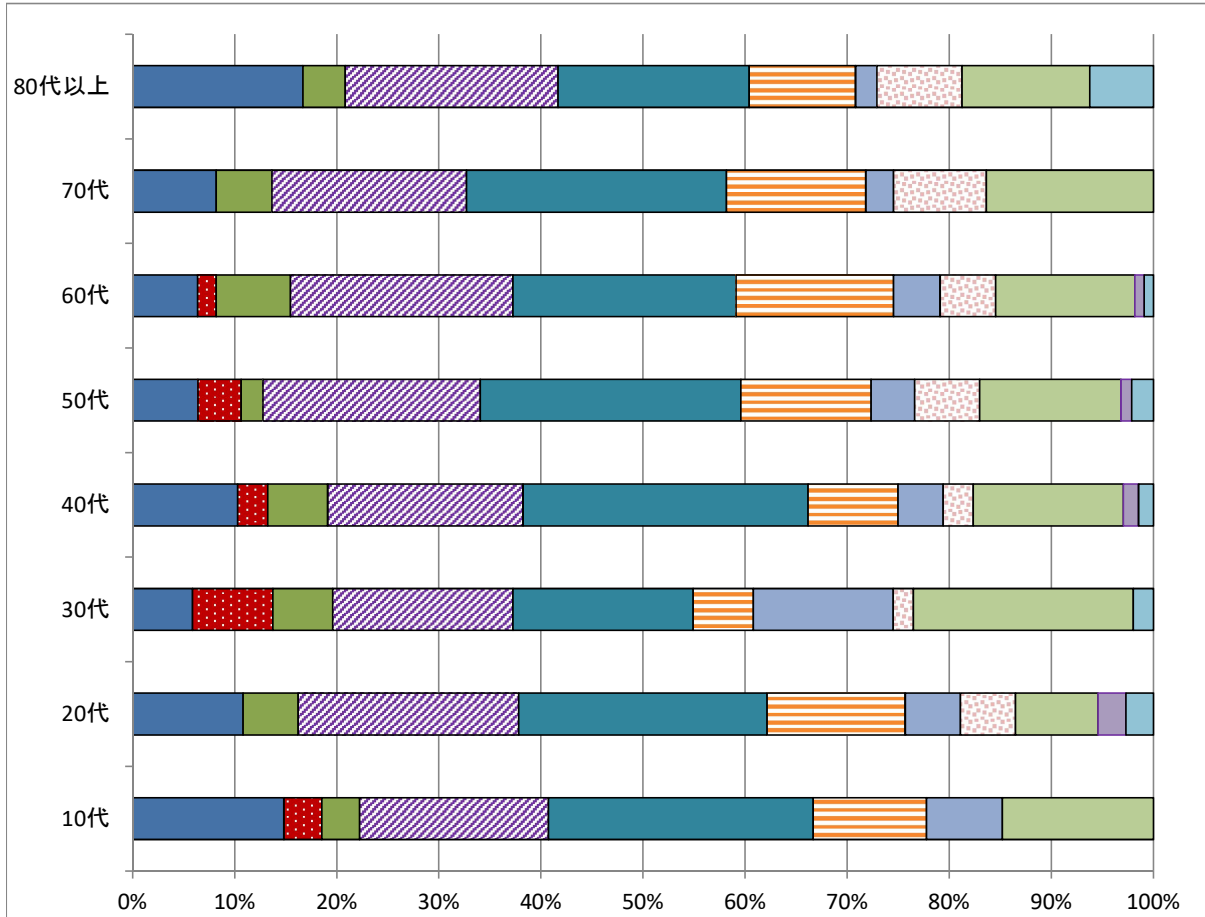
女性(127人)



男性(85人)



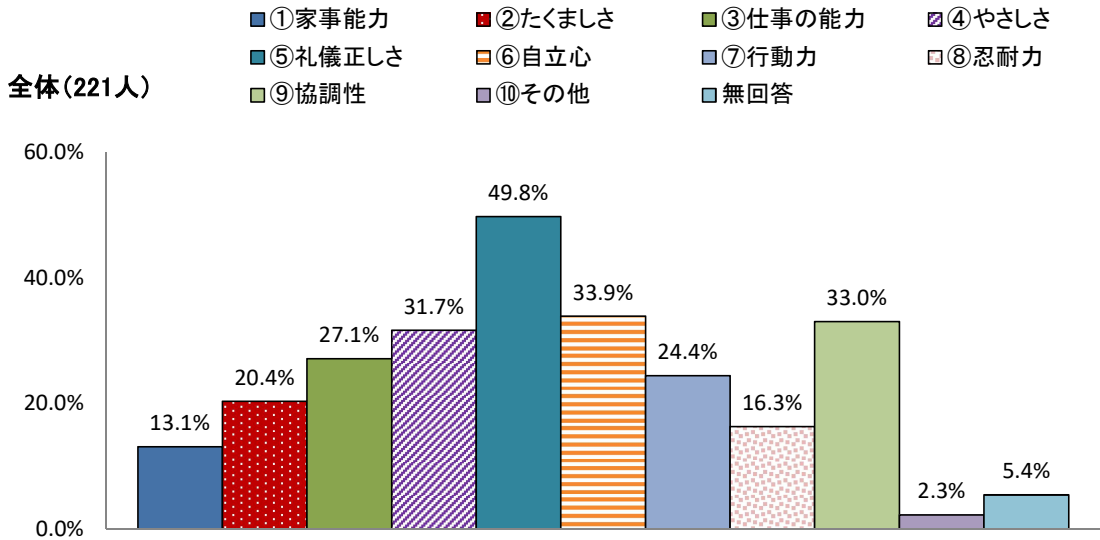
## 年代別



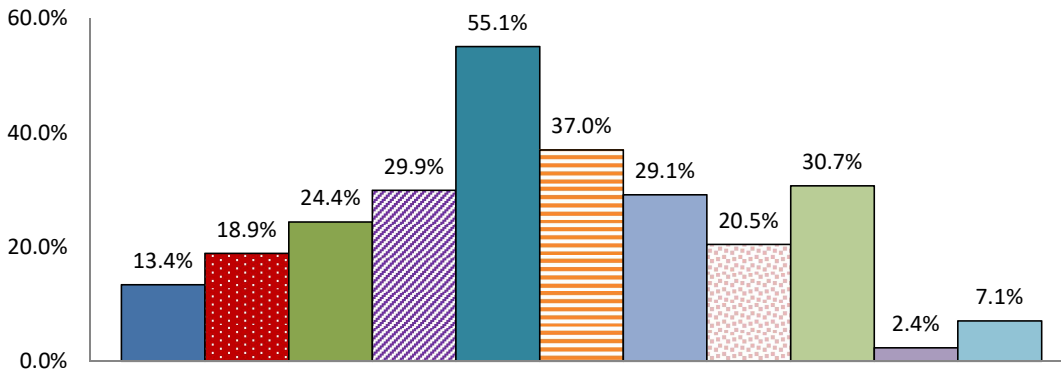
### 【意見】

- ・育児に無関心でした。
- ・期待はしない。自分で見つける。
- ・人にやさしく他人や親兄弟にめいわくをかけない。
- ・個性を大切にできるように。
- ・資格
- ・やりたいように生きる。
- ・多くを望みましたが、仕事が忙しく実情は放任となりました。女性が責任ある仕事を持つと家庭、子育てに影響があると思います。

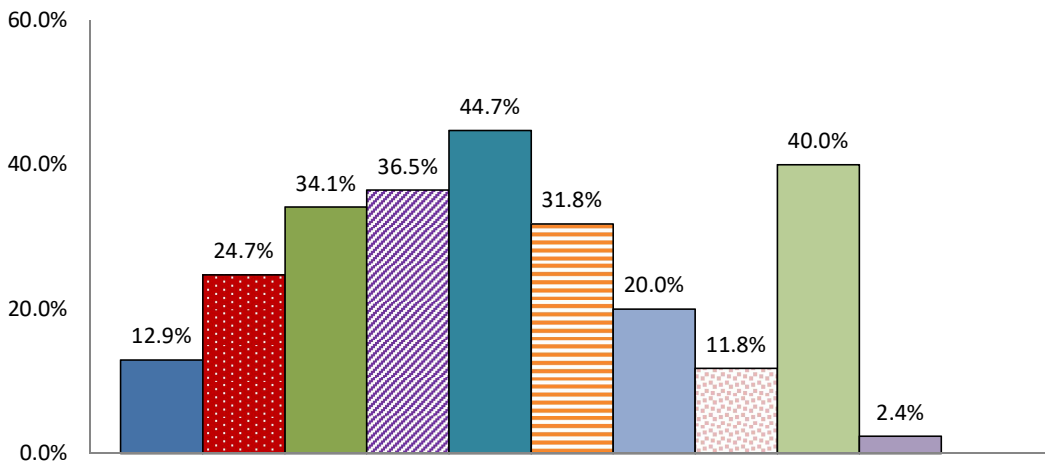
【男子】



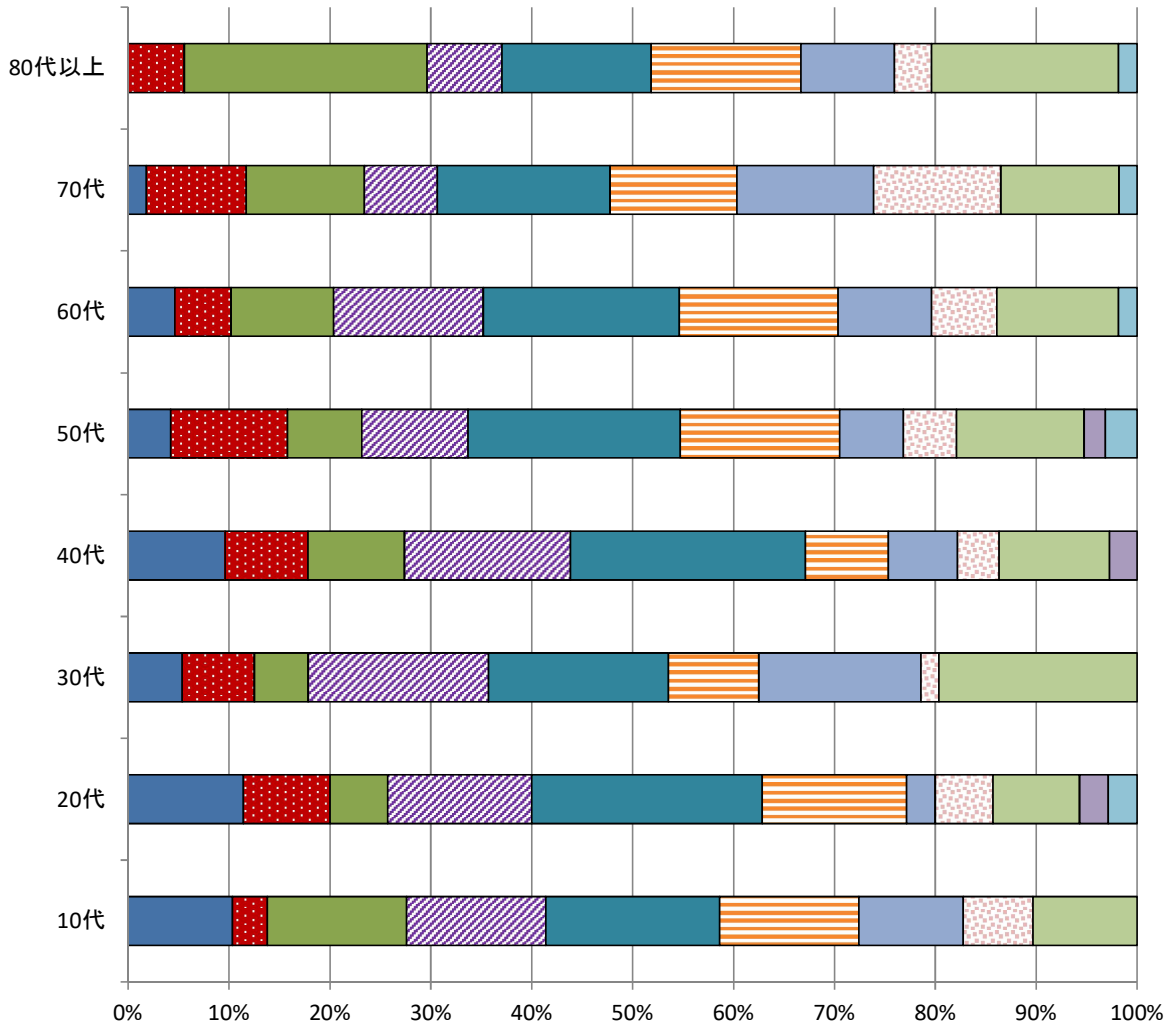
女性(127人)



男性(85人)



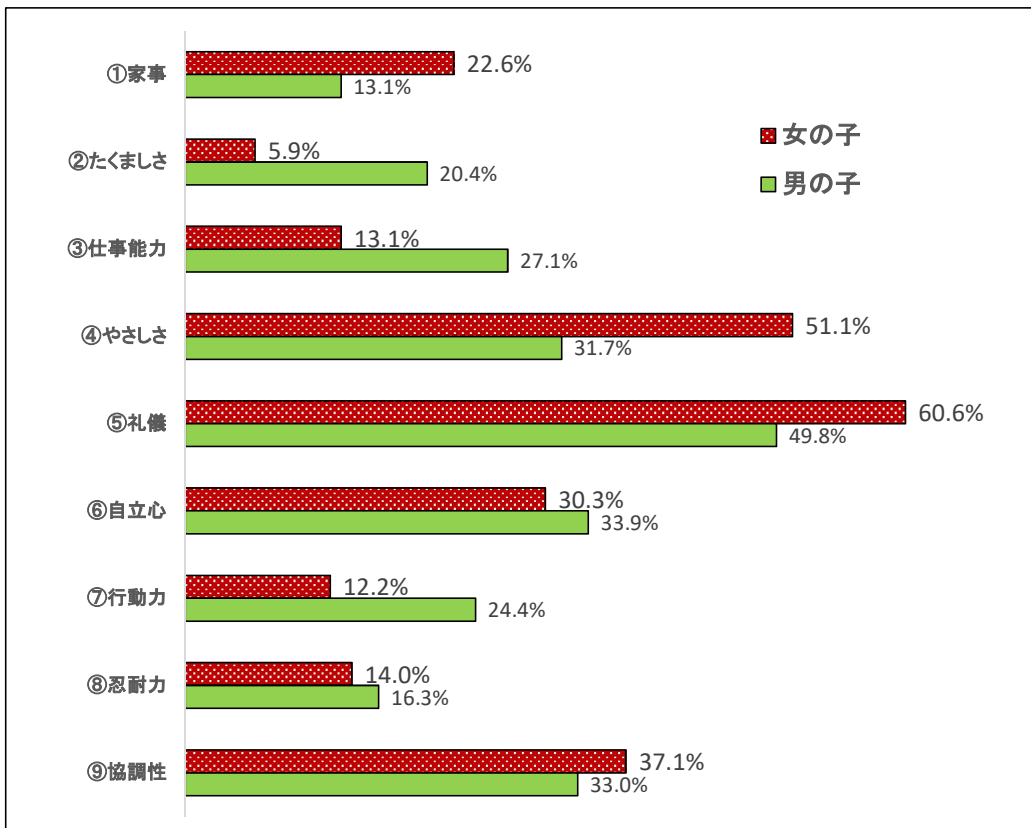
年代別



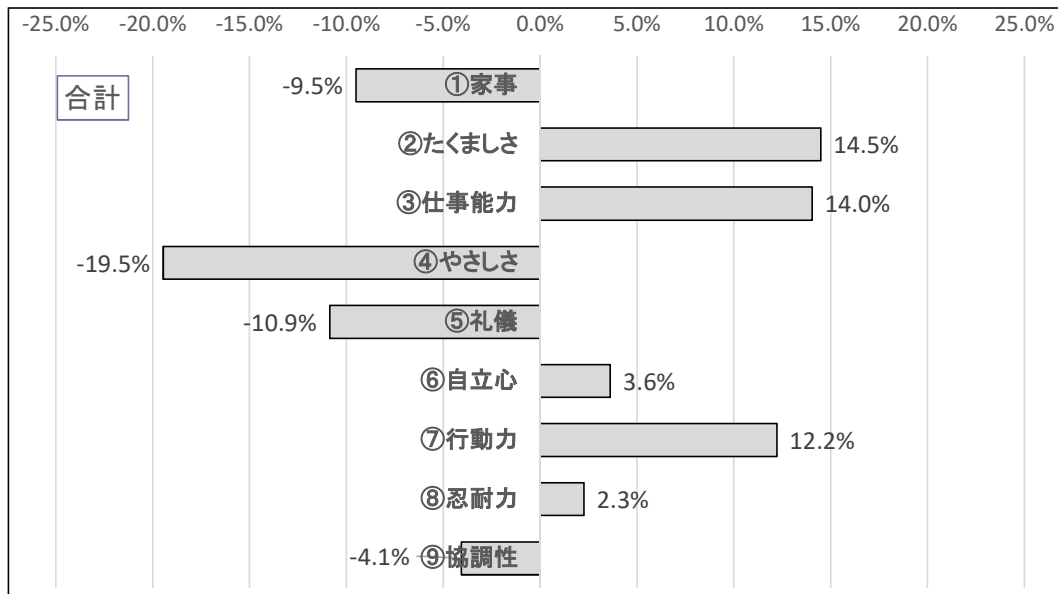
【意見】

- ・育児に無関心でした。
- ・期待はしない。自分で見つける。
- ・個性を大切にできるように。
- ・資格
- ・やりたいように生きる。
- ・多くを望みましたが、仕事が忙しく実情は放任となりました。女性が責任ある仕事を持つと家庭、子育てに影響があると思います。

### 項目別男女比較



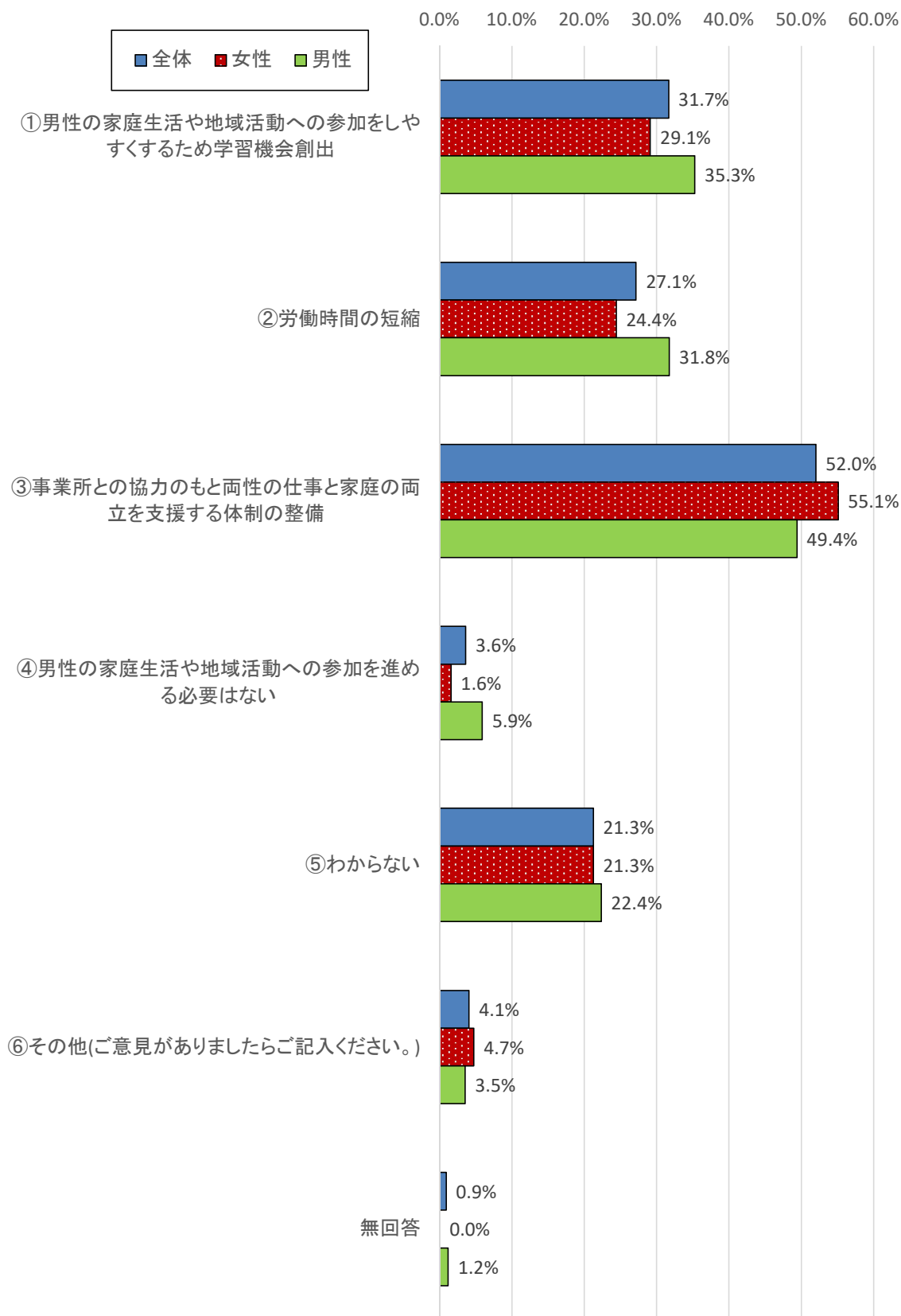
### 男子期待—女子期待



### 【比較】

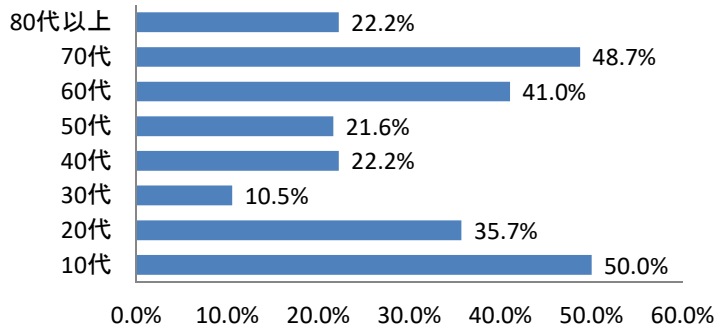
男の子に期待 たくましさ、仕事能力、行動力  
女の子に期待、家事、やさしさ、礼儀

問18 男性は女性に比べ、家庭生活(家事、子育て教育、介護など)や地域活動(社会福祉、生涯学習、消費者活動など)に参加することが少ないといわれますが、今後、男性が女性とともに積極的に参加していくためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

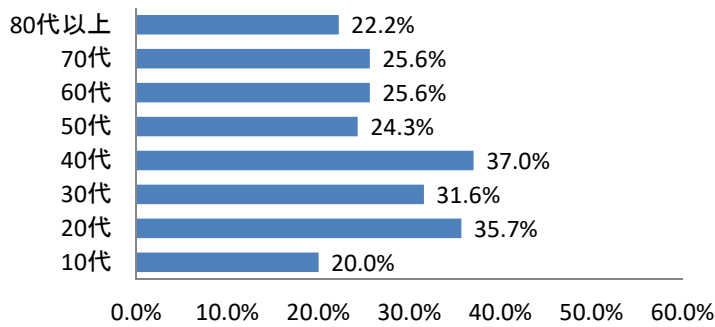


## 年代別回答数に対する割合

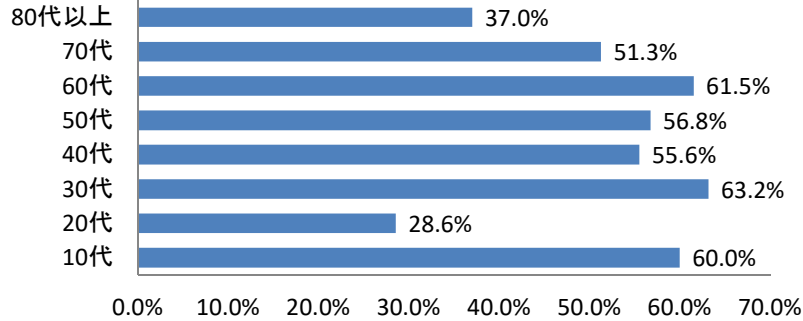
### ①男性の参加をしやすくする学習機会の創



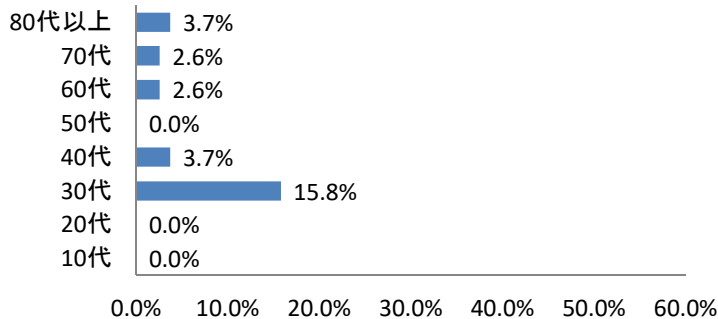
### ②労働時間の短縮



### ③事業所との協力のもと、両性の仕事と家庭の両立を支援する体制の整備

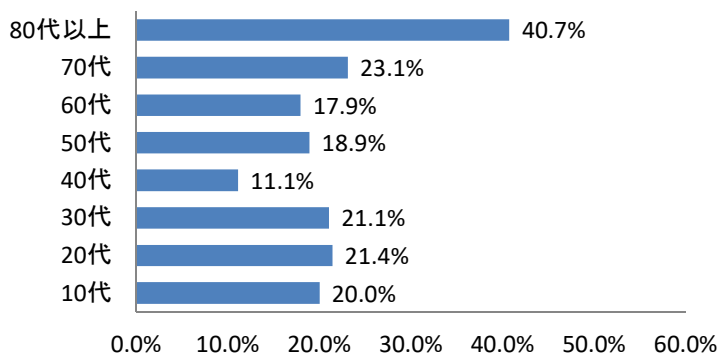


### ④男性の参加を進める必要はない





## ⑤わからない



### [意見]

- ・家庭それぞれで決めたらいいと思う。
- ・義務教育における男女差なく、家事や地域活動に携わることの必要性や意義の徹底
- ・仕事の内容にもよるので、早く帰れるときは帰って家事や子育てを手伝えればいいと思います。今の若者は昔とは違います！と言いますが、大事な面も多くあります。ある意味昔を振り返ってほしいです。
- ・このような設問があることこそが問題だと思う。
- ・それぞれ地域家庭、個人の思いやり。
- ・社会(会社)が男性優位の体質であるので、学習機会を創ってもそれも結局行政の「建前上」にしかない。育ってきた環境で持った意識を大人になってから変えるのは難しい。
- ・本人次第
- ・家事は女性がするものという意識を変えていくこと。
- ・学校教育と家庭生活や地域活動に男女ともに参加することが当然であることを指導する。
- ・強制的にするべきではない。やりたい人だけすれば良い。

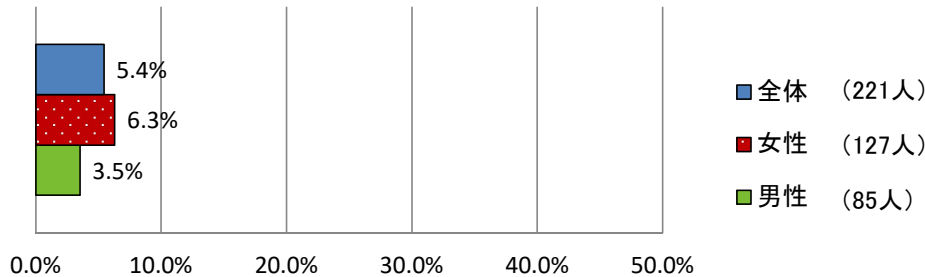
### 【全体】

「事業所との協力のもと、両性の仕事と家庭の両立を支援する体制の整備」と回答した割合が最も高い(52.0%)。次いで、「学習機会の創出」(31.7%)「労働時間の短縮」(27.1%)と高い。

#### 4. 女性に対する暴力について

問19 家庭内で起こる暴力、特にパートナーや恋人といった身近な人からの暴力【ドメスティック・バイオレンス】(DV)が問題になっています。このことについて、あてはまるものがありますか。(〇はいくつでも)

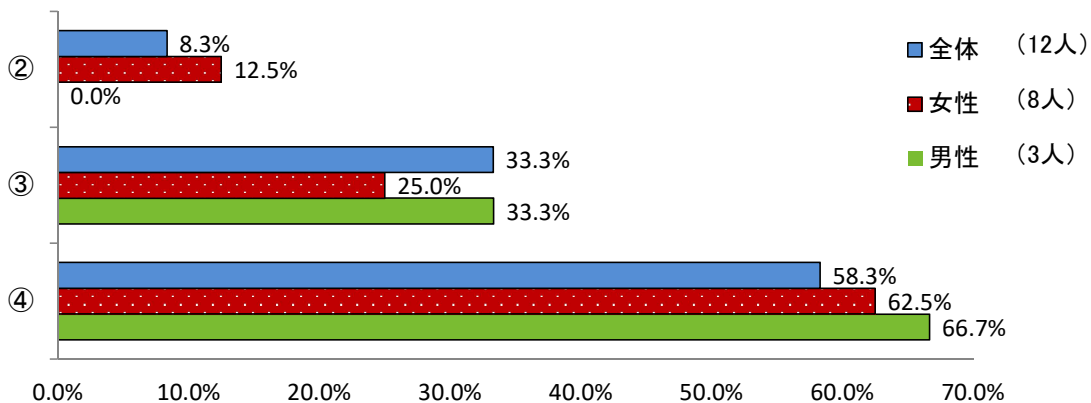
①暴力を受けたことがある(全体12人、女性8男性3不明1)



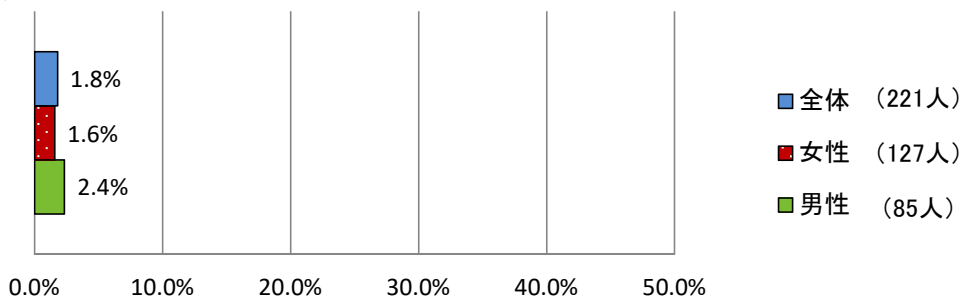
②暴力を受けたことを相談した(全体1人 女性1男性0不明0)

③暴力を受けたことを相談したかったが相談しなかった(全体4人 女性2男性1不明1)

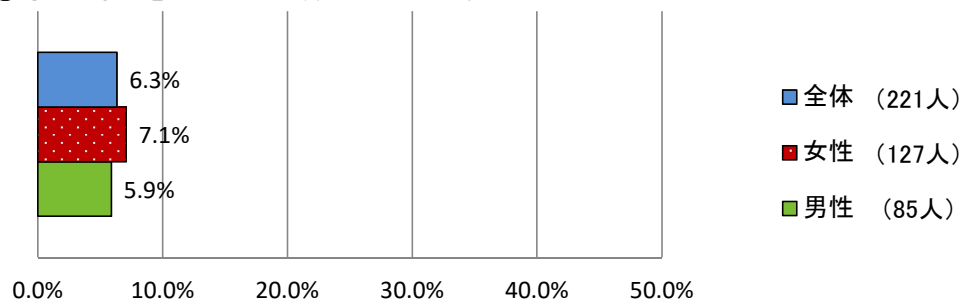
④暴力を受けたことを相談しなかった(全体7人 女性5男性2不明0)



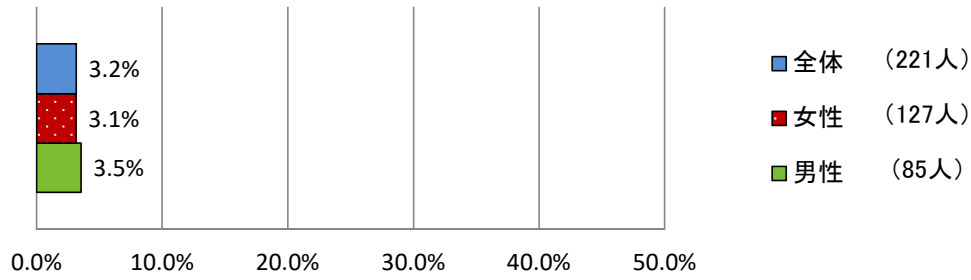
⑤暴力をふるったことがある(全体4人 女性2男性2不明0)



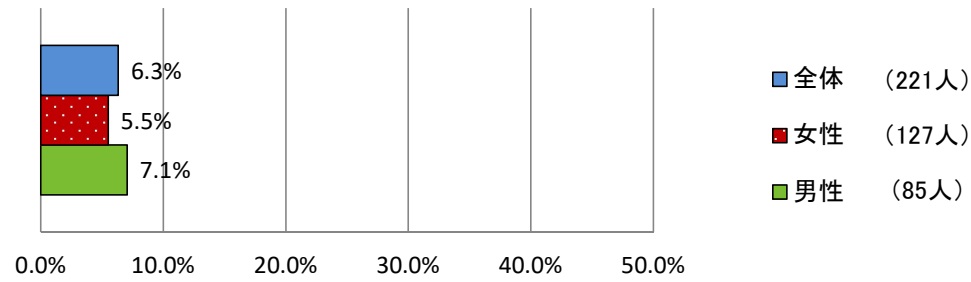
⑥身近に暴力をふるったこと、受けたことがある人がいる



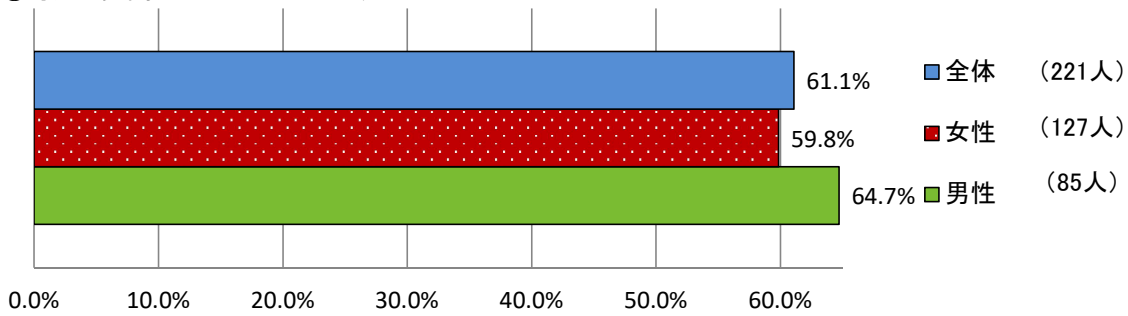
⑦暴力を受けた人から相談された



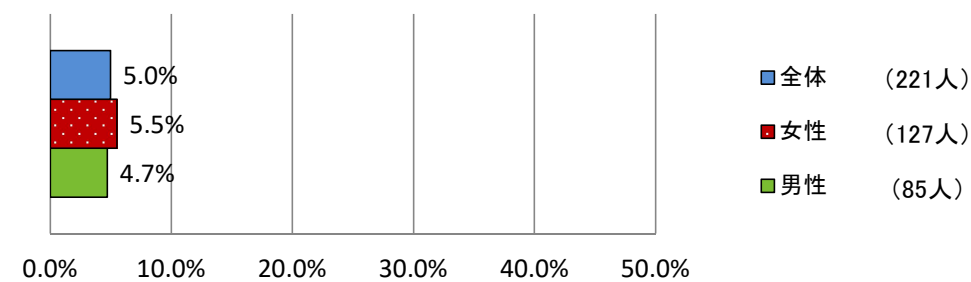
⑧地域で暴力を受けている人のうわさを聞いた



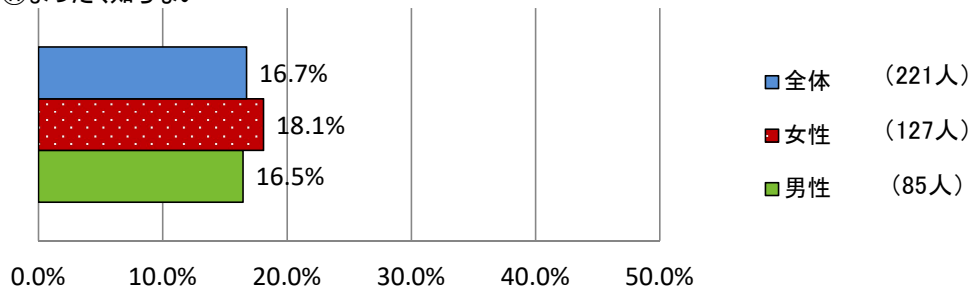
⑨身近で見聞きしたことがないが、テレビなどで知っている



⑩県配偶者暴力相談支援センターなど相談機関を知っている

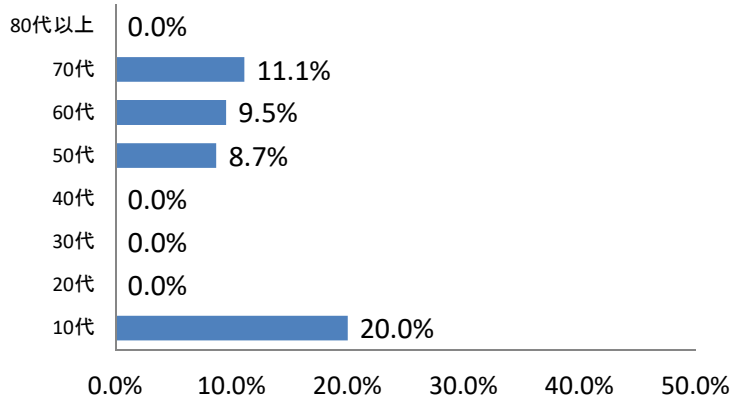


⑪まったく知らない

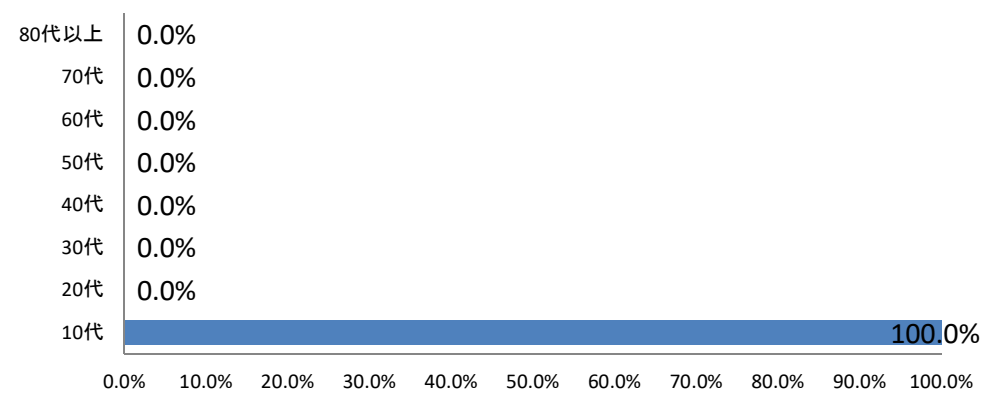


## 女性・年代別回答数に対する割合

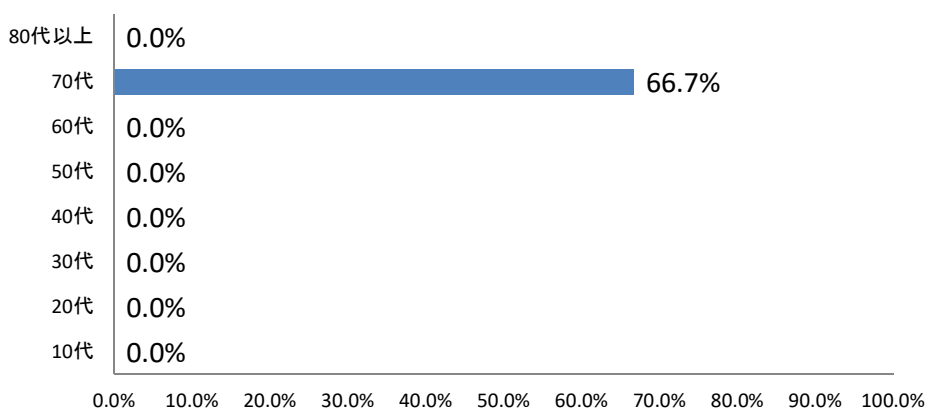
### ①暴力を受けたことがある



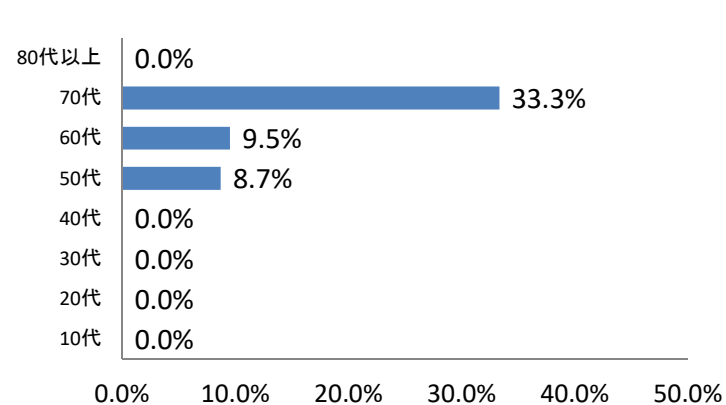
### ②暴力を受けたことを相談した



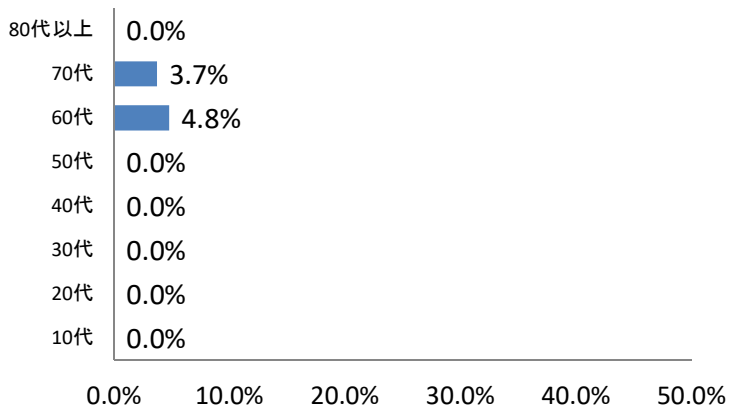
### ③暴力を受けたことを相談したかったが相談しなかった



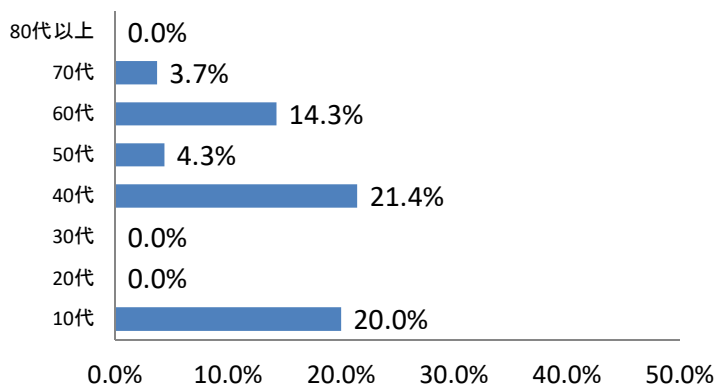
### ④暴力を受けたことを相談しなかった



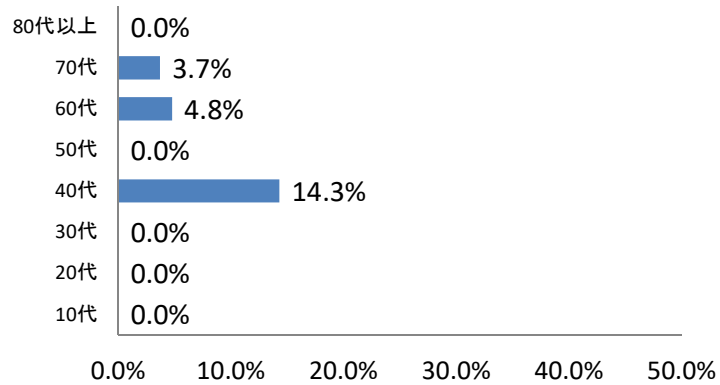
⑤暴力をふるったことがある



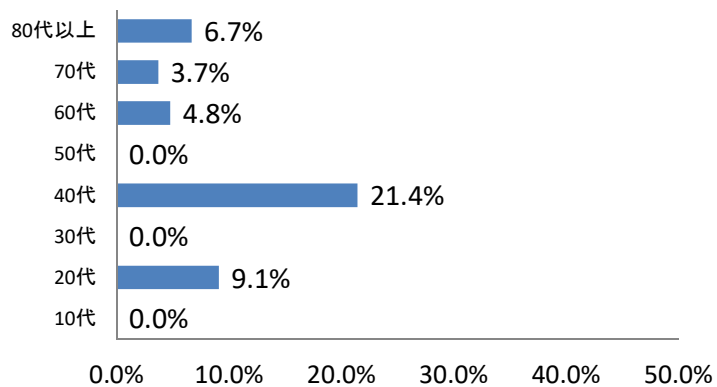
⑥身近に暴力をふるったこと、受けたことがある人がいる



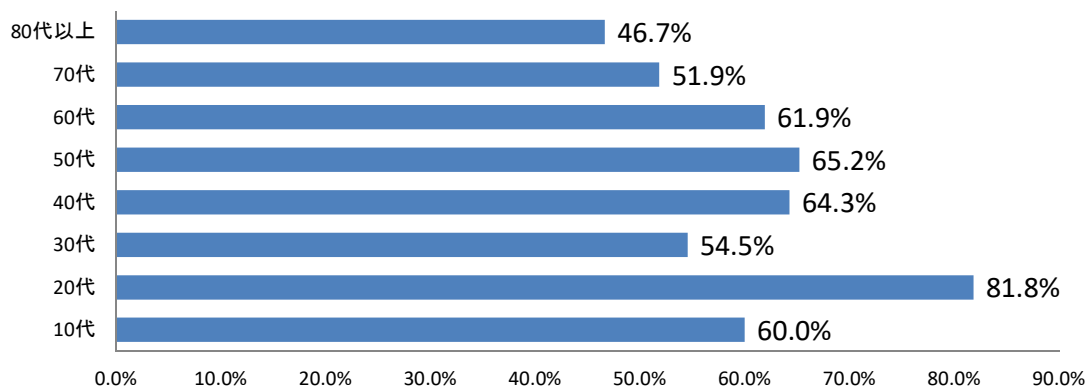
⑦暴力を受けた人から相談された



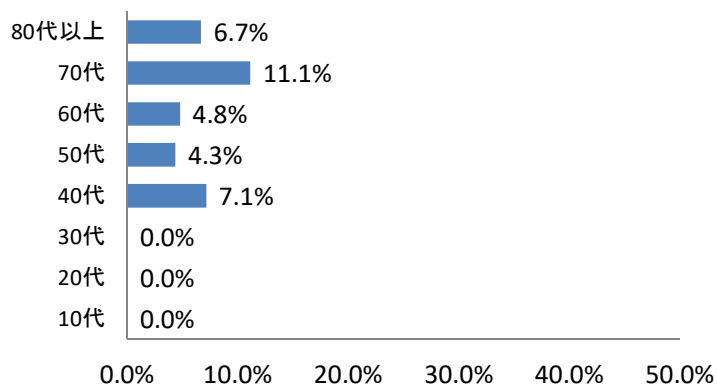
⑧地域で暴力を受けている人のうわさを聞いた



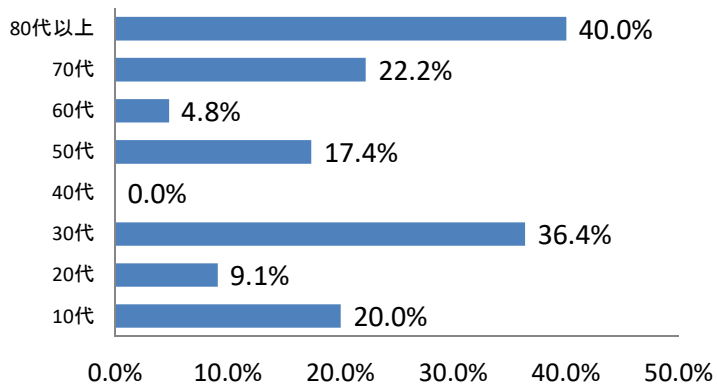
⑨身近で見聞きしたことがないが、テレビなどで知っている



⑩県配偶者暴力相談支援センターなど相談機関を知っている

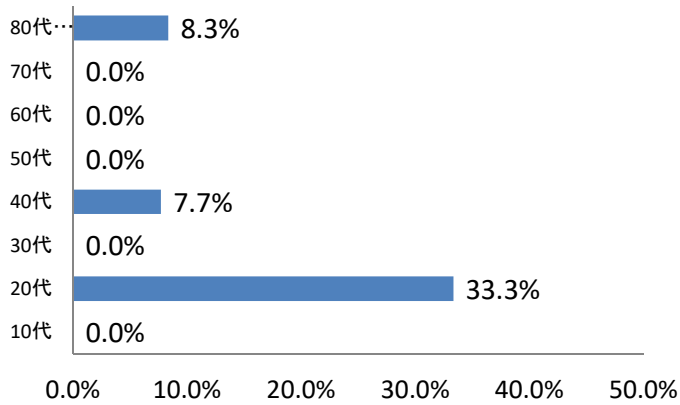


⑪まったく知らない



### 男性・年代別回答数に対する割合

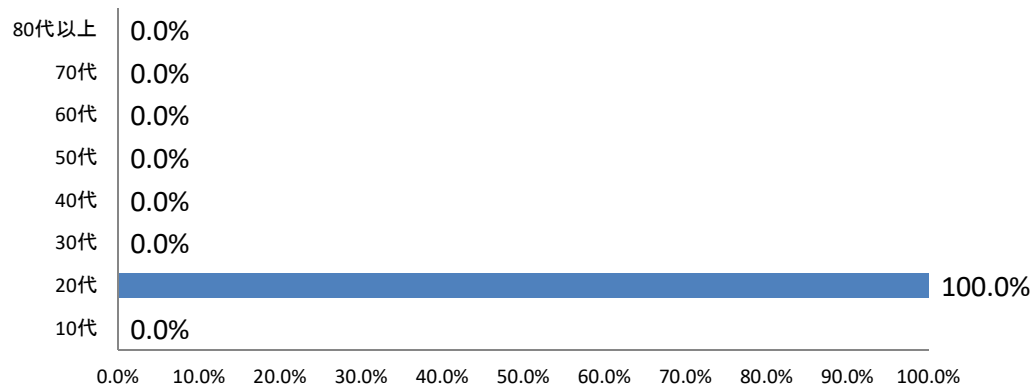
#### ①暴力を受けたことがある



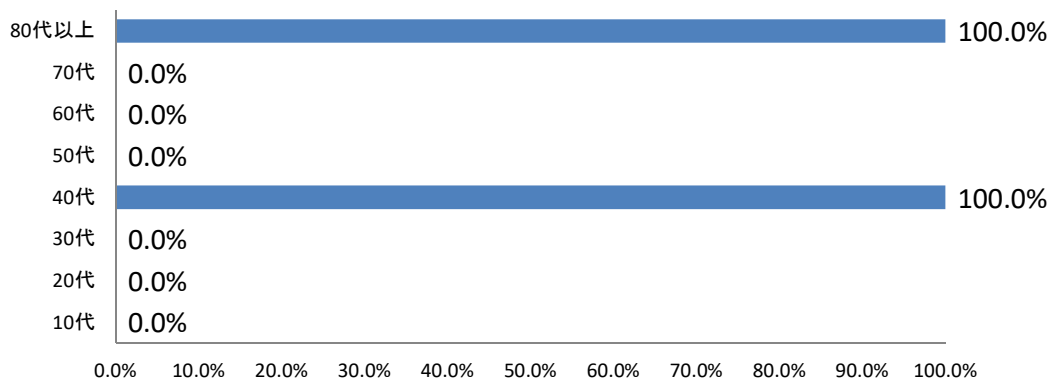
#### ②相談したことがある

※回答者なし

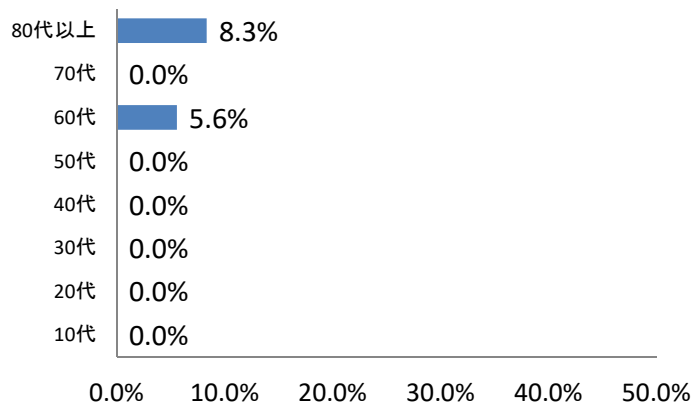
#### ③相談しなかったがしなかった



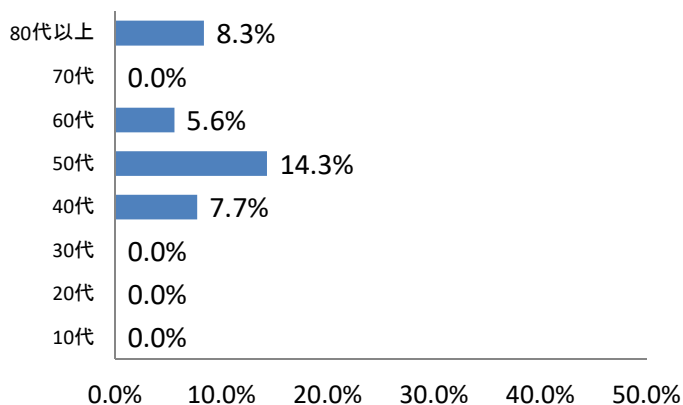
#### ④相談しようとは思わなかった



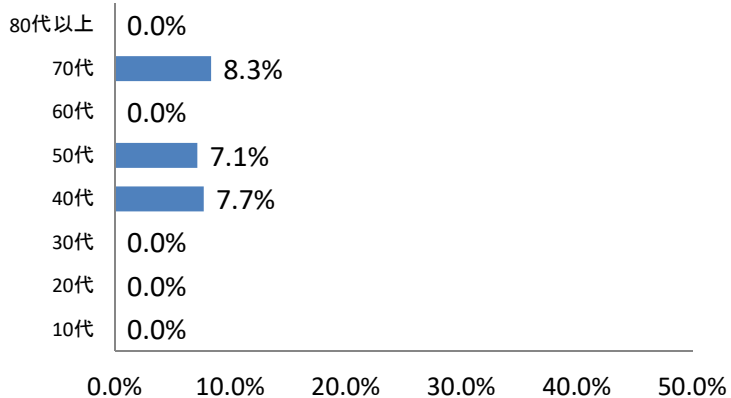
⑤暴力をふるったことがある



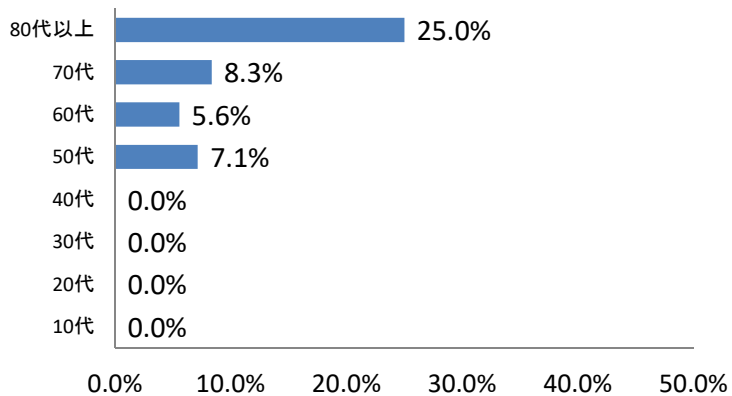
⑥身近に暴力を振るったこと、受けたことがある人がいる



⑦地域で暴力を受けている人のうわさを聞いた

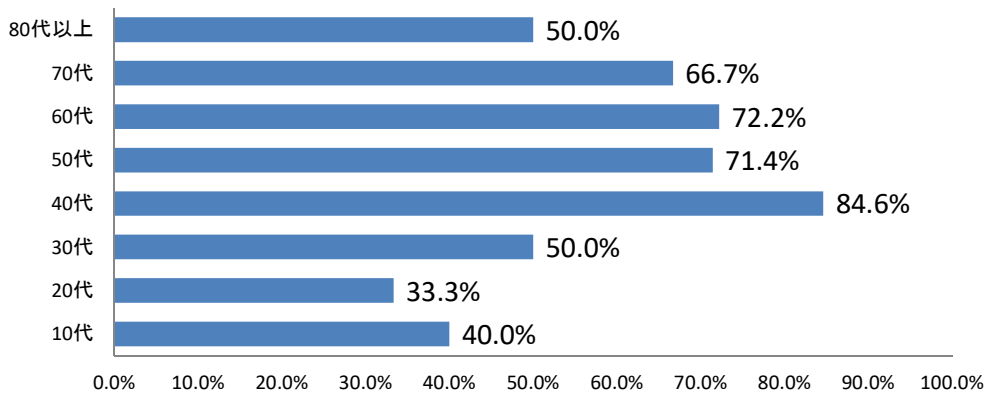


⑧身近ではないが、テレビなどで知っている

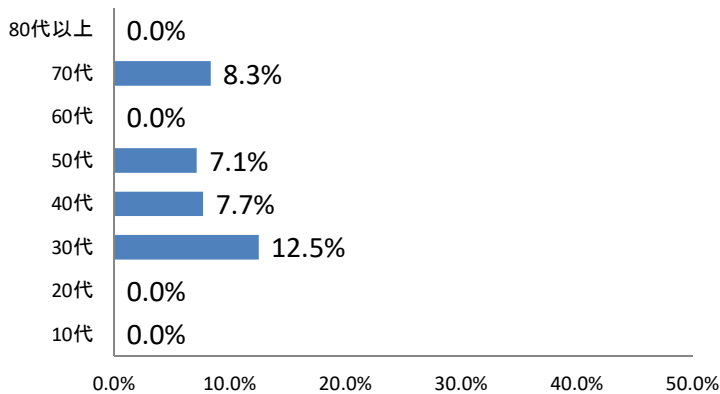




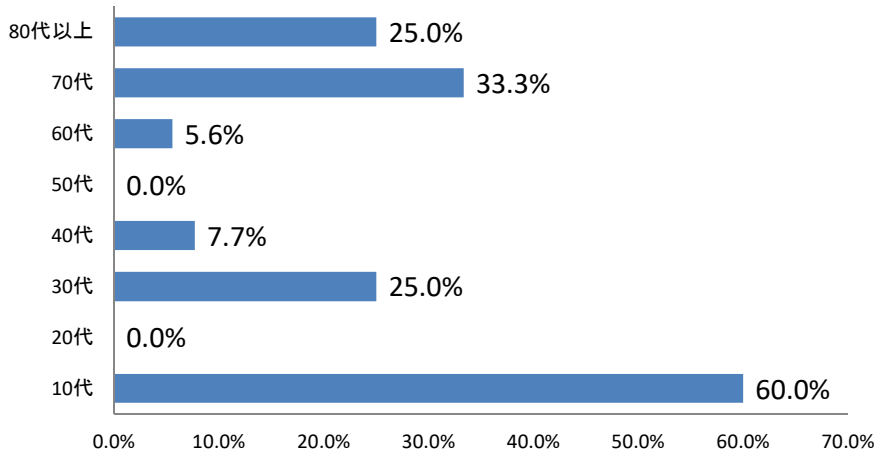
⑨県配偶者暴力相談支援センターなど相談機関を知っている



⑩わからない



⑪まったく知らない



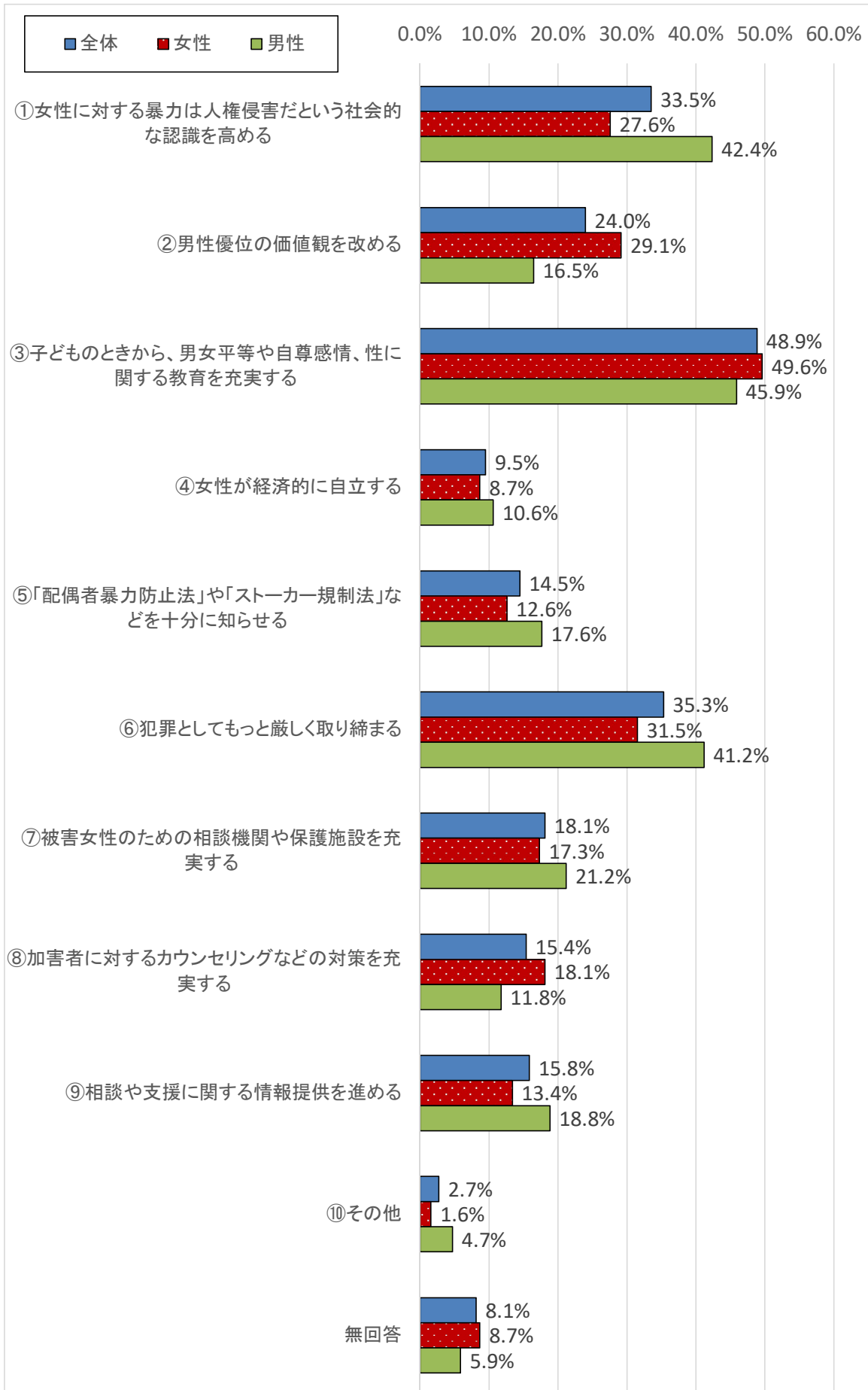
【全体】

DVを受けたことやふるったことがあるかの質問に対し、全体では5.4%の人が「今までに暴力を受けたことがある」、1.8%の人が「暴力をふるったことがある」、6.3%の人が「身近に暴力をふるったこと、受けたことがある人がいる」と答えている。

【性別】

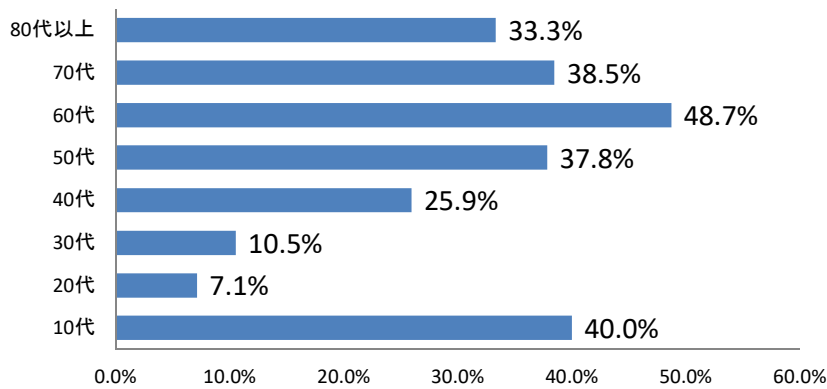
性別では「暴力を受けたことがある」で女性が男性より2.8%多く、「暴力をふるったことがある」では女性が1.6%に対し、男性2.4%とわずかに男性が上回っている。

問20 あなたは、パートナー等に対する暴力防止への取り組みとして、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

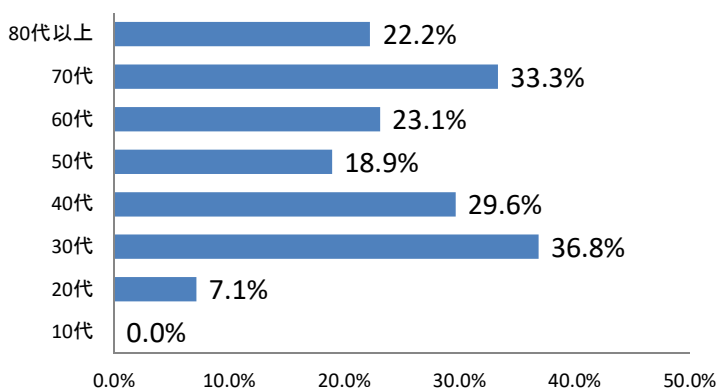


## 年代別回答数に対する割合

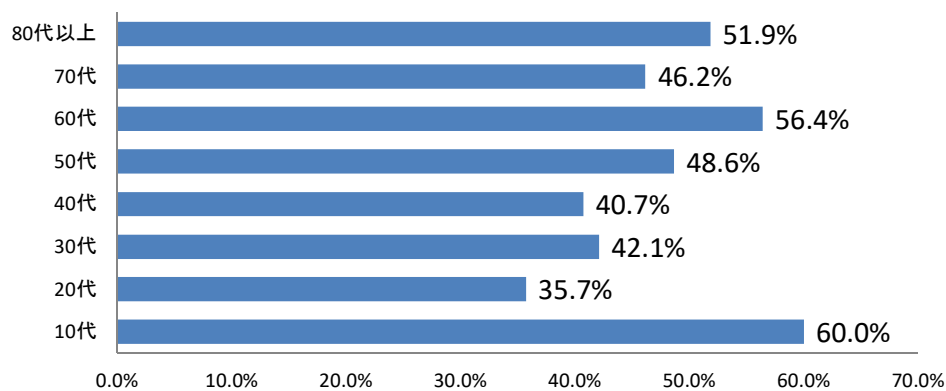
### ①女性に対する暴力は人権侵害だという認識を高める



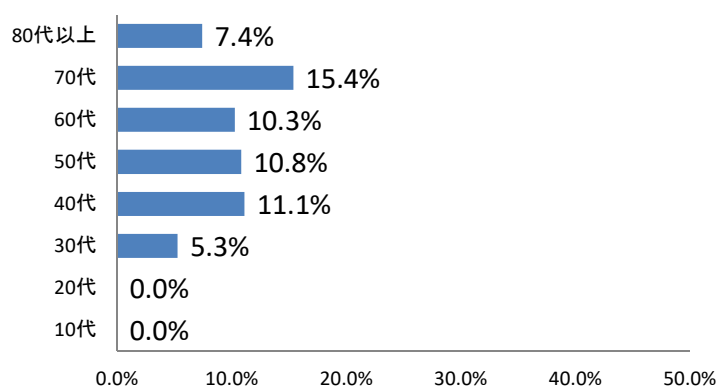
### ②男性優位の価値観を改める



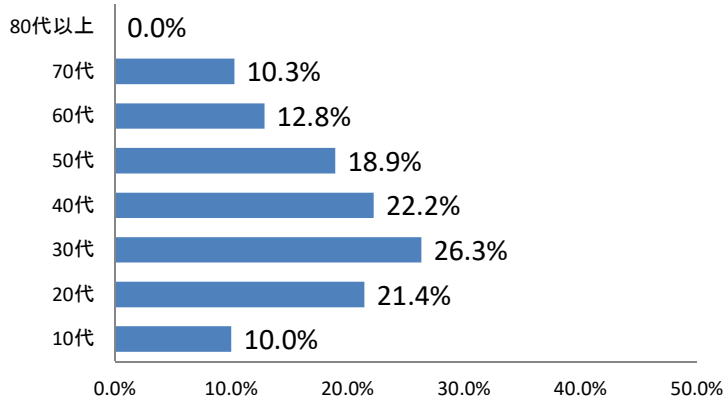
### ③子どもの時から男女平等などの教育の充実



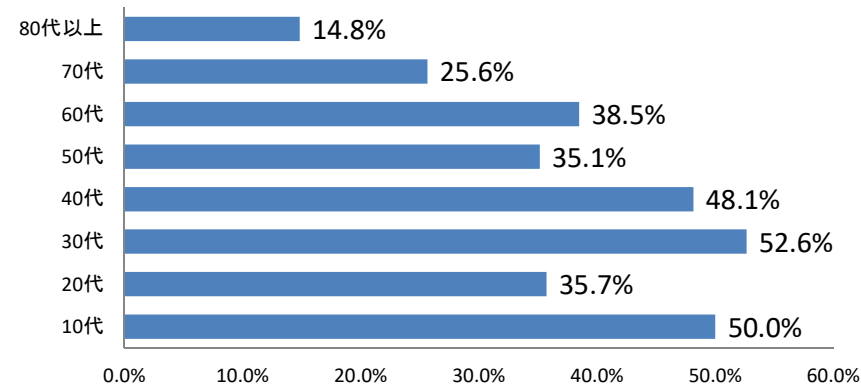
### ④女性が経済的に自立する



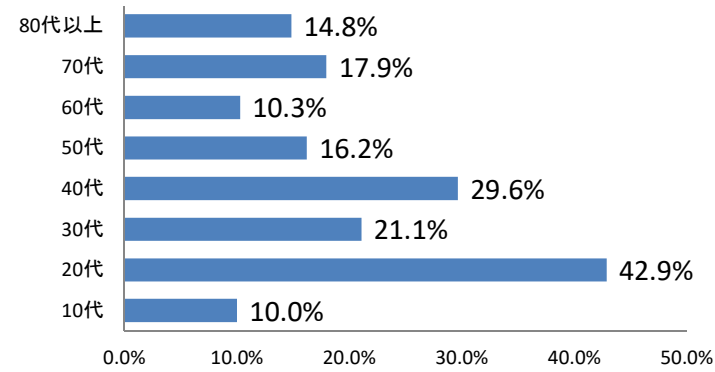
⑤配偶者暴力防止法・ストーカー規制法などの周知



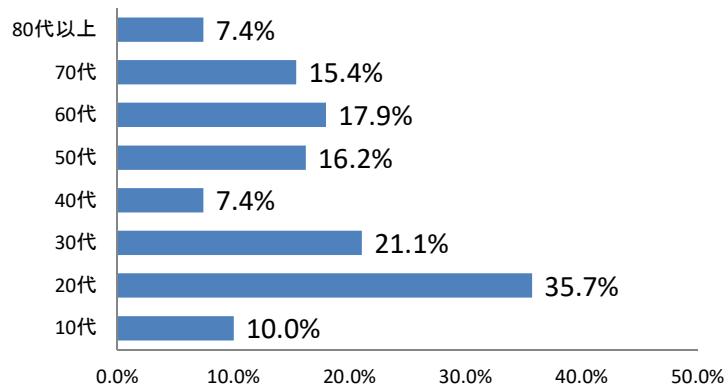
⑥犯罪として厳しく取り締まる



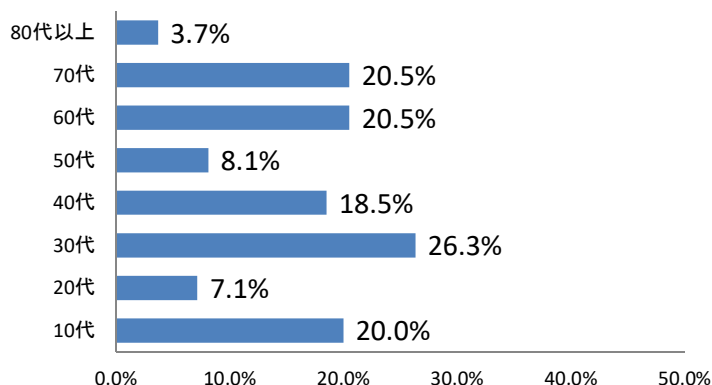
⑦相談機関や保護施設の充実



⑧加害者へのカウンセリングなど対策の充実



### ⑨相談や支援に関する情報提供



#### 意見

- ・相談機関や保護施設の充実が被害女性の為に限らない。男性に対する暴力も人権侵害です。
- ・女性がもっと自立、男女平等に対して女性側にもっと認識を高めさせてほしい。
- ・この質問自体性差別がある。DVを受けているのは女性ばかりではないし、経済的に自立していないのは男性にもある。
- ・暴力を振るう人に、DVという意識は無い。自分の機嫌を損なわれ逆に被害者だと思っている、身勝手な人間だと思う。
- ・勇気を持つ。
- ・本人意識の問題であり、どの教育をしてもDVは止められないと思います。
- ・加害者に対する厳罰化
- ・被害者が女性だけである。という認識を改めるべき。上記の問いは男性差別である。

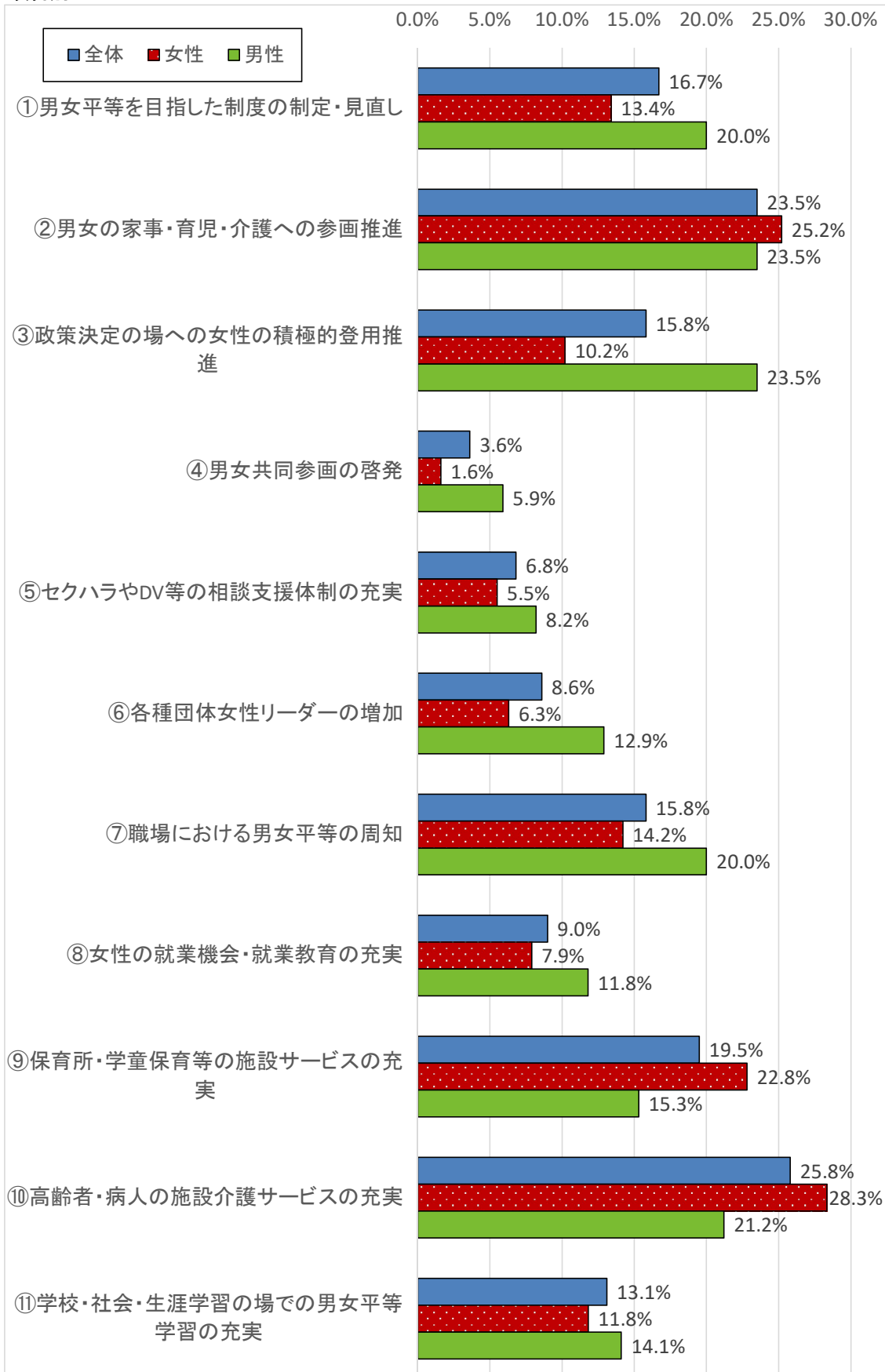
#### 【全体、性別】

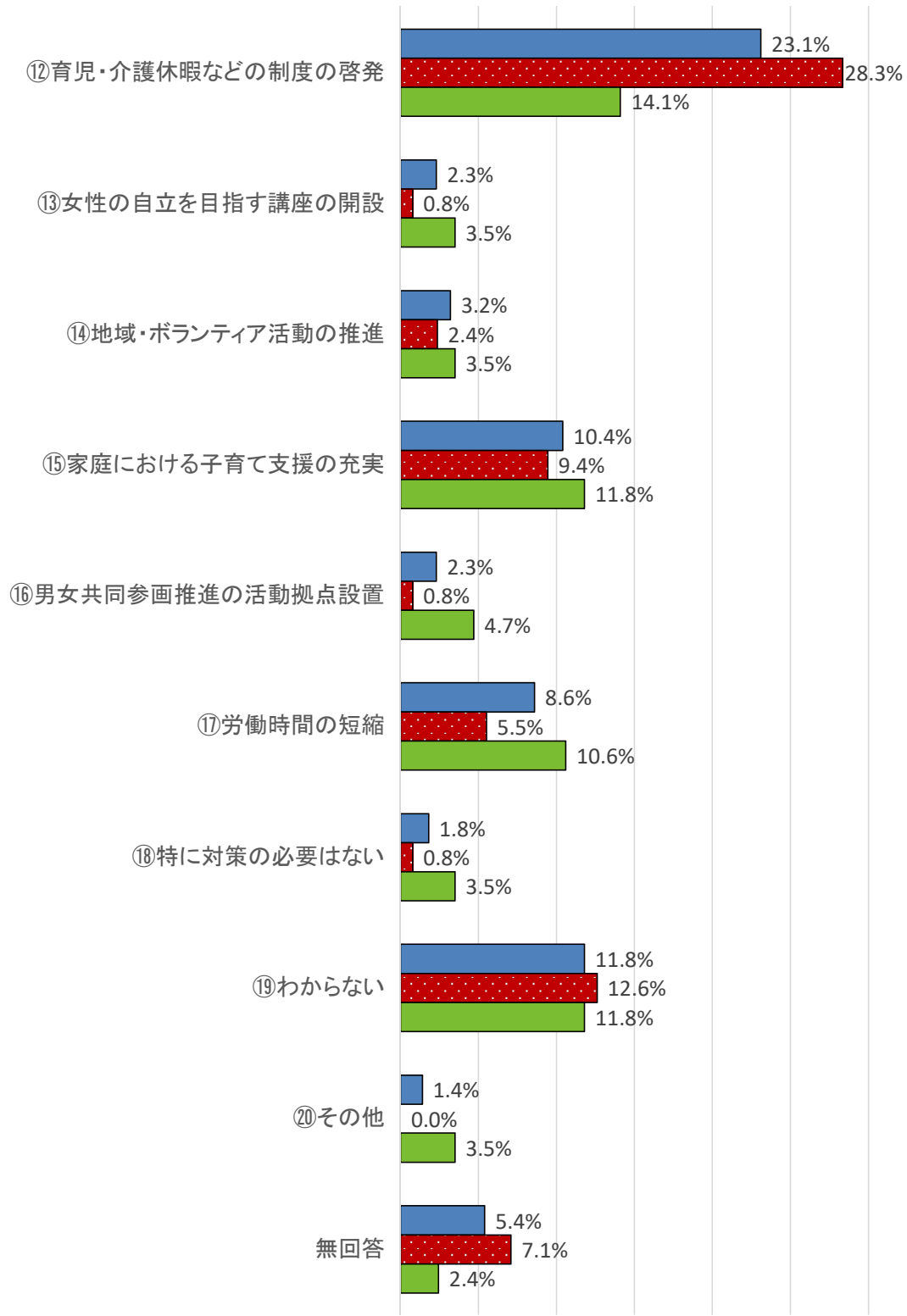
全体では③「子どものときから男女平等や自尊感情、性に関する教育を充実する」と答えた人の割合が48.9%と高い。「女性に対する暴力は人権侵害だ」という社会的な認識を高める」と答えた人の割合は女性(27.6%)より男性の方が高い(42.4%)。また⑥「犯罪として厳しく取り締まる」と答えた人の割合も高い。(全体35.3%女性31.5%男性41.2%)

## 5. 男女共同参画社会の実現について

問21 誰もが、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に、共同で平等に参画する社会を実現するために、新温泉町は何に力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

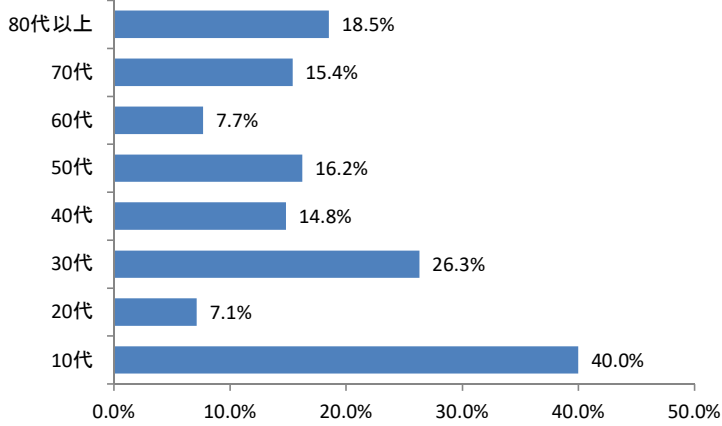
項目別



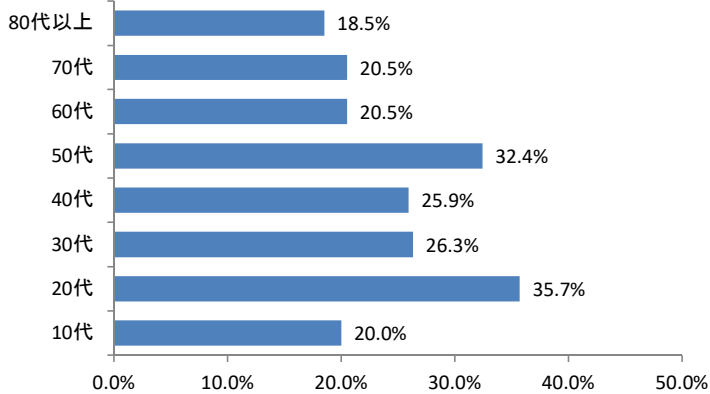


## 年代別回答数に対する割合

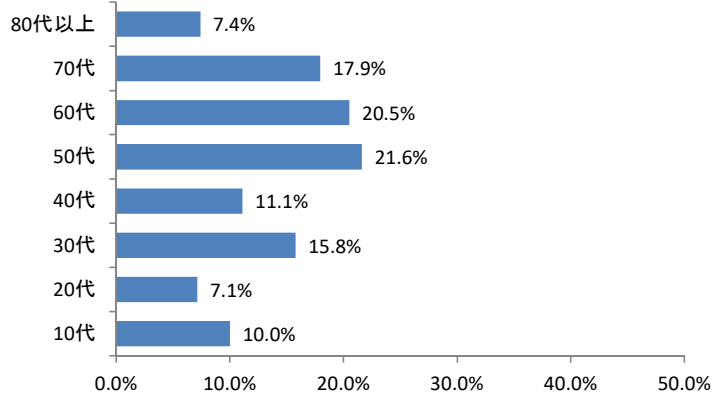
### ①男女平等を目指した制度の制定や見直しを図る



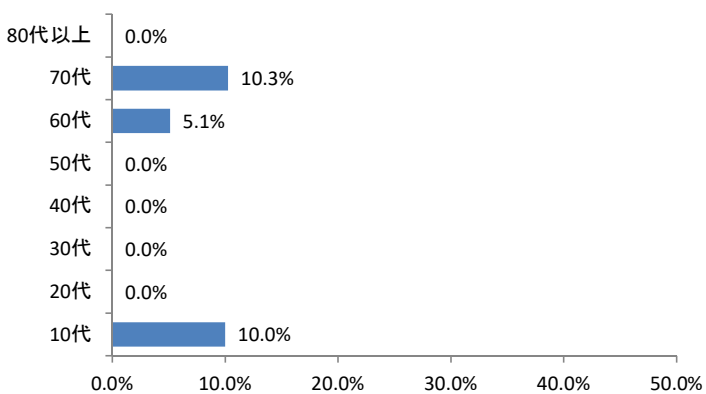
### ②男女の家事、育児、介護への参画を推進する



### ③政策決定の場への女性の積極的な登用促進を図る

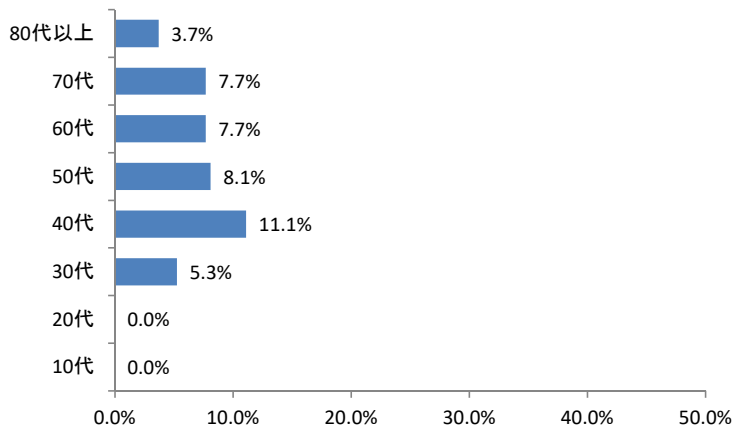


### ④男女共同参画に関するPR等をパンフレット・町広報紙等で積極的に行う

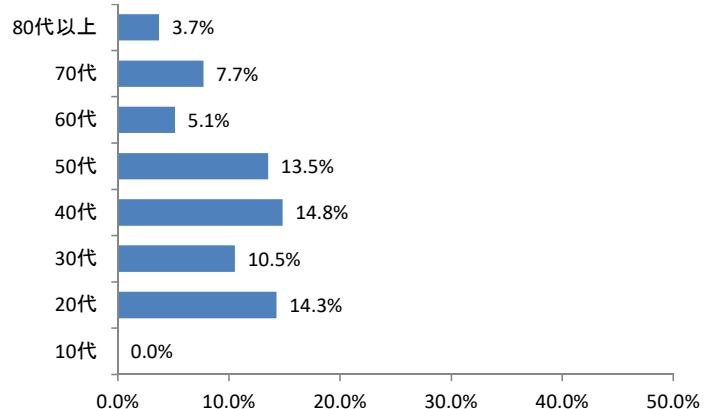




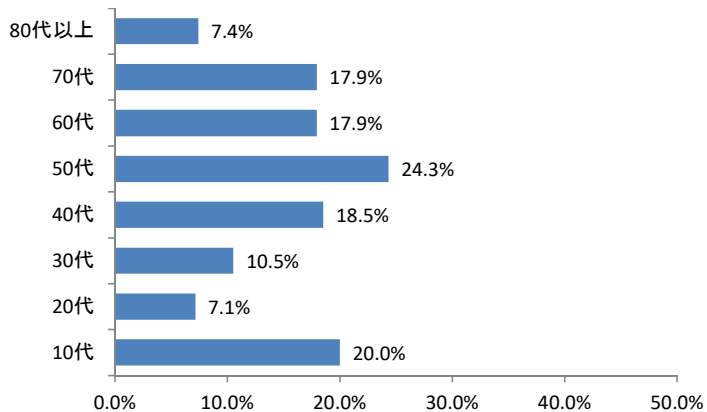
⑤セクハラ(※1)やDV等、人権に関する相談窓口や支援体制を充実させる



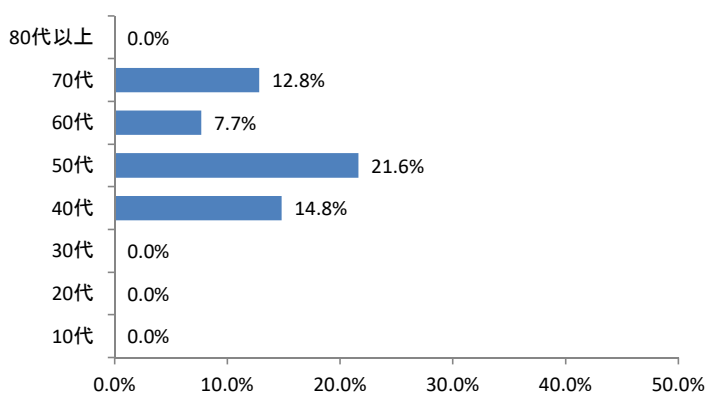
⑥地域の各種団体の女性リーダーの割合を増やす



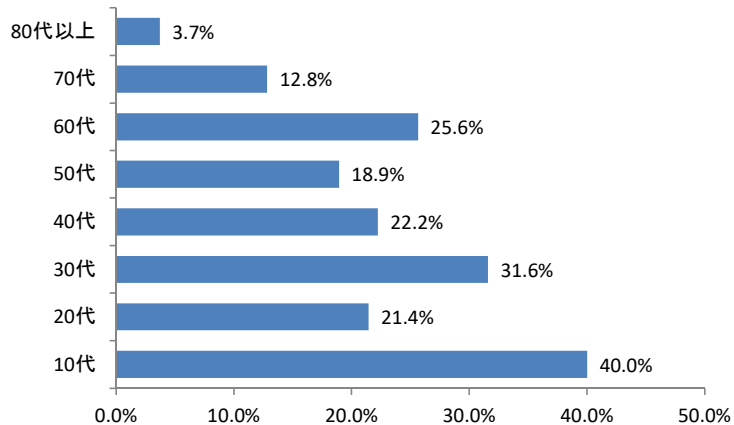
⑦職場における男女の平等な取り扱いの周知徹底を図る



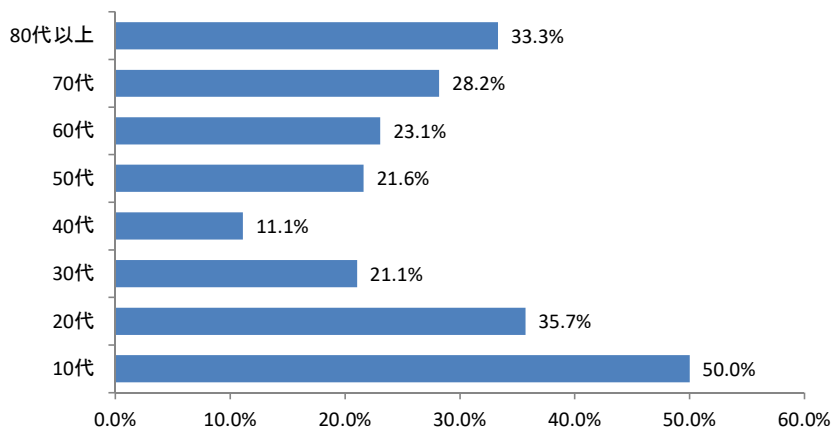
⑧女性の就労機会の確保、女性の職業教育や職業訓練を充実させる



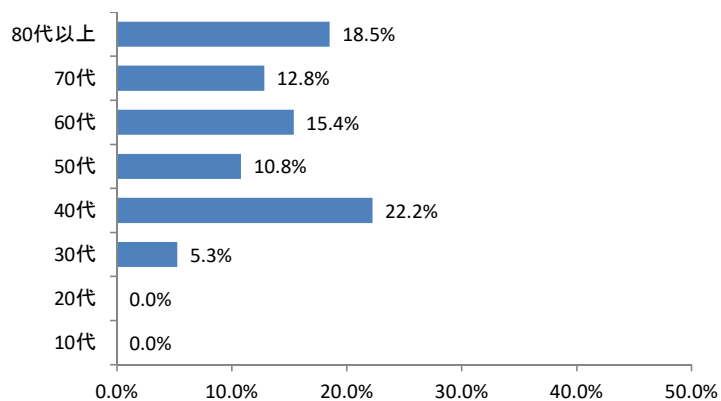
⑨ 保育所や学童保育所等の施設・サービスを充実させる



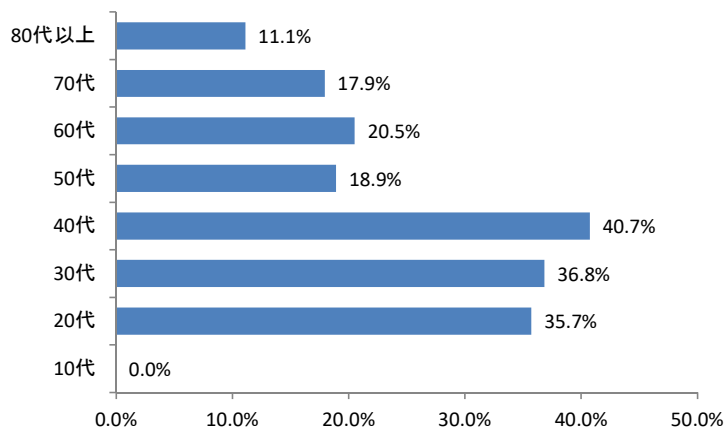
⑩ 高齢者等の施設や医療・介護サービスを充実させる



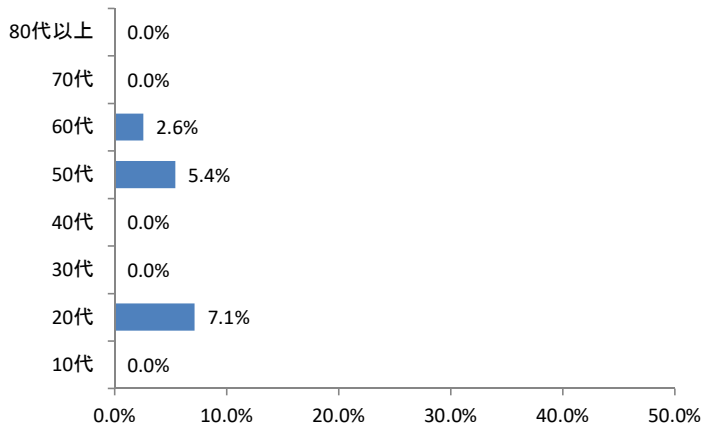
⑪ 学校・社会・生涯教育の場での男女平等や相互理解についての学習を充実させる



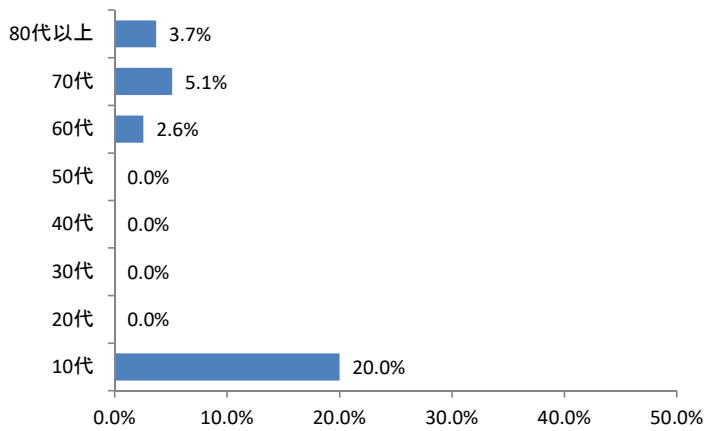
⑫ 育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう啓発を図る



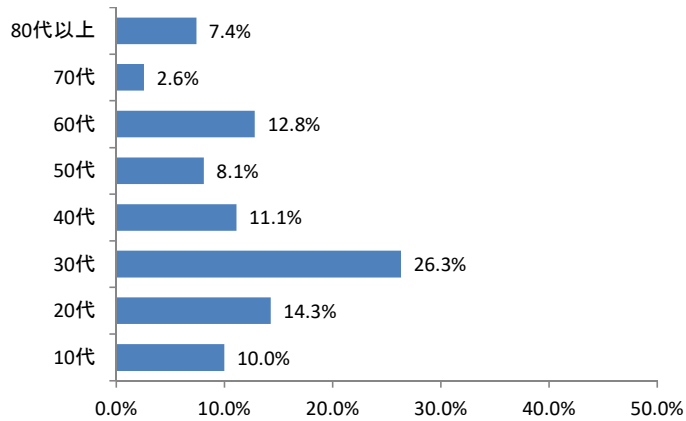
⑬女性の自立をめざす講座を開催する



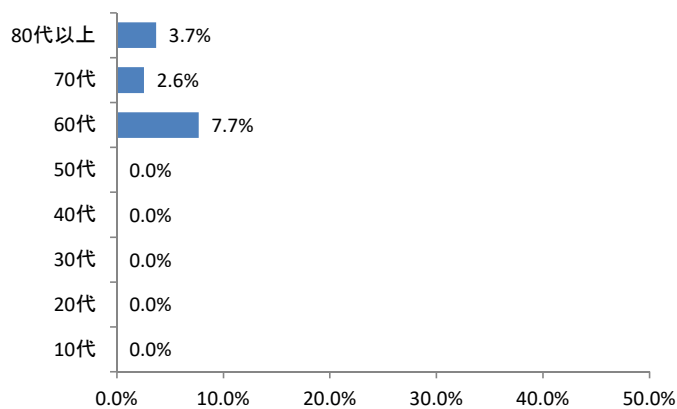
⑭地域活動やボランティア活動の推進を図る



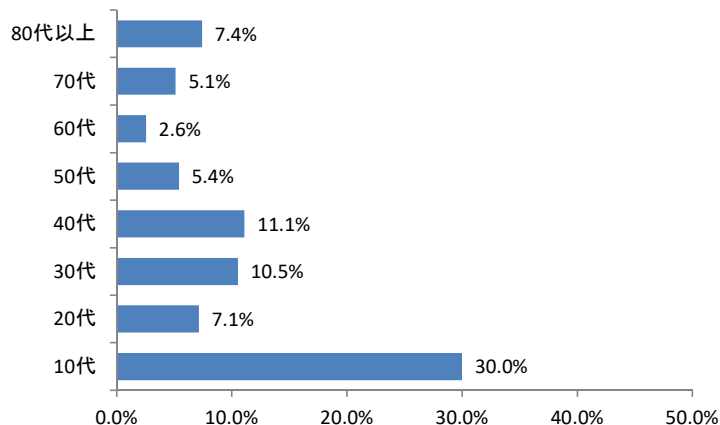
⑮家庭における子育て支援の充実を図る



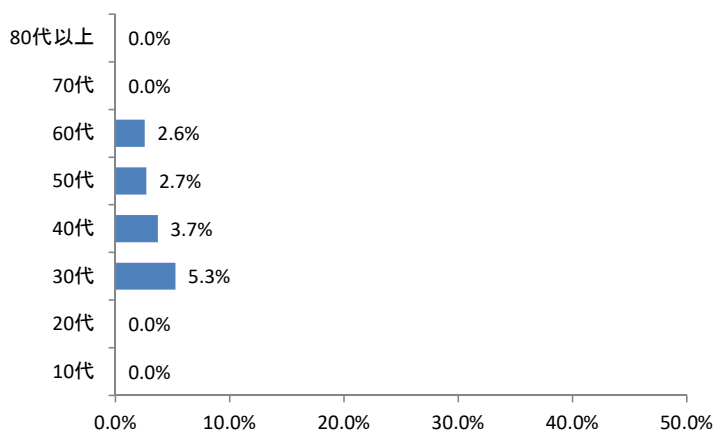
⑯男女共同参画推進に向けた活動拠点施設を設置する



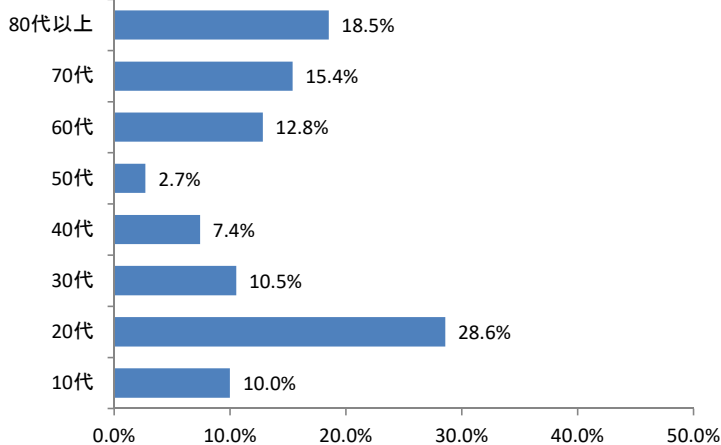
⑰労働時間の短縮



⑱特に対策の必要はない



⑲わからない



【意見】

- ・町議会の男性議員を征服し、一定以上は女性議員にする。
- ・多分、何してもダメなものはダメ。本人次第。
- ・男の目線で考えず、女性からの意見を聞くも大事。

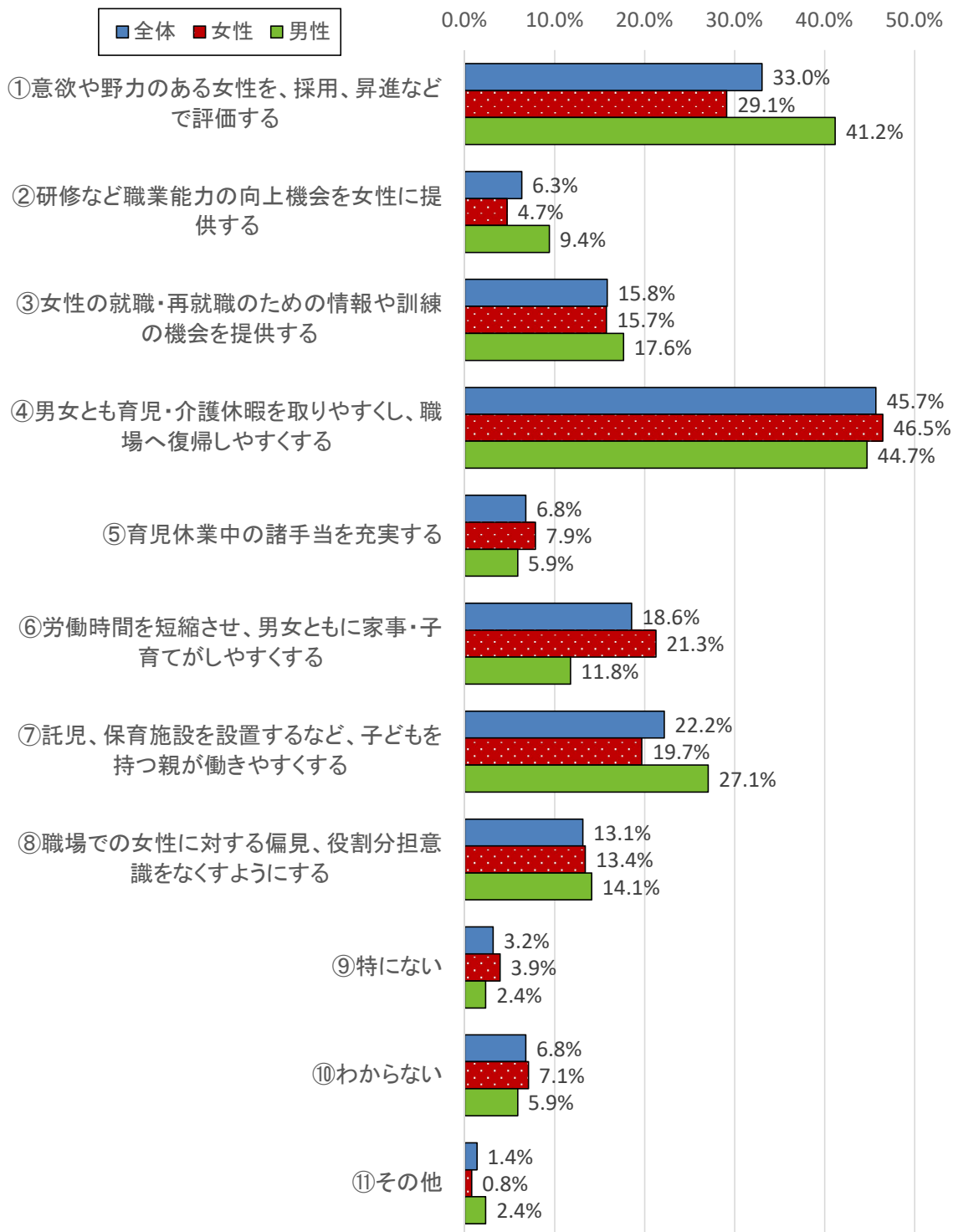
【全体、性別】

全体で最も高かったのは「高齢者・病人の施設介護サービスの充実」(25.8%)。男性で一番割合が高かったのは「政策決定の場への女性の登用促進」と「男女の家事育児介護への参画推進」が23.5%であった。女性では「高齢者等の施設・介護サービス充実」「育児介護休暇などの制度の啓発」が28.3%であった。「対策は必要ない」「わからない」と回答した人も一定数ある。

【年代別】

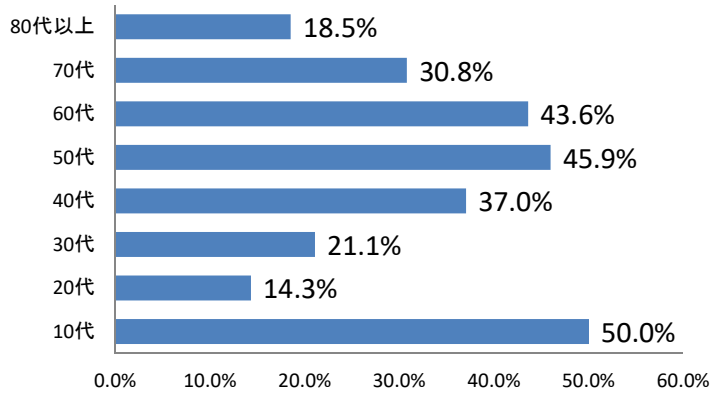
20～40代では「保育所や学童保育所等の施設・サービスを充実させる」「育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう啓発を図る」と答えた人の割合が高い。

問22 あなたは、ワークライフバランスに配慮した男女平等参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。（〇は2つまで）

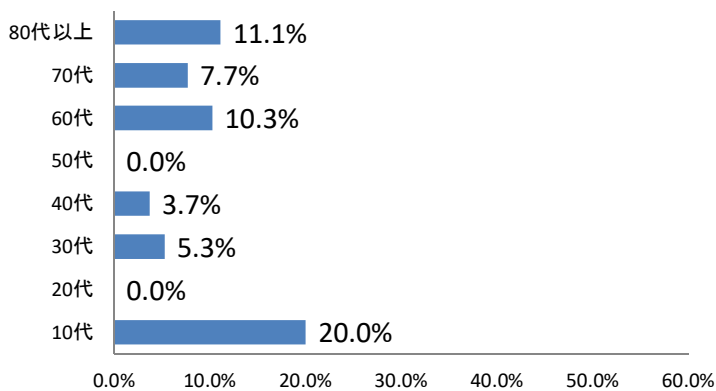


## 年代別回答数に対する割合

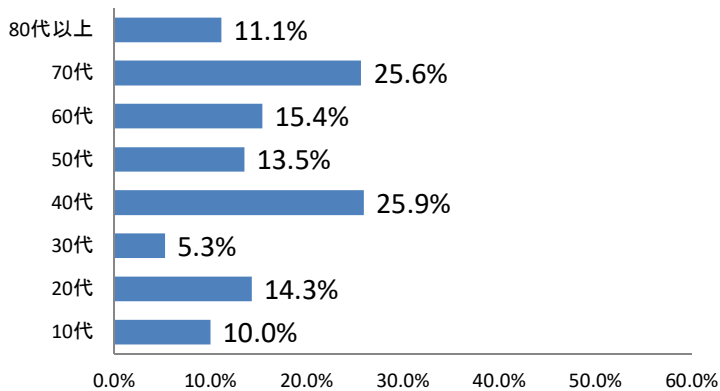
### ①意欲や能力のある女性を、採用、昇進で評価



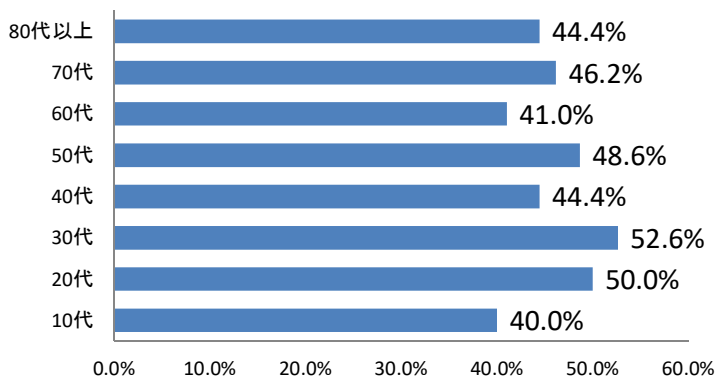
### ②研修や職業能力の開発向上機会を女性に提供



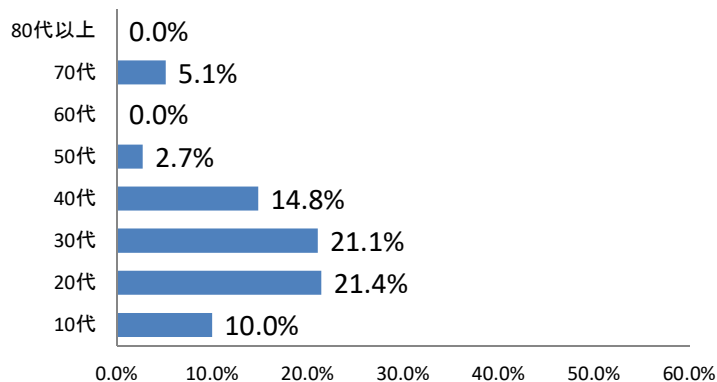
### ③女性の就職、再就職のための職業情報・訓練の機会を提供



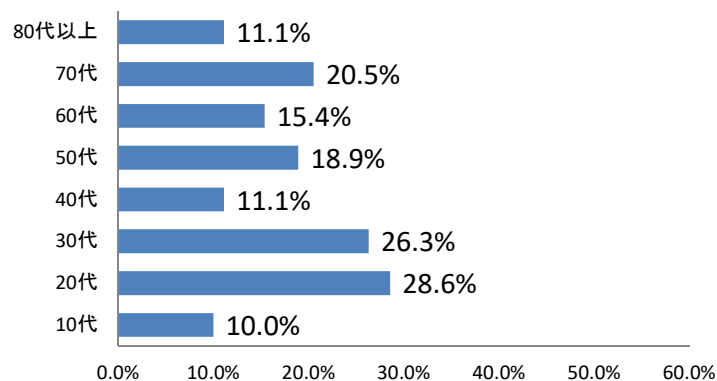
### ④男女とも育児・介護休業を取りやすく、休暇後は職場復帰



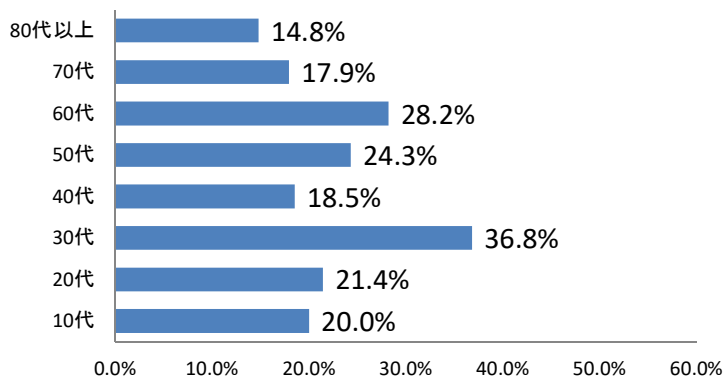
⑤育児休業中の諸手当を充実



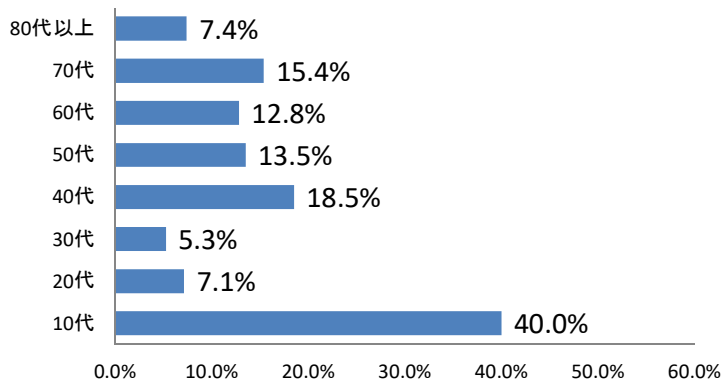
⑥労働時間を短縮、男女とも家事、子育てをしやすくする



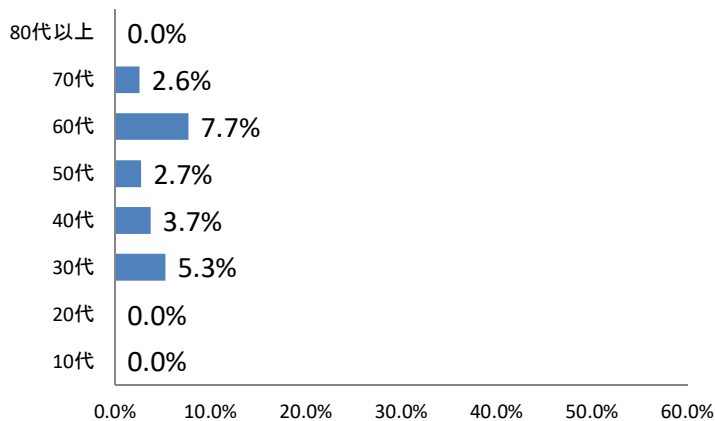
⑦託児、保育施設を設置するなど子どもを持つ男女が働きやすくする



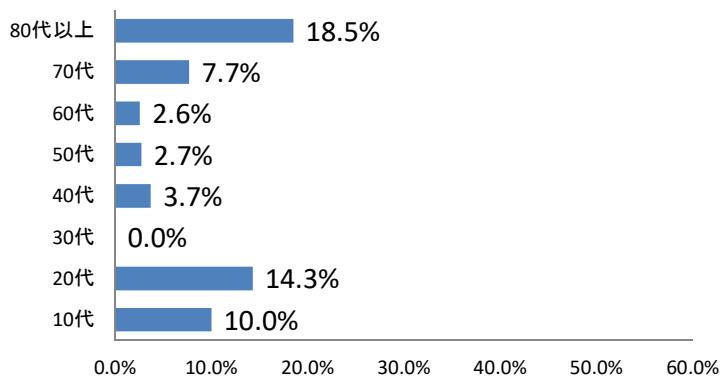
⑧職場での女性に対する固定的役割分担意識をなくす



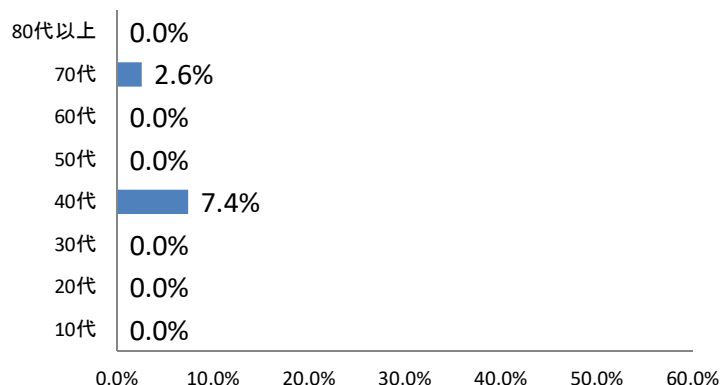
⑨特にない



⑩わからない



わからない・無回答



【意見】

- ・私達が子供を育てた時と時代がちがうからあまりわからない。
- ・多分、何してもダメなものはダメ。本人次第。
- ・親と同居しながらいい関係づくりの方法を学ぶ。
- ・意欲や能力だけだとハラスメント止まりません。環境づくりが大事。

【全体、性別】

全体として、④「男女とも育児・介護休業をとりやすくし、休暇後は、職場復帰しやすくする」が45.7%と最も高く、次いで①「意欲や能力のある女性を採用、昇進などで評価する」が33.0%と高い。男性では⑦「託児保育施設を設置するなど子どもを持つ男女が働きやすいようにする」が27.1%と次に高くなっている。

【年代別】

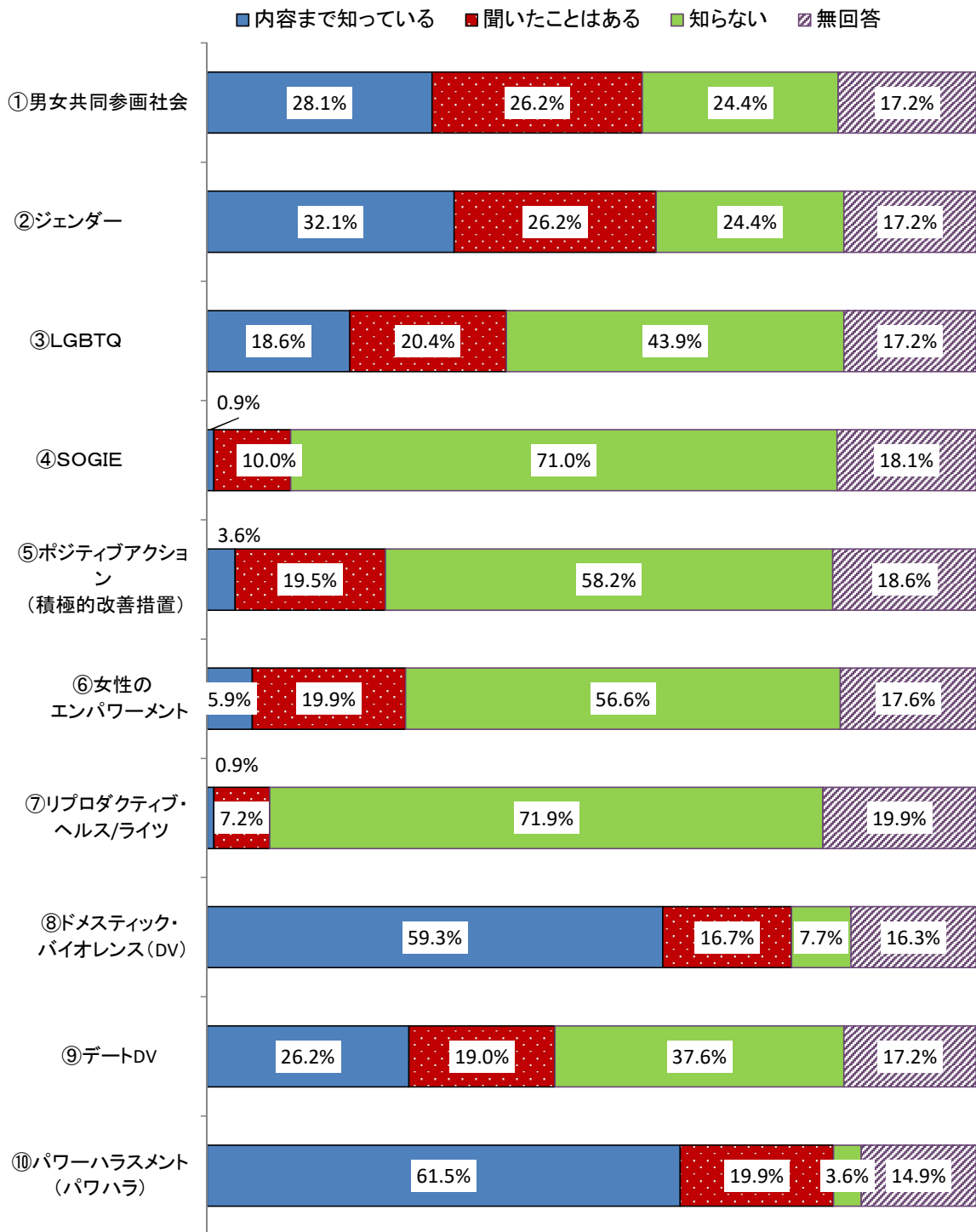
年代別では、ほとんどの年代が、④「男女とも育児・介護休業をとりやすくし、休暇後は、職場復帰しやすくする」が最も高くなっている。

⑦「託児保育施設を設置するなど子どもを持つ男女が働きやすいようにする」は30代で高い。



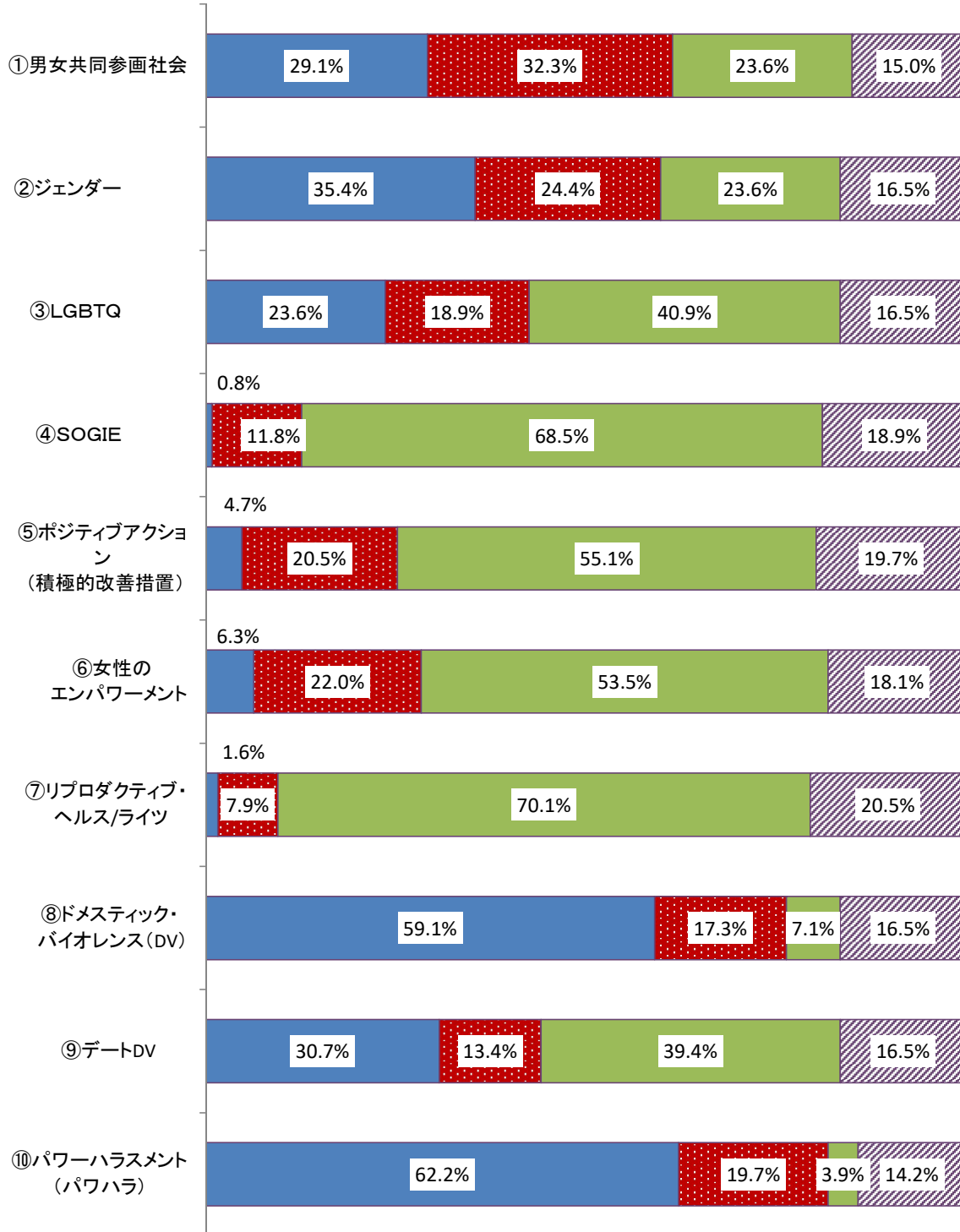
問23 次の男女共同参画社会に関することがらについて、あなたは知っていますか。①～⑩の項目ごとにそれぞれお答えください。  
(〇は1つ)

全体  
(221人)

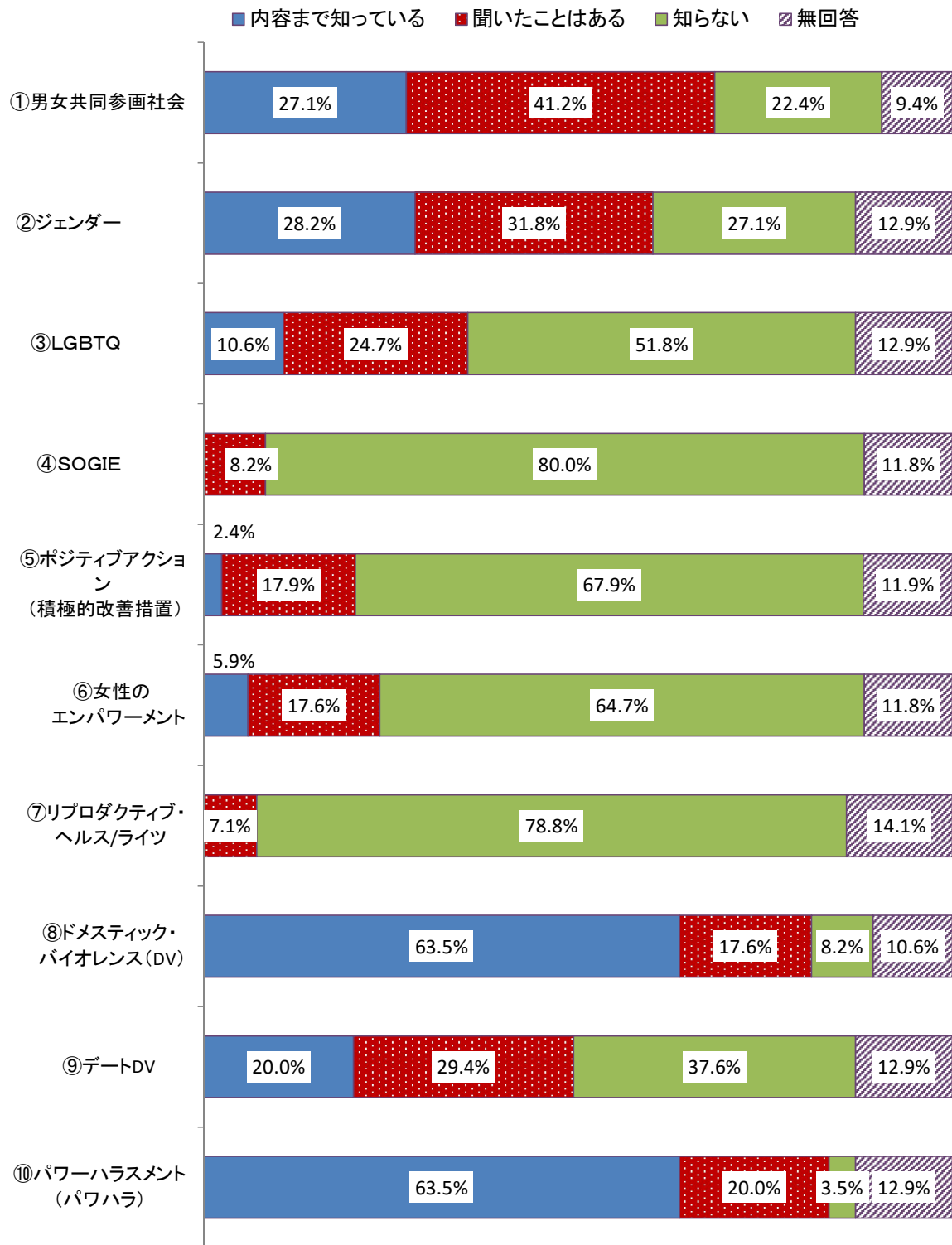


女性  
(127人)

■ 内容まで知っている ■ 聞いたことはある ■ 知らない ■ 無回答



男性  
(85人)



【全体】

全体では「内容まで知っている」と回答した項目は⑩「パワハラ」(61.5%)⑧「DV」(59.3%)、次いで②「ジェンダー」(32.1%)の割合が高い。

全体で、「知らない」が高い項目は⑦「リプロダクティブヘルス/ライツ」(71.9%)、次いで④「SOGIE」(71.0%)となっている。

【性別】

全体的に、女性の方が「知っている」割合が高いが⑩「パワハラ」⑧「DV」は男性の方が「知っている」割合が高い。

問24 男女共同参画社会づくりについて、ご意見ご要望がありましたらご記入ください。

※記載については、出来るだけ原文の表記のまま記載しています。

- ・一人一人がいろいろな所で勉強し、社会、家庭に必要な存在となるようにしなければならない。差別がなくなり、輝く社会になって行くと思う。一人一人の力が大切であると思う。
- ・男女共同参画社会といわれると、女性が社会的地位が低いことが前提としておかれているが、一部では、女性優位な制度等が多々ある。平等を目指すのなら男女という言葉を使うこと自体を変えていくべきだと思います。
- ・調査だけでなく、その結果に基づいて施策を実施すべきではないか。
- ・新温泉町でも、特に女性の活躍は遅れているように思う。子育て環境が特に遅れている。これが出生率低下の原因の一つ。議会の議員の男性を減らし女性を増やすのがよい。条例を作ってできないか。
- ・数多くの情報発信を望みます。
- ・新温泉町は情報発信の仕方が異常に下手。
- ・女性の意見どころか町民の意見すら反映されていない。
- ・いろんな人がいることを認めることから始めればよいと思う。認めると、その人のことを知ろうとするし。そこからどうすればいいなどの課題や問題がみえてくるので一歩ずつでないで形からも入っていけないことが多いと思う。
- ・個人の意識、家族構成員の意識、個人を取り巻く社会構成員の意識。この場合、個人とは女性であるがそれらとともに個人の資質、思想、また経済観念、価値観等と深く関連しており、また「子育て」への関わり方、への思い入れ など複雑な要素がからんでおり…。何よりも実質的な協力、助力が欠かせないだろう。具体的には？？？
- ・まずは女性の意識改革(家族の理解) 適材適所の人事配置
- ・人が減少すると何もできなくなるので男女共同参画の意識改革が必要と思うが最重要課題は若者の町外への流出を防ぐことや若者の働く場所の確保ではないかと思います。
- ・時代がそうさせているのか。10年後くらいは何か変わっていると思うよ！なんだかんだ30年くらい前の方がよかったような。
- ・新温泉町にふさわしい参画事業を作してほしい。※親との同居スタイルでいい子育て支援(母子ともに)をゲンカイ集落にならないためにも将来を見つめてほしい。
- ・質問の内容が男性目線なので、男女共同参画社会は厳しいと思います。
- ・役場職員の意識改革から始めてみては？
- ・もっと若い方々に調査した方が意識が高まると思います。
- ・”男女共同参画社会づくり”とは難しく感じますが、男女ともに生活しやすい社会を作ることだと思います。
- ・人口減少に歯止めがかからず、労働時間の短縮は難しいと思います。また、自営業では、セミナーや研修を受講する時間も取れず、たよるは公的支援になると思います。男女共同参画社会に対する若者の意識は高く、生活環境の整備(保育所の充実、公園の整備)を希望します。

・女性の社会進出が叫ばれるようになってから長い年月が経過していると思いますが、現状は依然とそう変わりがない部分があるのではと考えます。コロナ禍においてしわよせがきているのは立場の弱い女性に多くあるのでは…と。今後はそういったことをなくしていく他、LGBTQ、性的マイノリティの方たちへの理解を深めていかなければならないと思いますので、男性、女性の枠組にとらわれない社会を構築していくため、子どもたち、子どもを取り巻く大人たちの教育が重要だと思います。

・以前にもこのようなアンケート回答をして提出したことがあるように思うが、生かされているのでしょうか？

・カタカナやローマ字の表記では何のことかわからないことが多いので漢字や分かる言葉で書いてほしい

・婚姻と共に女性が男性の家に入り、家風の違いに忍耐強くなじむ風習があったがお互いの立場を理解し助け合うことが必要でお互いを人間として尊重する気持ちがなければ男女の格差はなくなり行政、家庭、学校、すべての場所での意識改革が無くては難しいと思います。形だけの変革は望みません。一つ一つ、目に見える変革を望みます。

・どんなに働いても収入が増えなければ、仕事は増えても家庭での時間は増えないだろうから、そこも考える必要があるのでは？

・知らないです。

・男性の考えも古いが、女性の男性の頼る考えもいまだ根強い。平等を目指すにはまず両性の考えを変えるべきだ。

# 新温泉町民の男女共同参画に関する意識調査

～誰もが生き生き暮らせる社会を目指して～

## ご協力をお願い

皆様には、日頃から町政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。本町では、「第3次新温泉町男女共同参画社会プラン～自分らしく生き生き新温泉町～」に基づき男女共同参画施策を進めています。

この度、第4次プラン策定にあたり、今後の施策に町民の皆さまの意識を反映させることを目的に、「男女共同参画に関する意識調査」を実施することとしました。

実施にあたっては、町内にお住まいの18歳以上の方から、600人を無作為に選ばせていただきました。

回答は、無記名ですので、個人が特定されることはありません。また、回答いただいた結果は当プラン策定のみで使用し、他の目的に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、本調査にご協力をお願い申し上げます。

令和3年7月

新温泉町長 西村 銀三

### 1. 記入方法

「新温泉町民の男女共同参画に関する意識調査」をご覧いただき、調査項目のあてはまる項目の番号を○で囲んでください。なお、○の数は設問ごとに記載しています。

### 2. 提出方法

アンケート回答用紙を同封の返信用封筒に封入（切手を貼る必要はありません）のうえ、郵便ポストに投函してください。

### 3. 提出期限

令和3年7月30日（金）

※本調査に関する個人情報、一切漏洩することなく守秘本調査終了次第すみやかに廃棄いたします。

※このアンケート調査票についての問い合わせは、下記までお願いいたします。

問合せ先

〒669-6702 新温泉町浜坂2135-1  
人権推進室（新温泉町文化会館内）  
TEL0796-82-3328 FAX0796-82-4644

## はじめに、あなたご自身のことについてお答えください

問1 あなたの性別をご記入ください。

( )

問2 あなたの年齢は。(○は1つ)

- 1. 10代
- 2. 20代
- 3. 30代
- 4. 40代
- 5. 50代
- 6. 60代
- 7. 70代
- 8. 80代以上

問3 あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。(○は1つ)

- 1. 結婚している
- 2. 結婚したが離別・死亡した
- 3. 未婚

問4 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

- 1. 自営業主・家族従業者
- 2. 常勤の勤め人（フルタイム）
- 3. 自由業（医師・税理士・塾講師など）
- 4. パート・アルバイト勤務
- 5. 内職
- 6. 専業主婦（主夫）
- 7. 学生
- 8. 無職（6、7以外）
- 9. その他（ )

問5 あなたの配偶者（パートナー）の職業は何ですか。(○は1つ)

- 1. 自営業主・家族従業者
- 2. 常勤の勤め人（フルタイム）
- 3. 自由業（医師・税理士・塾講師など）
- 4. パート・アルバイト勤務
- 5. 内職
- 6. 専業主婦（主夫）
- 7. 学生
- 8. 無職（6、7以外）
- 9. その他（ )

問6 あなたの世帯構成は、次のうちどれですか。(○は1つ)

- 1. 一人暮らし
- 2. 夫婦（事実婚を含む）のみ
- 3. 夫婦と子
- 4. 一人親と子
- 5. 夫婦と親
- 6. 夫婦と親と子
- 7. 祖父母と孫
- 8. その他（ )

## 1 男女平等の意識についてお答えください

問7 あなたは、次のような各分野で、男女が平等になっていると思いますか。①～⑨の項目ごとにそれぞれお答えください。(○は1つ)

	れ男 で性 いが る優 遇さ	遇えど さばら れ男ら て性が いがと る優 い	平等 である	遇えど さばら れ女ら て性が いがと る優 い	れ女 で性 いが る優 遇さ	わ か ら な い
① 家庭生活で						
② 就職活動の場で						
③ 職場で						
④ 学校教育の場で						
⑤ 町内会や自治会等の活動の場で						
⑥ 社会通念・慣習・しきたりなどで						
⑦ 法律や制度の上で						
⑧ 政治の場で						
⑨ 社会全体で						

問8 男女平等を実現するために、私たちはどのような取り組みが特に必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 夫婦で協力しながら、家庭や子育て、介護などを行うようにする
- 女性が、積極的に社会的活動への参画意識をもつようにする
- 家庭や職場、地域などで男女共同参画について話し合う
- 男の子女の子にとらわれず、自分らしさ(それぞれの個性)を発揮できるような子育てを行うようにする
- 男女共同参画を推進する事業に積極的に参加する
- 男女の固定的役割分担についての社会通念やしきたりをなくすようにする
- 男性も女性もお互いの能力を認め合う
- 人権学習会に積極的に参加する
- 取り組みが必要はない
- わからない
- その他(ご意見がありましたらご記入ください。)

## 2 政策・方針決定過程への参画についてお答えください

問9 あなたは、次に掲げる活動に参加していますか。(○はいくつでも)

- 福祉、ボランティア活動
- 自治会、婦人会などの地域活動
- 公民館・図書館・学校・PTA役員などの教育・文化関連活動
- 地域行事や祭りの企画・運営など、地域おこしにかかわる活動
- 趣味・スポーツ・芸術などの活動
- 自然保護、環境美化などの環境保全活動
- 災害時の救助などに関する活動
- 交通安全・防災・防犯などに関する日常的な地域活動
- 男女共同参画・人権擁護・平和に関する社会活動
- 海外支援・国際交流・在日外国人への支援など国際交流に関する活動
- 子育て支援、青少年の健全育成など児童育成活動
- 観光案内、観光ガイド作成などの観光振興活動
- 町の審議会や委員会などの施策決定に関わる活動
- 参加していない
- その他( )

問10 町から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうしますか。(○は1つ)

- 積極的に就任する
- 時間などの余裕があれば就任する
- 知識や能力がある分野なら就任する
- 断る
- わからない

問11 新温泉町のまちづくりや行政には、女性の意見が反映されていると思いますか。(○は1つ)

- 十分に反映されている
- まあまあ反映されている
- あまり反映されていない
- 全く反映されていない
- わからない

問12 政治や行政、さまざまな組織において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画の割合が低いといわれていますが、その理由は何だと思えますか。(○は2つまで)

- 家族、職場、地域、学校における性別役割分担、性差別の意識がある
- 女性を積極的に登用しようという男女共同参画意識の啓発・学習が足りない
- 家族の支援・協力が得られない
- 女性の能力開発の機会が不十分
- 女性の活動を支援する施策やネットワークの不足
- 女性側の積極性が十分でない
- わからない
- その他(ご意見がありましたらご記入ください。)

### 3 家庭での男女の役割分担についてお答えください

問 13 家庭での男女の役割分担について、あなたの家庭ではどうなっていますか。(○は1つ)

1. 男性は仕事、女性は家事・育児・介護を分担している
2. 女性は仕事、男性は家事・育児・介護を分担している
3. 男女とも仕事をし、家事・育児・介護は第三者（家族、ヘルパー等）の協力も頼んでいる
4. その他 ( )

問 14 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、あなたははどう思いますか。(○は1つ)

1. 賛成である
2. どちらかといえば賛成である
3. どちらかといえば反対である
4. 反対である
5. わからない

問 15 あなたの家庭では、家族における男女の役割分担について話し合ったことがありますか。(○は1つ)

1. 話し合ったことがある
2. 話し合ったことがない

問 16 あなたは、一般的に女性が仕事を持つことについてどう思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。(○は1つ)

1. 女性は仕事をもたない方がよい
2. 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、仕事をもち方がよい
4. ずっと仕事を続ける方がよい
5. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
6. わからない
7. その他（ご意見がありましたらご記入ください。）  
( )

問 17 あなたは、子どもにどのような性格や能力を期待して育てていますか。または育てましたか。女の子・男の子それぞれに○をつけてください。

(女の子、男の子ともに○は3つまで)

※子どもがいない人も、子どもがいるならどのような性格や能力を期待するかについてお答えください。

☆回答は次ページへ！

#### 【女の子】

1. 家事に関する能力
2. たくましさ
3. 仕事をこなすための能力
4. やさしさ
5. 礼儀正しさ
6. 自立心
7. 行動力
8. 忍耐力
9. 協調性
10. その他（ご意見がありましたらご記入ください。）  
( )

#### 【男の子】

1. 家事に関する能力
2. たくましさ
3. 仕事をこなすための能力
4. やさしさ
5. 礼儀正しさ
6. 自立心
7. 行動力
8. 忍耐力
9. 協調性
10. その他（ご意見がありましたらご記入ください。）  
( )

問 18 男性は女性に比べ、家庭生活（家事、子育て教育、介護など）や地域活動（社会福祉、生涯学習、消費者活動など）に参加することが少ないといわれますが、今後、男性が女性とともに積極的に参加していくために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 男性の家庭生活や地域活動への参加をしやすくするための学習機会の創出
2. 労働時間の短縮
3. 事業所との協力のもと、両性の仕事と家庭の両立を支援する体制の整備
4. 男性の家庭生活や地域活動への参加を進める必要はない
5. わからない
6. その他（ご意見がありましたらご記入ください。）  
( )



#### 4 パートナー等に対する暴力についてお答えください

問 19 家庭内で起こる暴力、特にパートナーや恋人といった身近な人からの暴力、【ドメスティック・バイオレンス (DV)】が問題になっています。このことについて、あてはまるものはありますか。(○はいくつでも)

1. 今までに暴力を受けたことがある  
暴力を受けたことについて——2. 相談したことがある  
——3. 相談したかったが相談しなかった  
——4. 相談しようとは思わなかった
5. 暴力をふるったことがある
6. 身近に暴力をふるったこと、受けたことがある人がいる
7. 暴力を受けて悩んでいる人から相談されたことがある
8. 地域で暴力を受けている人がいる、という「うわさ」を聞いたことがある
9. 身近で見聞きしたことはないが、テレビなどで知っている
10. 兵庫県配偶者暴力相談支援センターなどの相談機関を知っている
11. まったく知らない

※ドメスティック・バイオレンス (DV)：「パートナーや恋人など密接な関係にある、または過去にあった人からふるわれる身体的・精神的・性的・経済的な暴力」という意味で使われています。

問 20 あなたは、パートナー等に対する暴力防止への取り組みとして、特になんか必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 女性に対する暴力は人権侵害だという社会的な認識を高める
2. 男性優位の価値観を改める
3. 子どものときから、男女平等や自尊心、性に関する教育を充実する
4. 女性が経済的に自立する
5. 「配偶者暴力防止法」や「ストーカー規制法」などを十分に知らせる
6. 犯罪としてもっと厳しく取り締まる
7. 被害女性のための相談機関や保護施設を充実する
8. 加害者に対するカウンセリングなどの対策を充実する
9. 相談や支援に関する情報提供を進める
10. その他 (ご意見がありましたらご記入ください。)

#### 5 男女共同参画社会の実現についてお答えください

問 21 誰もが、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に、共同で平等に参画する社会を実現するために、新温泉町は何に力を入れていくべきだと思いますか。(○は3つまで)

1. 男女平等を目指した制度の制定や見直しを図る
2. 男女の家事、育児、介護への参画を推進する
3. 政策決定の場への女性の積極的な登用促進を図る
4. 男女共同参画に関するPR等をパンフレット・町広報紙等で積極的に行う
5. セクハラ(※1)やDV等、人権に関する相談窓口や支援体制を充実させる
6. 地域の各種団体の女性リーダーの割合を増やす
7. 職場における男女の平等な取り扱いの周知徹底を図る
8. 女性の就労機会の確保、女性の職業教育や職業訓練を充実させる
9. 保育所や学童保育所等の施設・サービスを充実させる
10. 高齢者等の施設や医療・介護サービスを充実させる
11. 学校・社会・生涯教育の場での男女平等や相互理解についての学習を充実させる
12. 育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにしっかりと利用できるよう啓発を図る
13. 女性の自立をめざす講座を開催する
14. 地域活動やボランティア活動の推進を図る
15. 家庭における子育て支援の充実を図る
16. 男女共同参画推進に向けた活動拠点施設を設置する
17. 労働時間の短縮
18. 特に対策の必要はない
19. わからない
20. その他 (ご意見がありましたらご記入ください。)

問 22 あなたは、ワークライフバランス(※2)に配慮した男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 意欲や能力のある女性を、採用、昇進などで評価する
2. 研修など職業能力の開発向上の機会を女性に提供する
3. 女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する
4. 男女とも育児・介護休業を取りやすくし、休暇後は、職場へ復帰しやすくする
5. 育児休業中の諸手当を充実する
6. 労働時間を短縮するなど、男女とも家事や子育てなどがしやすいようにする
7. 託児、保育施設を設置するなど、子どもを持つ男女が働きやすいようにする
8. 職場での女性に対する偏見、固定的な役割分担意識をなくすようにする
9. 特にならない
10. わからない
11. その他 (ご意見がありましたらご記入ください。)

※1 セクハラ：(セクシャル・ハラスメント) 性的嫌がらせ。

※2 ワークライフバランス：仕事と生活のバランスがとれ、性別や年齢にかかわらず人生の各段階において多様な生き方が選択できる状態。

問 23 次の男女共同参画に関することがらについて、あなたは知っていますか。

①～⑩の項目ごとにそれぞれお答えください。(〇は1つ)

	内容まで知って	はる聞 知が 知ら ない 内容 まで はあ	知 ら な い
① 男女共同参画社会			
② ジェンダー			
③ LGBTQ(エルジイビィティキユウ)			
④ SOGIE (ソジイ)			
⑤ ポジティブアクション (積極的改善措置)			
⑥ 女性のエンパワーメント			
⑦ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ			
⑧ ドメスティック・バイオレンス (DV)			
⑨ デートDV			
⑩ パワーハラスメント (パワハラ)			

問 24 男女共同参画社会づくりについて、ご意見ご要望がありましたらご記入ください。

ご協力いただき、ありがとうございます